大正九年九月十四日（第三種郵便物認可）
大正十五年八月一日發行（每月一回一日發行）

建築と社會

（第九輯第八號）

第九輯
第八號

日本建築協會
大正十五年八月一日

OTANI SAFE DOOR

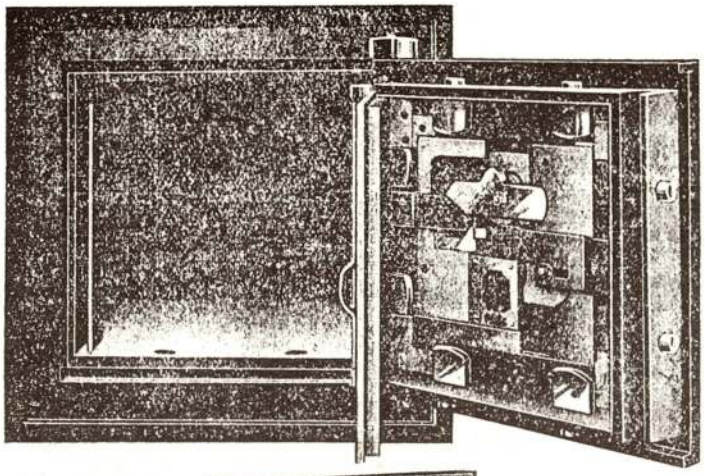
向上へ

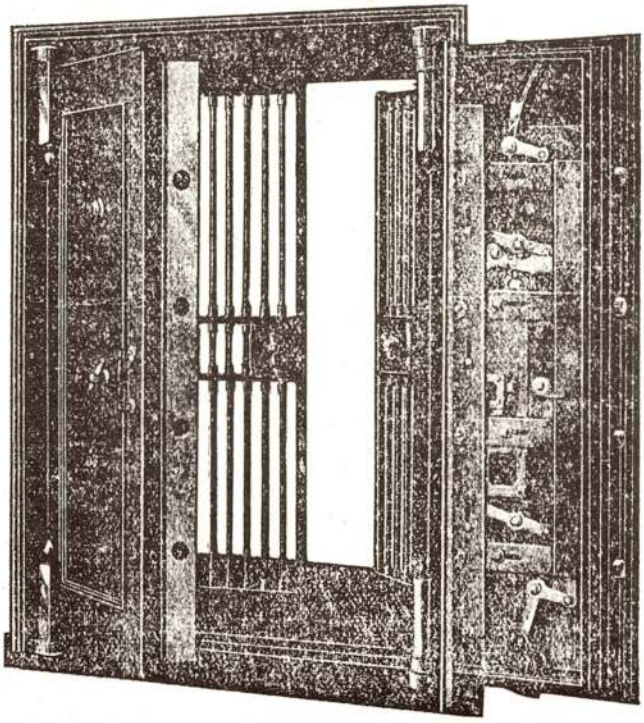
躍進又躍進！

需要製産ヲ超ヘ
純質名聲ヲ超ユ

卓超セル大谷金庫ノ技術

御採用アランコトヲ





東京 新富町
京都 松原通
大阪 淀屋橋
神戸 楠町六

移轉廣告

新營業所

大阪市北區中之島二丁目江商ビルディング四階

電話本局（長一八八一番 一八八三番 一八八二番

日米板硝子株式會社

同 大阪販賣店

（舊營業所 大阪市西區阿波堀通一丁目）

製品解說

製造方法　世界最新コールボーン式自動連續板狀伸延製造法ト稱シ幅六呎ノ板硝子ヲ長サ無限ニ連續製出ス

特　徴　精密ナル機械ノ標準ト硬化作用ニヨリ板面ハ反リ歪ミ無ク厚サ整等ニシテ質强靱ナルヲ以テ破損ノ處少シ

厚　味

二十四オンス品　並板（十六オンス）ニ比シ二倍ノ破壞强度及耐久力ヲ有スルヲ以テ學校病院工場會堂ビルディング等ノ高級建築及シヨウウインドウ用トシテ最適品ナリ

三十四オンス品　汽車電車等ノ窓硝子トシテ賞用セラル

加工品　摺　結霜　春霞

和洋建築窓、家具等ニ使用シテ頗ル優美ナリ



建築と社會第

八馬邸の内外
▲外觀
▲座接室
▲階上、階下平面圖
▲食堂
▲階段室と化粧室
口繪

■時代を創るもの……（一）
●核心に觸れざる住宅問題……平賀周（二）
●建築と木材……兒玉孝顯（六）
●大阪市高速鐵道計畫の概要……清水淵（九）
■某氏の住宅（一―三）……（一六）
●實費計算に關する尚ほ一三の研究問題……岡田宗一（四〇）
●ゴシック藝術（下）……柳宗悅（一九）



九輯第八號目次

●獨墺地方の都市……姪夢哀生…(一七)
●ウ井ーンの田園都市……上野伊三郎…(三二)

◇—◇

●近世劇場構造……Edward Bernard Kinsila 池田谷久吉譯…(四五)
●線を凝視めて……大須賀巖…(五三)
●建築の惱み……八洋生…(五四)
●建築の末梢神經……北村哲雄…(五七)
●家(一—五)……大熊喜邦…(五九)

◇—◇

●八馬邸工事概要……(六一)
●セメント試驗方法改正案に關するお話……M I生…(六三)
■俳壇 五月雨(梅雨つゆ)螢……齋藤溪舟…(七二)
■俳話 幼稚な句のはなし……溪舟…(七四)
■日本建築協會々報……

新革之料材「壁」

専賣特許



アサダセメント、プラスター

特長
- ○施工迅速　○色澤高尚
- ○安全堅固　○工費低廉
- ○耐濕耐火　○防錆防腐

兵庫縣飾磨港

飾磨化學工業株式會社

東京販賣所　東京市日本橋區本町三丁目山口ビルヂング五階　建興社

電話飾磨（六一）〇一六番
電話大手（自九七五七番至五七九番）

専賣特許



乞御試用

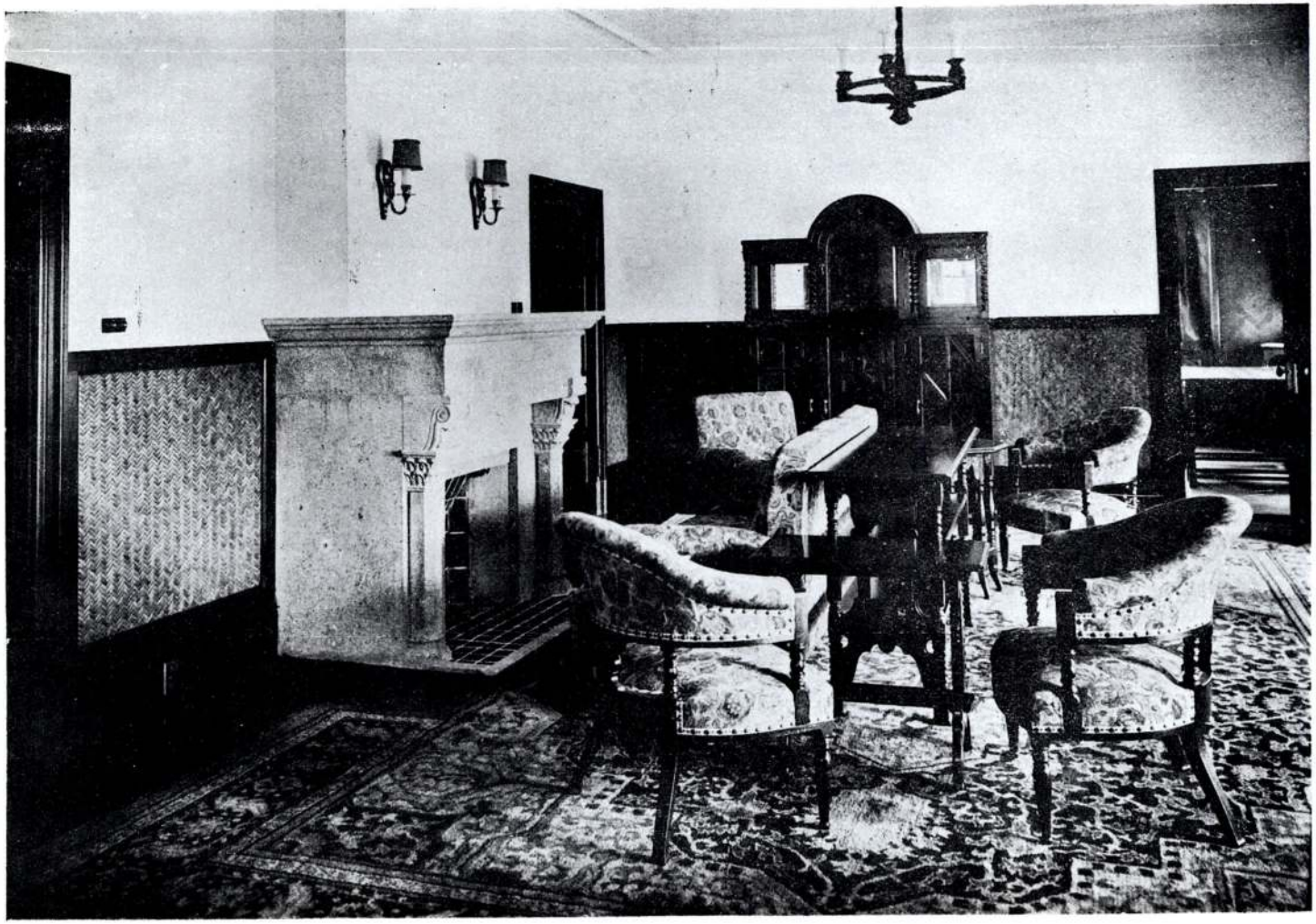
アサダ・白色ポートランド・セメント

特長
- ○高尚ナル純白色
- ○強力甚大、膨脹龜裂ノ虞ナシ
- ○緩結性ニシテ使用容易
- ○凡テノ性狀普通「セメント」同等以上



八　馬　邸

—— 兵庫縣武庫郡芦屋 ——



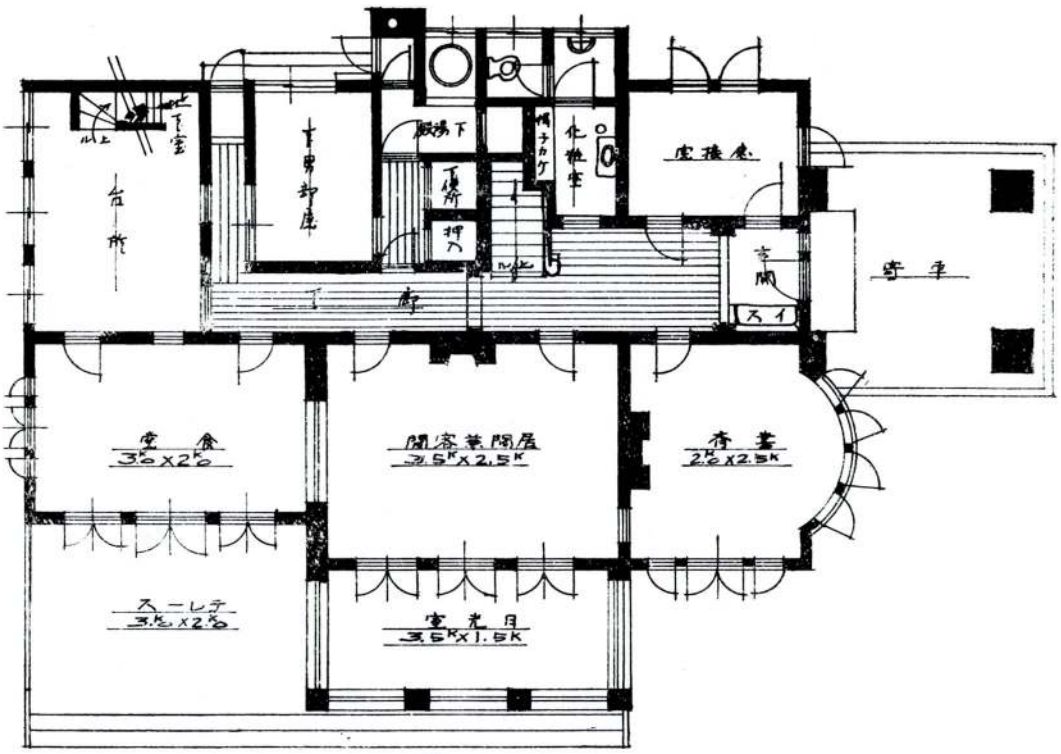
八　馬邸應接室



八馬邸食堂



八　馬　邸　階段室と化粧室


台所
玄関
廊下
食堂
3.5K×2.5K
開閉兼間屋
3.5K×2.5K
書斎
2.5K×2.5K
ベーレテ
3.5K×2.5K
室先月
3.5K×1.5K
客室
客間
トコ
寝室
寝室
小間
寝室附小
小間
廊下
化粧室
上湯殿
洋室
洋間
洋室
洋室附小

一階

二階

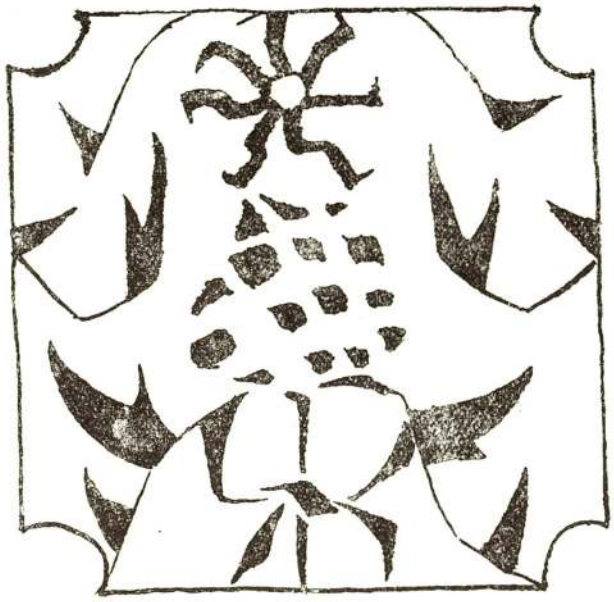
圖面平邸馬八



時代を創る考

ヴントの民族心理學に據れば、藝術や學術の如きは、原始人類より既にその發達を伴ふて居るよてである。殊に、建築の業務に至つては、それが、實用以上のものに成長して、藝術の領野がはつきりさなつて來たのは、人間の慾求が精神的になつて、其處に宗教的交渉の始まつたさきからである。即ち、初めには程度の低いものではあつたが、美的欲求の現はれさ成り、それが、漸次に進化的分離を遂けて、ついに、宗教さ藝術が岐れたので、之を實際に示すものは、埃及に於ける墳墓である。氏ヴントは『靈魂及び祖先崇拜の影響の下に、死者殊に高貴の人々のために壯大なる墳墓が作られ、これに對して靈界及び永遠の感が起され、それが更に此の紀念的建築の動機さなり、實用以上の建築を促すのである』さ。——建築が時代の精神を象徴するさいふこさは、要するに、恐らくは無窮に伸んで行くであらう處の人類の創造的進化に於ける一表現に外ならぬ。從つて、そこに、停頓もあり、退化もあり、たゞ足踏みするのみのものもあり、分岐點もあり、離脫もあり、遙に進出するものもあらう。近代日本に於ける建築は、その孰れを具化してゐるのであらうか。そうして、將來のそれはさんなものであらうか。少くさもその機運の一歩先きに辿る者は、克く時代を創造するものである

（江　村）



核心に觸れざる 住宅問題

平賀周

一

住宅問題や改良住宅や文化住宅などゝ稱して、都市に於ける住宅問題のやかましく論議せらるゝのは結構であるが、徒らにそれが、中産階級以上か又は俸給生活者のための改良や改善で、衞生上から見ても風紀上から見ても、最も其の緊急に迫られて居る勞働者階級や、貧民階級のための論議なり實際上の施設の乏しいのは甚だ遺憾である。

二

世界大戰後に襲來した不景氣は、重苦しい影を全國民の上に投げて、生活不安の叫びは、都市といはず、農村といはず天の聲、地の反響となつて居る。生活の要件は言ふ迄もなく衣食住であるが、衣食の方は割合に簡單なるに反して、住宅の問題は最も面倒である。衣や食は下級の勞働者でも、其の日其の日に働いた勞銀で、自ら需要を充すことは出來るが、住宅はさうは行かぬ。比較的高い家賃に壓迫せられて苦しまざるを得ぬ。加之家賃の三倍か四倍の敷金を一時に徵收せられる。如何に寬大な家主でも敷金は取る。

家賃にしても高いものは其の日稼ぎの者に取つては、到底負擔に堪へられぬ。從つて少しでも安い家賃のものを撰ぶ。

之れを供給する家主にしても、安い家賃では、これに相當する丈けの資金ほか投ずるわけには行かぬ。從つて建物は狹小な、粗雜なものとなる。これは經濟上の原則から來る當然の歸結である。かゝる狀態で改良費もかけるわけに行かぬ。必要な修繕費も思ふ樣に出すわけには行かなくなる。一朝家賃でも滯れば直ちに嚴談を受ける、立退を迫られる。己れの義務の怠慢を知りつゝも家主を怨むことになる。思想の惡化はこゝから生れて來るのである。

食物や衣服に對する不平不安は輕いものであり、一時的のものである。時々其の不平不滿は療すことが出來る。けれども住宅に對する不平不滿は、一年中を通じて毎日である。故に吾人は社界思想惡化の最大原因は、住宅に對する不滿より來るものより大なるものはないと信ずる。

三

歷代の政府は何れも社會政策を高調して居る。政黨も皆社會政策を標榜して、時代の要求に應ぜんとしつゝある。社會事業家も凡ゆる社會施設に向つて努力して居る。都市に於ける社會施設は益々擴張せられつゝある。施療機關でも、兒童保護施設でも、不具不幸なる者に對する施設でも、或は職業紹介や公設市場や公設質屋や、其の種目からいへば可なり多い。けれども失業者は決して減せぬ。生活不安は益加はる。

從來の社會事業なるものは、老人であるとか孤兒であるとか、病者であるとか、特殊な不幸不運な人達を救ふべく計畫せられて來た、けれども今日となつては社會全般に均霑する樣な施設でなければ、效能が薄くなつて來たのである。サンプル的な社會施設では間に合はなくなつて來たのである。例へば乳兒院を一つや二つ作つて見た所で、大都市全體の乳兒の保育にどれ丈けの效果があるか。又三つや四つの質屋を公設でやつた所で、どれ丈けの資金融通の效果があるか。今日の社會施設は徹底的に大々的にやらなければ間に合はぬ樣になつて來て居るのである。

四

住宅問題にしてもさうである。文化住宅や改良住宅を建てゝ、俸給生活者や中產階級の人の滿足を買ふことは出來やうが大多數の勞働者には何等の反響もないのである。大多數の勞働者は依然として、舊來の陋屋に、舊來の家主の暴壓に苦しめられつゝ、不安なる其の日其の日の生活を送りつゝあるのである。

大阪市の如きは近來市內各方面に合宿所を作つて、獨身の勞働者を收容しつゝある。寔に結構なことであるが、それは獨身者の比較的に生活の簡單な、係累の少ない、氣樂者の便益に資する所が多い丈けで、最も必要に迫られて居る家庭持ちの勞働者には影響がない。

かく觀じ來れば家庭持ちの勞働者に對する住宅施設が最も欠げて居つて、しかも最も急に迫られて居るといふ結果になつて居る。これは營利本位の家主に求めても到底出來ぬ相談であつて國家なり公共團體の力を借りなければ出來ぬことである。一日も斯の方面に對する大々的施設が望ましい。

五

貿易の不振と産業界の沈滯を挽回するがために、生産費の低減といふことが主張せられ、從つて勞働賃銀の低下が唱へられて居る。それには相當の理由はある。けれども現在の産業狀態に於て、資本家の得る利得と勞働者のそれとを比較して果して如何なものであらう。會社に於ける株主の配當に比較して、勞働者の賃銀を低下せしめやうとするのは、果して生産上の分配の合理主義に立脚したものであるか否か疑問なきを得ぬ。假りに相當の根據あり、合理的の主張であるにせよ之れを主張する前に、一度彼等の生活殊に住宅問題に想到したならば、何人でも先づ安價なより多く生活の慰安を得る住宅を提供することが、先決問題であることに氣付くであらう。與ふべきものは與へ、然る後責むべきものを責め、求むべきものを求めなければならぬ。故に吾人は高處より見て、勞働者に對しては何より先きに住宅問題を解決し、然る後賃銀問題を議するを順序と信ずるのである。

六

歐米諸國を視察して見て、最も幸福なのは米國の勞働者である。最低一日五弗六弗の高い賃銀を貰つて、立派な住宅を供給せられて、比較的安價に得られる食糧品を得て、勞働時間も少なくて、生活の怡樂を得つゝある。しかし無盡藏の天然の物資に惠まれ、有り餘る資本力に幸せられ、能率の高い機械力に依つて生産せられた品物の價格は安く、世界の市場に優勝の地歩を獲得しつゝある米國は、何たる幸福の國であらう。かゝる勞働者の國には、社會主義も、過激思想も芽生へせぬ筈である。世界を通じて日本の勞働者程慘めな住宅を與へられてるものはないのである。

七

一昨年英國に在つた際、勞働黨の內閣は勞働者救濟失業救濟の目的を以て、大規模の住宅經營を計畫しつゝあつた。勞働者の住宅二十五萬戶を十五年間に建設するといふのであつた。寢室三、座敷二間の家で一戶の建築費は五千圓である。そして、勞働者より得る家賃は一週九志で、政府は一戶一年九磅を補助し、四十年間之を繼續するとのことであつた。餘りに大きな計畫なので、果して實行が出來るかどうか危ぶんで居つた程であつた。其の後內閣はかはつたし、保守黨內閣は果して其の案を踏襲したか否か聞かぬが、流石に英國丈けあつて、徹底した案だと思つた。當時英國は每月十餘萬人の失業者が增加しつゝあつたのである。

墺太利の如きも世界大戰後、疲勞と絕望の底に沈んで居る國で、積極進取の氣魄は全く失せて居る。然るに一九二四年以來大規模の市營住宅の建設を行つた。最初は市稅たる家屋稅を廢止して、家屋稅の轉嫁より生ずる家賃の騰貴を防止せんとしたのである。けれどもそれには色々の困難があつた。そこで今度は一面に住宅建築稅を起して財源に充て、一面には一般市費を支出して、住宅建築を試みた。一九二五年には八十戶の共同住宅と千戶の小住宅とが計畫せられた。八十戶の共同住宅には一萬戶の家族を收容することが出來る。

戰後失業者頻出し、貧民激增し、住宅の不足を生じ、王宮であつた一部を一時其の收容所にしたと迄いはれた位窮亡を極めたものであつたが、窮亡に直面しつゝある國でも、尙且

つ社會施設として、かゝる英斷的な事業を起すことを見ると我國は大に恥ぢ入らざるを得ぬのである。

八

我が大阪市には土地會社も多くある。住宅會社も大きいのが澤山ある。大規模の住宅經營をやつて居るが、未だ曾つて勞働者階級のために、住宅經營をやつた例は聞かぬ。採算がとれぬからである。營利會社では出來ぬ相談である。これはどうしても市がやらねばならぬ。市費を以て相當な財源を捻出して一日も早く手を着けねばならぬ吃緊の問題である。

社會事業のサンプルはもう澤山である。

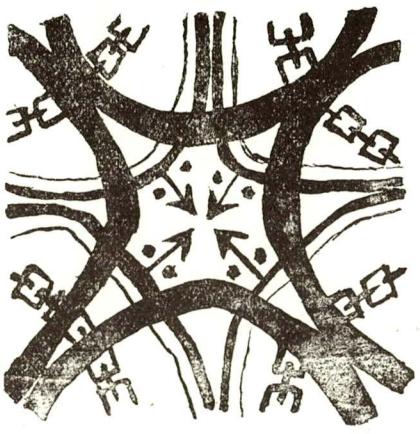
徹底した、眞に社會政策に徹底した住宅問題に手を着けて貰ひたい。建築界に於ても模範的の勞働者住宅の設計を提供して、市民の注意を喚起して貰ひ度いと思ふのである。

〔家(一)〕能率一點張り

所謂文化住宅の弊

大熊喜邦氏

私達は昔の家の懐かしさに深い執着を持つが、今は昔そのまゝのものが住み心地よい家であるとは言へない。時代が移り、生活が變れば、その居るところの家の樣式も、自然變つて來なければならないのは道理であらう。元來日本人の今迄の生活は、すべてに於て、餘り過剩過ぎてゐた、家そのものゝ外に、家具にしろ、什器にしろ、先代先々代のものが餘りに多く納戸に收められて、一つの裝飾として家柄を誇らしげにも、亦憐かしく、かなり執着さと尊大さの歷史的な生活慣例に生かされて來た。そこで、近頃の實際の要求に驅られて、必然にして自然な單純な生活を望んで、所謂文化的生活を營む家なるものへ、積極的な要求を傾けて來たと言へやう。こういふと、餘りに理窟に走り過ぎる樣ではあるが今日の事實はそれを物語つてゐる、かなり明瞭にそれを裏書してゐる。所謂文化住宅の出現、都會はともあれ、今は津々浦々まで行渡らんとしてゐる文化住宅のそれが、たゞ一時の物すきや、衣物と同じ樣な一季半季の流行であるとは思へない。相當に金の掛る丈け眞劍である。然し殘念なことには、其の文化住宅の總てが住んでゐる人に取つて、果して住み心地がよいかどうか疑ひがある。私達はいつ如何なる場合にも住心地よい家を離れては生きることの出來ないのを痛感する。然るに斯も普遍的になつて來た、所謂文化的の家に近頃ある特殊な誤解、一種の偏重な見解が挾まれ來て、住よい心地が味はへない樣であつては、私達は餘りに情ない。そんな歩みをいつまでも續けて行きたくはないものである。近頃の家に、ある特殊な誤解、一種の偏重な見解が挾まれて來たと私は言つた。所謂文化的の家といふものに、住心地よさが味はへないといふ弊がある樣になつて來た事は、餘りに盲目に普及された、それに對する一つの反動的現象であると見てもよい。而してその盲目であるといふ事は、誤解と偏重な見解を、たゞ譯もなく取り容れたからであると思ふ。近頃の流行の家、所謂文化住宅の名に襲はれてゐるものは、簡易生活に餘りに偏重し過ぎた實利一遍の學、能率一點張りで「ゆとり」と落付を忘れ、團欒のホームと、事務室と混同する樣な誤解に陷つたのではないかと思はるゝ樣な家、家族本位に餘りに重きを置き過ぎて人は訪れて來なくもよい、凡ての人は玄關で追拂へば濟む、と家族本位に偏重した樣な家只もう外觀にばかり力を入れ、それも何となく「せこませく」おつとりとした氣持がない外にばかり氣を取られた家。耐震とかの實用に過ぎて趣味といふものゝ窺はれぬ家。などで、一通りの室を無理に押込んだ、住宅の縮圖みた樣な家もまたこの仲間にはいるものであらう。



建築と木材

兒玉孝顯

一

我國に於ける木造建築は其の歴史古く、美術的に發達せる點。其の樣式の華麗にして木組技工の優秀なる點は諸外國の夫に比し誇るべきものが少なくない。之等は多く材料の豐富な時代に於て木材の節約などと云ふ事を考へる必要も無く專ら美術的に造り出されたものとも考へられぬでは無いが現今世界的に木材の欠乏を來しつつある時代に在りては各種の建築に於て最も有効に木材を使用することに深く注意を拂はねばならぬと思ふ。

近時鐵筋鐵骨コンクリート、煉瓦、石造等の大建築が各都市に漸時增加して來たものの之等は概ね大會社工場などに過ぎないので昨十四年中大阪市内家屋建築の狀勢を見るも新築棟數二〇、五一〇棟中木造は二〇、〇七六棟即ち全數の九割八分に及んで居る有樣であるが今後共人口の增加其の他に伴ふ住宅向建築の大部分は木造に依るものが多いと見なければならない。是れ木造建築は邦人の趣味と嗜好とに合し、又人情風俗に適して居ると云はるるのみならず實に濕氣に富み且つ温暖なる我國の氣候風土に最も良く適ふて居るといふ衛生的見地から云ふても容易に捨て難きものとせられて居る。只地震や火災に對しては抵抗力乏しく憂慮さるる點が多い樣であるが關東大震災の經驗に徵するに地震に對しては石造或は煉瓦造のものは全く駄目である鐵筋（鐵骨）コンクリート造のものが相當に耐へ得るが矢張骨組其の他に充分に手を入れた木造建築が最も耐震力が大であると稱せられて居る。淺草の觀音堂、上野の五重の塔や芝の山門が笑ひながら東京會館に向つて『ドウデス？地震ハ今ガ始メテデハナイガ』と云つたと當時或新聞に出て居つた。獨り古き木造建築に限らず普通木造建築でも倒壞した樣のものは多く土臺や柱の腐朽しかかつたもの或は極く粗末なもののみであつて普通に建てられたも

のは僅かに屋根瓦が辷り落ちたり又は建物が少しく傾いた位のものが關の山であつて大部分が安全であつたので如何に木造建築が地震に對して強いかが認められたのである。惜哉火災に對しては頗る弱いので關東に於ける大慘害も多く火災に原因して居るのであつた。然しながら近年耐火劑の研究により之を木材に浸透せしめ又は塗布して容易に燃燒せしめざる加工が漸時進歩しつつあるから遠からず其の危險度も相當に減少せらるるものと思ふ。

二

飜て木材供給の狀態を見るに大正十三年中の用材總需要高は內外材を合せて約四千八百萬石と推算され、內一千百萬石は外材の輸入に依つて漸く需要を滿して居る現狀である。此の大量の木材は勿論建築以外の土工、造船其の他各種の用途に向けられるものであるが、建築、建具向としては略ぼ此六割位が使用せらるゝのであるから材積にて二千九百萬石價格にて一石平均拾五圓と見て四億參千五百萬圓に達するのであつて木材需要高は全く建築界の消長に支配されると云ひ得るのである。

斯の如く、木材の需要は年と共に其の量を增し供給は國內生產材を以てしては斯く其の一半を滿たすに過ぎず而かも年と共に其の生產量遞減の傾向あることは一日も意を安んずることの出來ない事柄であつて國土の六割以上を占むる山林の蓄積が如何に貧弱で且つ其の生產力が充分に使はれて居ない部分が如何に莫大であるかを物語るのである。此の難關に善處して木材の需給關係を平衡狀態に導くと云ふことは一朝一夕にしては到底實現覺束ないことであらうが林政上目下重要問題の一として旺に論議せられて居る其の方策は一言にして言へば一方林野の生產力を充分に發揮する樣に巧に天然力を利用し之を補ふに人工を以てして極力木材の增產を圖ると共に他方極力木材の消費節約に努むるといふことである。即ち木材供給の增加策としては先づ森林愛護の念を一般に涵養して森林火災やら蟲害其の他の被害を無くするといふことを前提として苟も林野と名の付く處には樹木の無い處が絕無であると思はるゝ樣に殖林を行ひ、又伐採したならば直ちに天然力なり、又人工に依つて造林を行つて將來伐採前の森林に比し量に於ても又質に於ても一層優位の森林を仕立つることに努むると共に一方交通運搬の便なきため吾々の利用し得ざりし奥部未利用林地方に向つて大いに交通運搬の便を圖り千古斧鉞の入りしこと稀なりし森林を伐採して遺利を尠なからしむるといふことである。一方木材の消費節約に就いては是又國民一般の自覺に俟たなければならないことであるが假りに年需要用材量の一割を節約し得たとしたならば其の額が實に四百八十萬石に達するのである。而して建築材の規格を統一することは木材消費節約上重要なことゝ思ふ。外國では建築の規格が統一せられて居るそうである。然るに我國では關東と關西とに於て夫々規格を異にする現況に在りては素材の利用上其の間の融通性を缺く關係上往々にして無駄を生ずる場合あり且つ商取引上煩累を來すことが多いのである。最も建築樣式は永い間慣習の然らしむる所であつて一朝一夕に改むることは困難と思ふ。又吾邦は天與の森林國であつて樹種の多きと而も性質優良のものも尠くないので古來消費者が樹種に對し

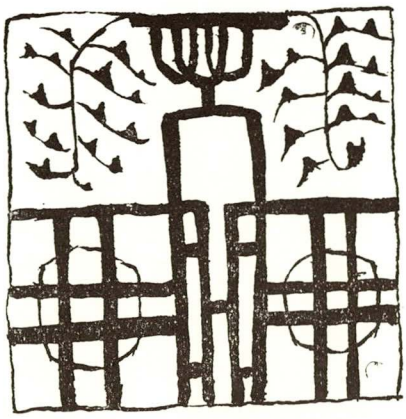
餘りに贅澤過ぎて居る傾がある樣である。即ち建築材としては先づ針葉樹を主とし之に加ふるに最も優良なる濶葉樹を極く小量に使用するを常とし吾邦に最も多量に生産する「ブナ」「ナラ」等は殆ど顧みられざるため已むなく薪炭の原料に潰されて居るのである。然し乍ら伐木時期と乾燥と製材との妥當を得たならば建築材として充分に其の効用を完うし得べきは獨塊等林業先進國の實例に徴して明かなる事實なるを以て努めて蓄積豊富なる濶葉樹を建築材として利用促進を圖り尚必要に應じて防腐劑を使用して耐久力を增大し又防火劑を塗布して燃燒の危險度を低減せしむることに努めたならば木材の消費節約上効果ありと思ふ。

〔家(三)〕 鴨長明の方丈記

この氣持が根本

大熊喜邦氏

それ三界はたゞ心一つなり心もし安からずば牛馬七珍もよしなく、宮殿樓閣も望みなし今さびしき住居一間の庵みづからこれを愛すおのづから都に出でては、乞食となれることをはづといへども、かへりてこゝに居る時は他の俗塵に著することをあはれぶ。もし人このいへることを疑はば、魚鳥の分野を見よ。魚は水に飽かず魚にあらざればその心を知らず鳥は林を願ふ。鳥にあらざればその心をしらず。閑居の氣味もまたかくの如し。住まずして誰かさとらん。と、鴨長明はこう言つてゐる。方丈の庵も、みづからの好みにまかせて、思ふがまゝに作らせたものなれば、愛着の心も出やう。魚は水に飽かず、鳥は林を願ふと魚鳥に譬ての執着の心、長明の如き厭世家でも、猶ほ且つこの氣持でゐる。家は愛すべきもの、執着の心あるべきもの、おのれも愛し、妻も愛し、親も子も共に愛する家こそ樂しい家、住心地よい家である。家そこに吾々の生活は深く根を下して、一種不可思議な因緣を形造つてゐる。樂書をして叱られた座敷の襖朝夕に禮拜を怠らなかつた神棚や、佛檀の樣子、茶の間の調度、臺所の具合から、便所、椽側の隅々まで、幼い頃からの記憶は家は變つても、いつも懐かしみを以て流れ出て來る、食べたもの、着たものは忘れても住つた家には忘れられぬ記憶があり、いつまでも頭に甦つて、十年二十年、恐らく死ぬまで忘れられぬのである。この不可思議な因緣、拗執な執着の心が、新しく家を造らんとする人の考へに、いつも頭を擡げて來るもので、新しい家の間取や考案に、もとの家の樣子が現はれて來るか、または引合いに出されるのが常である。こゝいふ風にして、もとの家から取入れられる懐かしみと、住心地のよかつたところが、段々都合よく組合されて樂い家となり、また一層心地よい家となるものである。家はそれほど懐しいものであるから、樂しい家が欲しく、住心地よい家が望ましいものである。家は生活の容器であると言はれてゐるが、人形の家ではなく、箱の樣なものでもない、そこに這入り住む人は生きてゐる。家は生命の寶庫であると考へられてゐるが安全である計りが能でもない。衣食の樣に自分の思ふがまゝに營まれるものである。過去の懐かしさを取り容れて、更に樂い住み心地よい家が造られる筈である。



大阪市高速鐵道計畫の概要

清水淵

本年三月二十五日官報を以て大阪都市計畫高速度交通機關路線を都市計畫として決定し內閣總理大臣の認可を得て公告されたので大阪市の高速鐵道の主要なる經過地點及路線が正式に決定されたのであります官報の都市計畫の公告を原文のまゝ記載すれば左の通りであります。

都市計畫公告

官報第四〇七六號　大正十五年三月二十九日

大阪都市計畫高速度交通機關路線左の通決定の件認可す

大阪都市計畫高速度交通機關路線

各路線の起終點及重要なる經過地點迄延長左の如し

第一號線

豐能郡豐津村大字榎阪より東淀川區北川口町。國有鐵道東海道線大阪驛。都市計畫路線御堂筋線。南海鐵道線難波驛西端。都市計畫路線難波住吉線。浪速區市電大國町交叉點國有鐵道關西線天王寺驛南側。住吉區西田邊町を經て住吉區我孫子町に至る　延長約十二哩四分

第二號線

東成區森小路町南端より都市計畫路線善源寺町野江線。北區天神橋筋六丁目新京阪電車線終點南側。阪神電鐵北大阪線。國有鐵道東海道線大阪驛。都市計畫路線北野線。北區扇橋南詰。東區天神橋南詰。都市計畫路線松屋町筋線を經て國有鐵道關西線天王寺驛南側に至る　延長約八哩五分二厘

第三號線

浪速區市電大國町交叉點より都市計畫路線難波住吉線を經て西成區玉出町南端に至る　延長約二哩三分一厘

第四號線

港區築港棧橋東側より市電築港。同線花園橋停留場。西區伯樂橋西詰。都市計畫路線長堀線。東成區大今里町。大阪市區改正設計二等大路第一類第十九號線。住吉區今林町西

端。住吉區平野泥宮町。國有鐵道關西線平野驛西端を經て住吉區平野西脇町に至る　延長約十哩六分三厘

右公告す

大正十五年三月二十九日

内閣總理大臣　若槻禮次郎

而て　官報には線路圖を添付されては居らねど大體の線路の位置を圖示すれば別圖の通りで第一號線の一部が豊能郡に出て居る以外は全部市内で南北に二線東西に一線といふことで全市に亘る交通の主要なる幹線となるのであります。

大都市の交通路の基準となるべきものは高速にして大量輸送を遂行すべき高速鐵道であらねばならぬ路面電車や自動車は必然的に其補助交通機關として全市の交通を遺憾なからしむるものである道路は此等の交通機關の通路ともなり枝葉ともなりて更に其の交通を完からしむるものであります我が大阪市が大正八年に都市計畫街路の具體案を確定すると同時に高速鐵道敷設の調査を始めたのはそのためであります大正九年大阪市長は大阪市高速鐵道路線撰定に關する調査を鐵道協會及土木學會の兩會長に依囑し兩會長は斯道の權威者を委員に擧げ數年を其調査に費して有力なる報告書を提出され市は其報告書に據り實地に就きて詳細の考究を遂げ漸く大正十四年十月に至りて其の成案を得たのでこれを參考資料として内務省に於て内務鐵道大藏三省の關係局課長等により協議會を開催されて決定されたのが本年都市計畫として決定公告された高速鐵道路線であります

大阪市内外に亘る交通機關の現狀は國有鐵道や郊外電鐵が遺憾なきまでに市の周圍部に行渡り何れも其終點が深く市の中央に近く進入し其施設は互に利便と完備とを競ふて日本は勿論歐米の大都市に比肩しても遜色なき程度に發達して居るのであります國有鐵道では東海道線、關西本線城東線片町線西成線あり郊外電鐵では阪神、阪神急行、新京阪、京阪、大阪軌道、大阪鐵道及南海鐵道の阪堺線、本線、住吉線、平野線、高野線の各線路が市の周圍部に各其の領域を定めて盛に交通の利便を發揮し郊外居住者を誘致して居る有樣であります

而して大正十年二月に市電の交通調査を實施した結果に見ても梅田方面で乘降する市電一日間の乘客數は九萬二千人難波千日前方面では同上九萬八天滿橋四萬三千八上本町六丁目四萬五千人惠美須町五萬一千八湊町一萬九千人といふ數を示して居り今日では更に三割以上を增加して居る筈であります

斯る多數の乘客を市内に分布輸送するに市電本年度の線路延長は約五十五哩で全部路面電車であり南北の主要線路は梅田難波間の南北線梅田堺筋に通ずる堺筋線の二線東西には同樣玉造築港線と九條高津線の二線あるのみである市電乘客の混雜するのは當然であります堺筋線の一日間通過乘客數は十四萬人南北線同上十萬人築港玉造線及九條高津線は何れも五萬人を算し南北主要線路の如きは既に路面電車としての輸送限度を超越して悠々高速鐵道としての輸送量に達して居るのであります

飜て郊外電鐵の發展振を見るに何れも自己の領域に向て勝手に延長發達して各己別々には誇るべき發達を示して居るが各會社相互間には何等の連繫もなく、何等の相關聯せる計畫もなく、全市に亘る交通機關としての統一を缺て居るのであ

ります從て大阪市が全市に亘る高速鐵道の計畫を樹るに當て是等郊外電鐵線路即ち現在に於ける市の周圍部に亘る主要交通幹路を統一してこれを市内に延長し一貫したる完全なる交通幹線を定めんとするには各種の障碍に行當りて現時の狀態に於てこれを統一的に計畫することは至難と謂はねばならぬのである更に是等多數の會社線を何れも市内の高速鐵道線路に連絡して各會社の滿足すべき車輛數を市内に乘入れんとするには其線路數を制限さるゝ第一期計畫線に於てこれを實現せしむることは不可能に屬するのであります斯くて今回の第一期計畫としては現在の各會社線とは停車場に於て乘換連絡の方針を採り市の周圍部への延長路線は現に交通機關の施設なきか若くは其利便に乏しき方面を撰び現に郊外電鐵線路の施設充分なる方面を除外して市自身の新領域を新に開拓すると同時に全市に亘る交通の利便を增進することに定めたのであります舊市内に於ける高速鐵道の經過地點は現在交通の幹線たる梅田難波方面及梅田堺筋方面に向て南北二條東西に在ては其交通量に應じ差當り築港玉造線の一條を選んだのであります

高速鐵道は地下若くは高架の專用軌道でなければならぬ從て其施設には巨額の工費を要し一時に全市に亘る大計畫を實現することは出來ず又乘客數の充分なる見込のなき場所へは採算上敷設することは出來ぬのである

從て「高速鐵道が全市に亘る交通の幹線で路面電車は其の補助機關である」といふ理想は全市が發展して高速鐵道が全市に行渡つた後の話であつて高速鐵道の敷設さるゝ當初は全くこれと反對の現象を呈し「高速鐵道は路面電車の乘客混雜を緩和するために路面電車の主要路線を補助する目的」を以て主要路面電車線に併行してこれを敷設するものである今回撰定されたる高速鐵道第一期線が即ちそれであります斯くて第二期の延長第三期の延長增設も逐次實現するのであるが兎に角其工事は巨額の資金を要し敷設當初は充分の收益を望むことが不可能であるを以て容易に其增設を望まれざるものと思はるゝので第一期線の計畫には各種の考究を必要とするのであります

大正八年以來調査考究されつゝありし大阪市の高速鐵道も都市計畫として決定せられ大阪市は本年度に於て調査費十九萬五千圓を豫算に計上して市會の議決を得着々實施設計を進めて居り又本年三月の市會に於ては高速鐵道敷設出願の件を議決して現に特許出願中であります而して實施設計の調査も十五、十六兩年度(豫算約四十萬圓)を以て是非共これを完結せしめ工事着手の一日も速かならんことを期して居るのであります調査の進行に伴ひ高速鐵道は更に都市計畫事業として都市計畫地方委員會の決議を經て其具體案を內閣總理大臣の認可を受け又市會に於て事業案としての議決を經て愈々本工事着手となる筈であります

斯くの如く大阪市高速鐵道として今日正式に決定せられたるものは既述の官報公告に依る四條の線路の經過地點だけであり其經過路線の詳細なる位置、施行年度及其工事の設計等に關する事項は高速鐵道事業として正式に決議せらるゝまでは確定的のものはないのである。

尙事業決定に至るまでに實地に就に測量調査の結果多少豫定と異る點も出來るものと思はるゝが今其の工事其他に就て

の私見を述れば大略左の通りであります

一、線　路

線路延長（全部複線）　三十三哩八分六厘

内　譯

地下線　十三哩零分七厘

高架線　二十哩七分九厘

第一號線　延長十二哩四分

起點豊能郡豊津村大字榎坂小字藏人より南へ新淀川南岸迄が高架でそれより地下線となり舊市を縱貫して天王寺驛の南側に至り高架線となりて吾孫子町終點に至る

第二號線　延長八哩五分二厘

起點東成區森小路町南端より淀川西岸まで高架線でそれより地下に入り舊市を地下線で終點天王寺驛南側に至る

第三號線　延長二哩三分一厘

起點浪速區大國町より南へ關西鐵道線路を地下線で橫斷しそれより高架線となりて終點玉出町に至る

第四號線　延長十哩六分三厘

全部高架線

二、建　設　費

建設費總額　壹億六千貳百參拾萬圓

三、工事方法の概要

線路は用地の買收費を減少するため可成既定の都市計畫街路及既設街路上に設置することに力め市の中央部に在ては街路上車馬の交通に障碍を來さゝるため可成これを地下線とすることに定め市の周圍部に在ては街路の美觀を損せざる構造より成る高架線路とし結局高速鐵道として其工事費の最も低廉なるべき方法を採たのであります

高速鐵道は大量輸送の外に高速運轉を唯一の目的とする以上は市民の集散する目的地まで出來得る限り短時間で到達することが理想であります從て停車場の位置も可成多數乘客の集散すべき主要街路上にあることが必要である而して地下線にしても高架線にしても停車場より沿道の高層建築物と直通路を設くる必要も起り停車場内の乘降場より街路上に出ずして直ちに高層建築物の内部に達することを得るのであります最大十輛連結の列車（普通は五六輛）を運轉するものとすれば乘降場の長さは約百間を要し市内の停車場の距離も約半哩（約四百四十間）を標準とするを以て沿道に存在する高層建築物と直接通路を作り得る可能率も可なり多いのであります

用地費を含まざる線路の工事費は地下線に比し高架線の安價なることは勿論であります然れども御堂筋線の如き市内の主要なる交通街路上を高架線で走ることは街衢の美觀其の他の關係上餘り好ましからぬことである今斯る市の中央部に於ける主要街路では地下線を撰むものとすれば都市計畫街路の地下に敷設して用地費を要せずして利便なる高速鐵道線路を得らるゝのである然るにこれを高架線とするためには主要街路を避けて其裏通り又は附近の適當なる箇所に道路を擔張して相當の幅員を有する線路用地を買收する必要があり少くとも一哩に付き約一萬坪の用地を要するのである然れば用地費を加算したる工事費は遙かに地下隧道敷設費を超過し本市の中央部の如きは地下線に比し高架線の工事費は三倍にも達するのであり尙は其利便は主要道路の裏通其他に在ては非常に減殺さるゝのであります斯くて大阪市の中央部に在ては高架

線を撰ぶよりも地下線の方が安價なのであります然れども既設道路又は都市計畫街路上に直ちに高架線を敷設すれば勿論最も低廉であるので乘客數の比較的少數なる見込の第四號線は其方法に依り高架線の構造を適當に定める筈であります特に長堀川沿線は南北に貫通する第一號線及第二號線（何れも地下線）との交叉點に於ける關係もあり長堀川に沿ふ關係上川幅と共に相當する民家の距離が三十間以上あるを以て高架線として沿道に及ぼす迷惑は大ならざるのみならず其構造に依ては街路の美觀を增大するものと思はるゝのであります

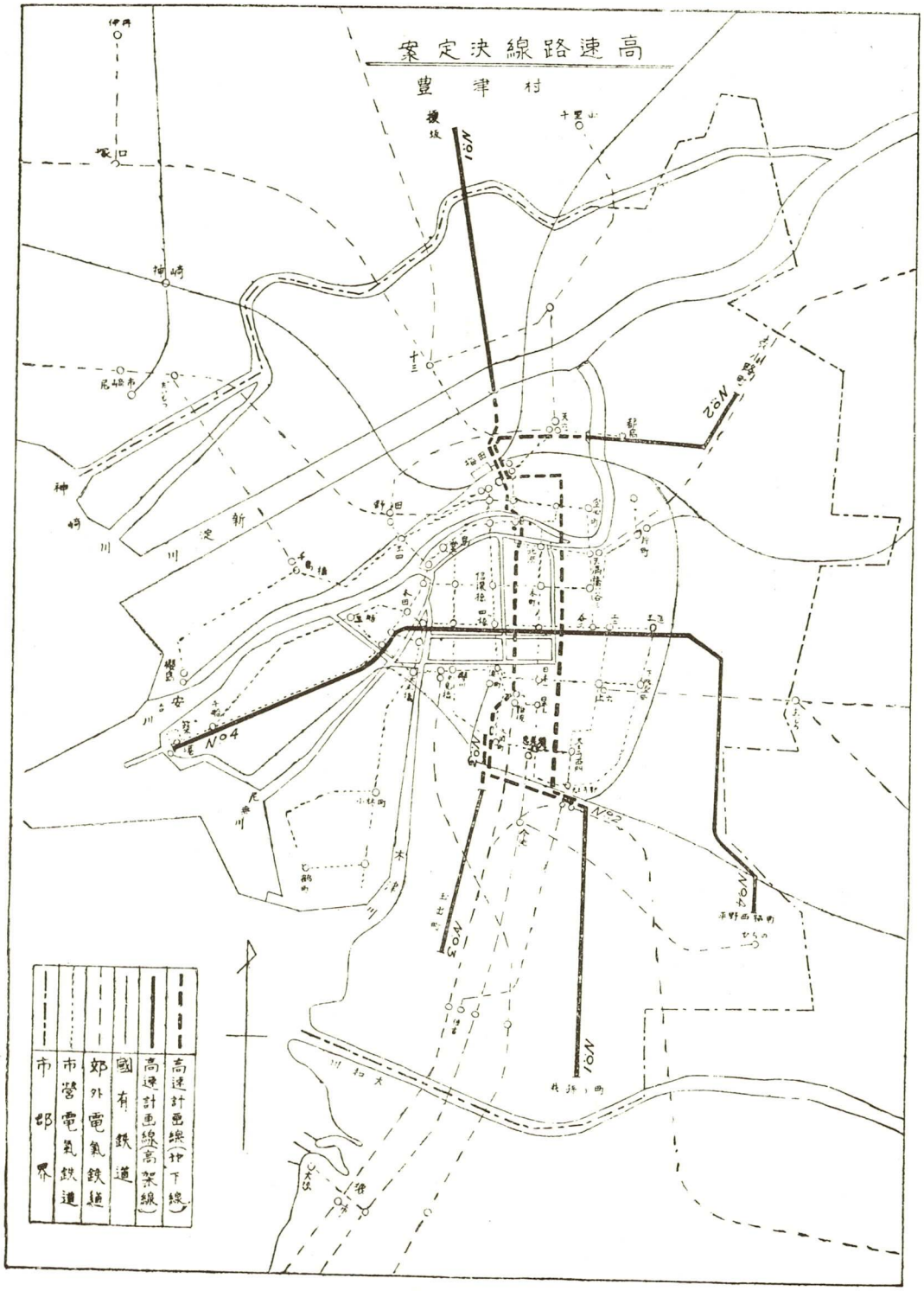
軌道の軌間は四呎八吋半複線軌道の標準中心距離十二呎とし隧道に在ては複線軌道の中間に柱若くは壁を設け高架線に在て同上凸記堤を設けて脫線の場合に於て隣設軌道に危險を及ぼさざる方法を採る電力は五百ボールトとし第三軌條式を以て送電し信號其他完全なる保安裝置を設備する筈であります

高速鐵道は列車式で高速運轉をなすために各種の障碍に依り或は信號機の破損、車輛の故障、軌道の破損等絕對に危險を防止することにはなつて居れども萬一故障の出來せし場合に在ても絕對に危險を釀さざることを必要とするのである故に列車は停車場間を何等の心配もなく勝手に走行し得せしむる設備を要するのであります

隧道は其斷面形狀を函形とし路面下拾尺の處に其天端を置く位を標準として其深さを定むる積りであります大阪市の中央部に在る下水、水道、電線、瓦斯等の地下埋設物の深さが大略十尺以內であるのと戰時彈爆に依る被害は深度十尺に至れば著しく其威力を減するので斯くの如く定めたのであります街路上より地下乘降場への通路は可成隧道の淺きことを望むも戰時に於ける爆彈の避難所として地下隧道は唯一のものであります高架線は路面電車橫斷、沿道民家の高さの關係等より桁下高十八尺を標準と定め高架橋は道路の中央に一本脚の傘形斷面とし各脚柱は互に拱狀にこれを連結して地震に對して充分の强度を有たしむる積りであります大阪市の既設道路及都市計畫道路の幅員は十五間の箇所多く今更らこれを擴築することは事實上不可能であり其用地費も巨額に上るために高架橋の形狀を一本脚として道路上に一間だけの幅員を占有するに止め道路の効用を減殺せざることとしたのであります

此構造は比較的輕快にして美觀を呈し地震に對する强度も充分にして市內に於ける高架橋としては二本脚又は三本脚のものよりも適當の構造なりと思ふのであります斯る構造は米國費府の新しき構造に類似のものあり二本脚の重苦しきものに比し遙かに優つて居るのである大阪市の現狀に對して此方法に依るより外に途がないのであります

本市高速鐵道計畫の大要は略上述の如きものであるが大阪市の人口二百十萬人市電一年間の乘害數三億人を算し過去十年間の統計に見るも每年乘客數は五分以上の割合を以て增加しつゝあり特に昨春市域の擴張に伴ひ舊郡部のみならず市の周圍部の發展は年と共に著しきものあり舊市內に於ける路面電車の增設に次ぎ舊郡部への增設も必然的に其必要を生ずるを以て本市に於ける電車乘客の增加は更に大なるものがあると思はれます本市人口の增は統計の示す處に依れば大正二十


高速路線決定案
豊津村
No1
No2
No3
No4
No5
No6
No7
神崎川
新淀川
尼崎市
高速計画線(地下線)
高速計画線(高架線)
國有鉄道
郊外電気鉄道
市営電気鉄道
市郡界

年度には二百八十萬人同二十五年度には三百三十萬人大正三十五年度には四百萬人に達するであらう。而して市内電車の乘客も其線路延長及乘客數共大正三十五年度に至れば現在の約二倍に達し年六億人の乘客となり高速鐵道に依る乘客數も三億四千萬人を算して今回計畫の第一期線は早や滿員雜沓の狀態に至るものと思はれます。而して人口一人當り一ケ年乘車回數即ち市民の乘車習慣は二百三十回に達するのであるが此乘車習慣を米國大都市のそれに比較すれば約二十年前即ち明治四十年頃の狀態と約同樣である日本一の大都市として誇る大阪市の交通狀態として誠に心細き次第であります市勢隆々として底止する處を知らざる現狀に照し今後の發展も豫想外に大なるものありて高速鐵道の第二期第三期の增設も大正三十五年を待たずして實施さるゝに至るであらう。

（完）

日本人は總體に便所に注意が足らぬ

非衛生過ぎる日本の便所

住宅には便所は必ず設置しなければならぬ、大切な場所でありますが、從來の吾國では、便所を大部分放任の有樣で、不衛生と云ふ前に、まづ不愉快な場所と云ふ觀念が先に來る位です、試みに便所へ行つて一見なくとも誰も氣づくやうに臭氣は絕えず汚物は上から全る見えで、蛆の蠢動がそれと手に取れる有樣です、これでは誰だつて不快の念に襲はれない者はありますまい。

これは便所の構造が糞尿を收めるに至極不適當に作られてゐるからで便所と云へば、床に穴を穿つて金隱しを据ゑ、その下方へ空間を置いて、受瓶が埋めてあるに過ぎないのです、謂はゞ開放性の糞溜とでも云ふ可きもので不愉快、不衛生なのは當然の歸結とも云ふべく單に不愉快な點から云つても早速改造しなければならないものです。

つひ先日のこと米國に長く住んで居る日本人から手紙が屆いたがその文中に「日本國民は清潔を好むなどと云はれて居るが實際は世界一不潔な國民と思ひます。其の證據には日本人の便所を見れば解るでありませんか、日本人はどうしてあんな不完全な便所を平氣で用ゐてゐることが出來るでせうか。米國の生活に慣れて今思ひ出してもぞつとします」とありましたが、全く無理のない述懷で、米國あたりでは便所即ちプリイビーとは小部屋の意味で內所話などする場所に利用されて居るのです。

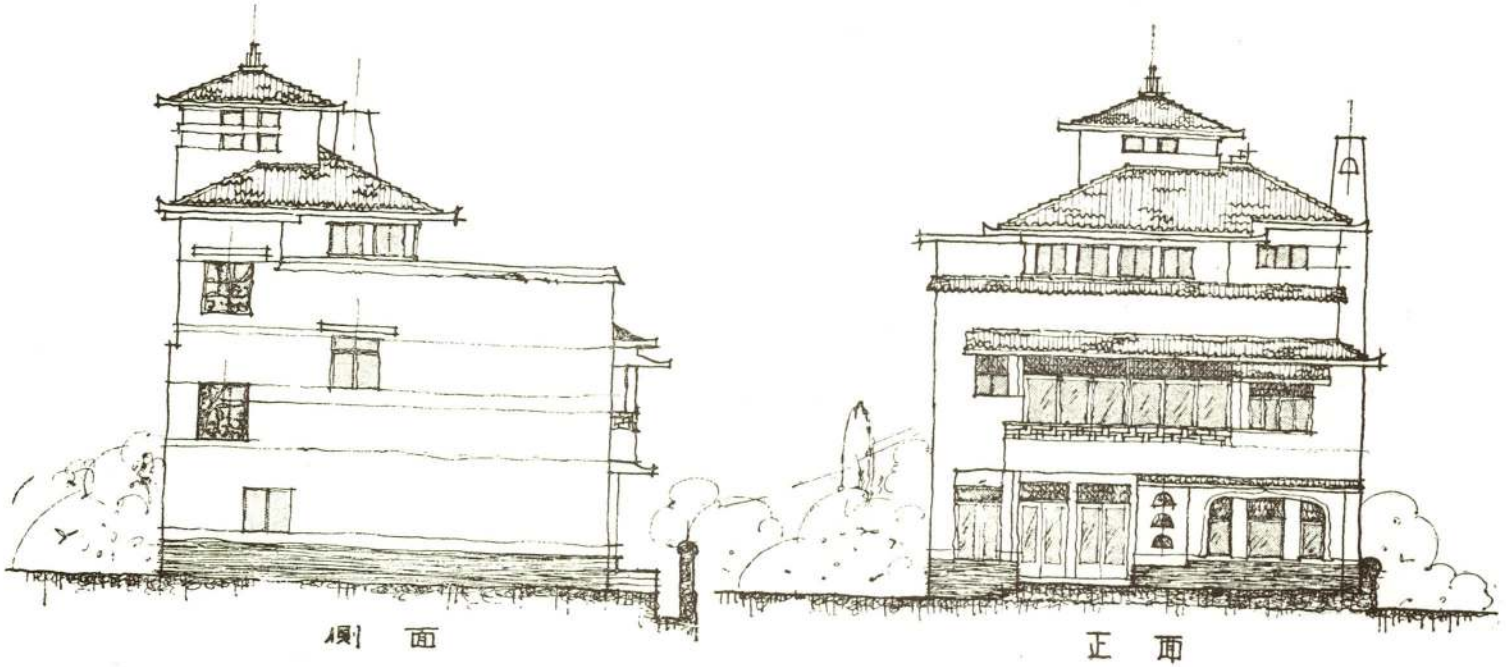
日本なら差し當り井戶端會議と云ふことを米國では便所で神さん連がコソ〳〵町內の噂に餘念がないのです、これは便所が不愉快な場所でないからで、日本のやうに臭氣滿喫の便所で息の出し入れさへ遠慮勝で況んや會談などとは以つての外の話しです。

偖て、それなら米國の一般の便所はどんな風になつてゐるかと云ふと水槽式で、臭氣は全く無く汚物の流れたあとには綺麗な水が少々殘つて居ると云つた具合で、汚いといふ連想は全くありません。

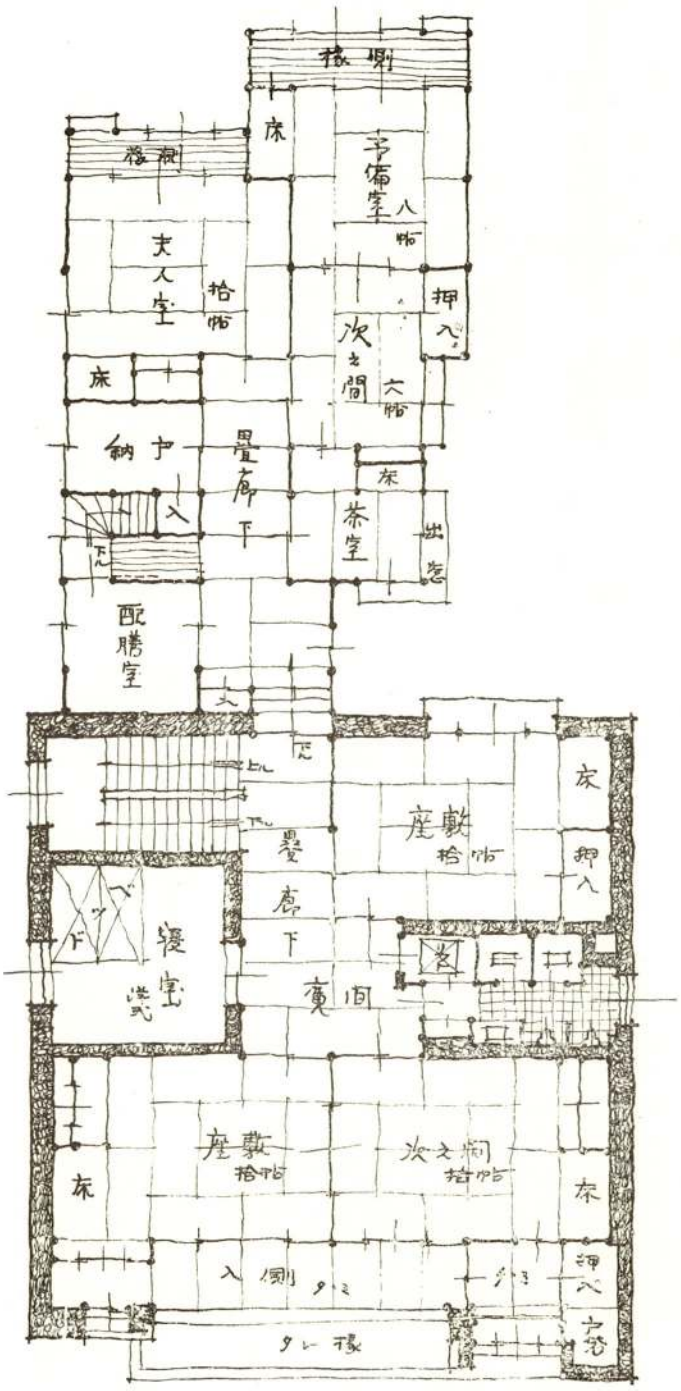
だから自然寄り合も起らうといふもので、米國の便所は大抵化粧室の中に、化粧臺と相對して作られて居り然らざれば便所と風呂が同居して居ます。かういふ便所を用ゐつけたら、成程、日本の便所にそつとするのは當り前です、日本人に嫁した外國夫人が日本人のどんな生活にも我慢して我慢出來ないことはないが、唯一つ此の便所だけには……と閉口するのも誠に尤もな次第であります。

元來日本人は便所の研究心に乏しいと思ひます、而して最も危險な狀態に放置してちつとも顧みやうとしません、例へば米國の印刷局へ行つて見ると便所に關する研究パンフレットは廿種もちやんと備はつてゐますが。

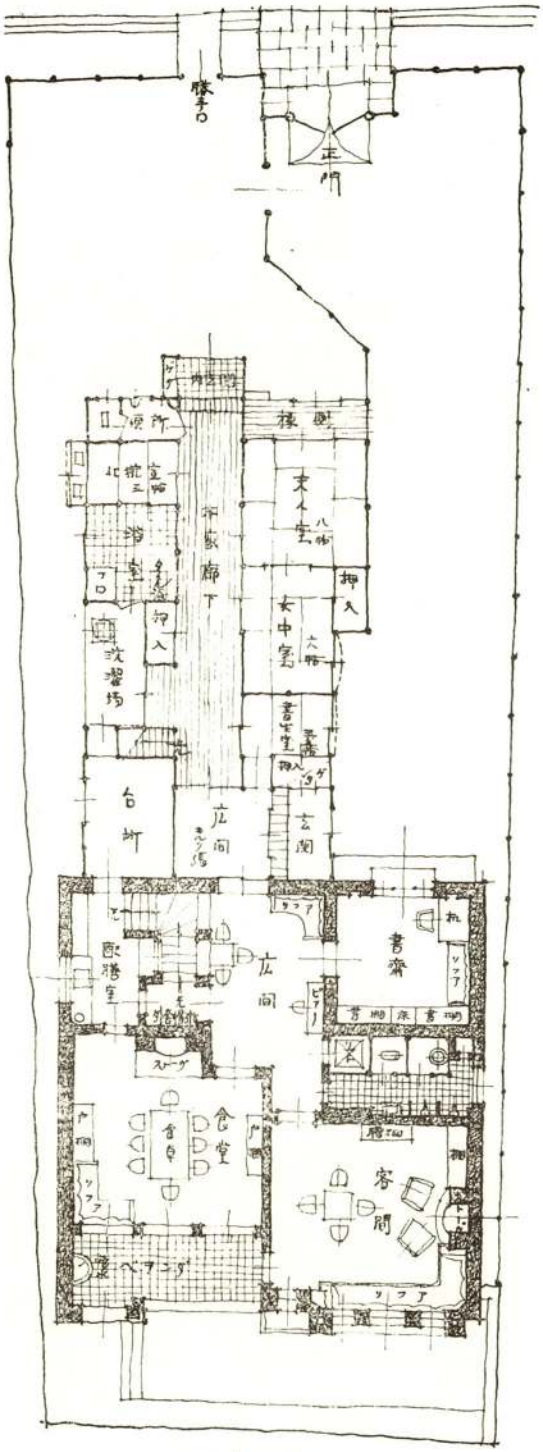
我國にはそんなものは殆ど見當りません便所に愉快に淸潔に、之は文化人の當然心掛く可き事柄で又住よい家としての重要な要素の一つでなければなりません、重れて云ひます、衛生を除外しても便所を愉快にすることは、一家の主婦の研究題目の一つでなければなりませぬ。



(一)　宅　住　の　家　某

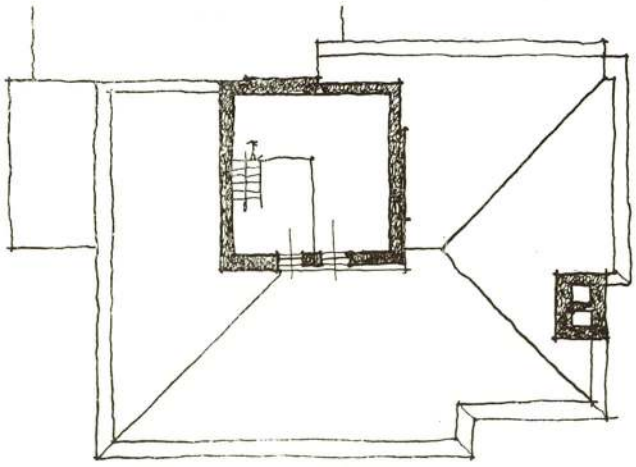

縁側
床
予備室
八帖
夫人室
拾帖
押入
次之間
六帖
床
納戸
畳廊下
床
茶室
出窓
配膳室
座敷
拾帖
床
押入
畳
廊下
寝室
洋式
廊下
次之間
拾帖
床
入側
タタミ
タタミ
押入
タタキ

前階

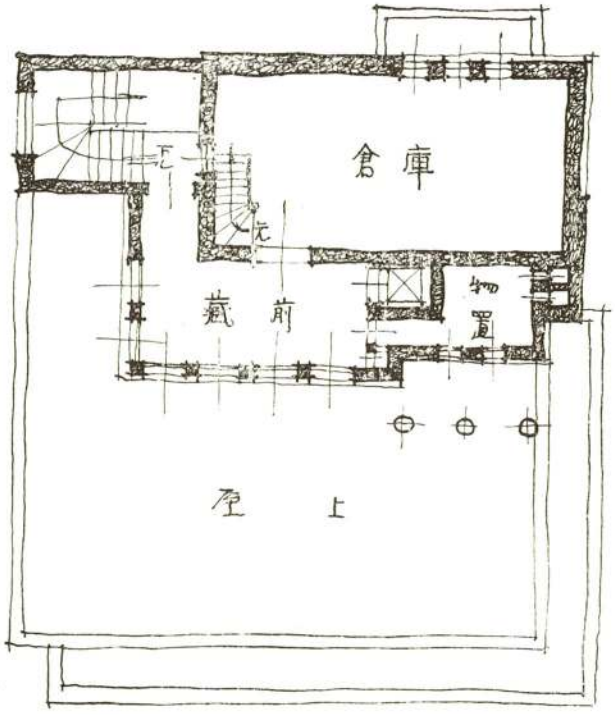

勝手口
玄関
縁側
東人室
八帖
押入
女中室
六帖
書生室
押入
玄関
台所
広間
書斎
広間
食堂
客間

表階

（二）宅住の家菜



塔屋



參階



ゴシック藝術（下）

柳宗悦

九

次にはシンメトリーの法則が、非常に正確に守られて居る即ち當時の人は右に一つのものを置けば、之に對して必ず左に對なものを置くと云ふやうに、物の均等を得ることを非常に好んだ、例へば一方に十二人のファーザースを刻む場合には、一方に十二人のプロヒットを現すとか、或は又十二人のプロヒットに對して、十二人のアポッスルを畫くとか、或は一方に四人の豫言者（イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ダニエル）を畫く場合には、一方に四人の福音記者（マタイ、マコ、ルカ、ヨハネ）を畫くとか、或は一方に猶太のシナゴグを現すならば、一方には新しい基督の敎會を現すと云ふやうに、對の法則を嚴密に守つたものである。

次にどう云ふ法則を現したかと云ふと、非常に數（ナンバー）を愛して居た、我々から見ると、數に特別に意味があると云ふことは考へられないかも知れないが、昔は數に不可思議な意義を含ませて居た、アックイナスの神學の或章に一の數は神の智慧を現はして居ると云ふことを論じて居る箇所があるが、兎に角數に或意味が含まされて居た、其最も好い例はダンテの神曲である、あれも矢張り此時代に出來たもので、先づ地獄篇煉獄淨罪篇、天堂篇の三部曲に分たれ、更に其一つが各々卅三章に分れて居る、此卅三と云ふ數は言ふまでもなくイエスの齡を記念したものであるが、兎に角斯う云ふ風に、ダンテの神曲は三の數を以て開展して居る文學である、あのベアトリーチエさへも三部數の現はれであつて、ダンテに從へば九の字を現はして居た、三部數と云ふのは後にお話するが、基

督教に於ては古い時代に特に精神的な世界を現すに用ひた所のシンボルである、例へば三位一體と云ふやうなことも古くから考へられた教義であるが、矢張り同じやうに三の數に於て現はれた一つの場合である、仍ち基督教に於てはどう云ふ數が最も尚まれたかと云ふと、それは三つある、一つは十二の數で、十二の使徒であるとか、十二の豫言者であるとか、十二のファーザースであるとか云ふのは誰も知つて居ることであるが、何故此十二の數が尚ばれたかと云ふと、十二は三に四の乘數であつて、三は前述の通り精神を現す數で、四はどうかと云ふと、物質を示して居る、何故かと云ふと、物質は火水風土の四元素から成立して居るものだからである、從て世界の一切を現すものが十二の數で、即ち精神と肉との結果と云ふ意味になる譯である、先づ斯う云ふ意味に於て十二の數が一つの宗教的品位を有つて來た、もう一つ此時代に尚ばれた數は何であるかと云ふと、前の十二と同じやうな考から、三と四とを加へた七の數である、是も矢張り精神と物質との結合であつて、七の數は特に人類（ヒューマスティ）と云ふやうなものを現はしたものである、從て人間に關する出來事は殆ど皆七の數で數へたものである、即ち舊教の方に於ては人の一生を七期に分けたり、或は我々の有つて居る德を七つに數へたり、又我々の犯す罪を七つに數へたりして居る、或はカソリックの方では一日に七度讃歌を歌ふとか、又舊約聖書を見ると、世界は七日で出來たと云ひ、今日も猶ほ私達は昔から傳つて居る所の七の數で生活をして、土曜日だとか日曜日だとか云つて居る、斯う云ふ風に數に或特別の意味を含ませるのは、或は我々の空想とか、架空な考に過ぎないと考へられるかも知れないが、強ちさう一概にも言ふことは出來ない、どう云ふ譯であるかは知らないけれども、私達は色々な音を有つて居るが、それは總て七つの音に還元せられて來る、是は即ち中世の初に出た所のグレゴリーのミユージックから始つたものであると言はれて居るが、兎に角其時代に音に七つの音階と云ふものがあることを明にせられ、所謂グレゴリアムの音樂が始つて來た、さう云ふ風に七の數を非常に尚んで、そこに整然とした規則を現はしたものである、尚ほ其他にもう一つ忘れてならない數は八の數であつて、是はどう云ふことを意味するかと云ふと、必ず新生と云ふことを意味したものである、即ち創世紀に依れば、此世界は七日の間かゝつて造られ、第八日目が新しい第一日であつた、又今云つた音は七階に分たれ、八つ目は新しい第一音となつて來る、從て第八番目は又新しい最初の出發と云ふことを意味し、八の數は新生と云ふ意味を現はしたもので、新生の教と云ふものは皆八の數で開展して行つたものである。其最も明瞭な例は、洗禮に用ひる水盤である、あれは總てではないが、大部分は八角形をしたものである、今日はさうでもないが、昔はさうであつた、是は言ふまでもなくバプテイズムと云ふのは、新しき生命に入ることを意味することになつて居たからである。

一〇

さう云ふ風に、一つの器物に就いても總て宗教的意味を含ませてあつて、個人が氣儘に變改することの出來ない或一つの法則に必ず結び付て居たもので、而もそれ等の規定は當時に於て可成り明確なものであつた。

それで先に當時藝術は今日から云へば象徴主義の藝術であると述べたが、此象徴主義のことを論じるならば、此中世の時代は非常に豊富な好材料を私達の前に開展して來るのであつて、此事を詳しくお話するには非常に長い時間を必要とする、從てこゝには、どう云ふ風に、又どう云ふ題材に依て象徴世界を現はして行つたかと云ふことを極く簡單に述べて置かうと思ふ。

十三世紀に於ける偉大なる學者ハンサンスボレースは其大著『大きな鏡（グレート ミラー）』と云ふ意味の書に於て、我々を取圍んで居る一切のものは神智を映した鏡である、神の光と云ふものを象徴して居るものと見て　特に四つのミラー（ミラー オブ ネーチユア）と云ふものを考へて居る、即ち、一は自然の鏡（ミラー オブ ネーチユア）――二は學問の鏡（ミラー オブ サイエンス）――三は道徳の鏡（ミラー オブ モーラル）――四は歴史の鏡（ミラー オブ ヒストリー）と云ふ風に數へ、之に依て森羅萬象を一つの體系の中に含んだのであるが、中世の人は此體系に基いて、總ての題材を選んで行つたのである、故に其意義を簡略にお話して置かうと思ふ。

何故に此世界は自然の鏡を意味するか――我々が今日見る所謂自然界も、中世の人々は直にそれが神の御わざであり、神のシンボルであると考へられたもので、我々が一本の木を見、一箇の石を見れば、それは唯木である、石であると考へるに過ぎないけれども、信仰深い眼を以て見るならば、それは唯木であり、石であると云ふに止まらず、そこに何か品位が含まれて居るやうに考へる、即ち其品位と云ふものを捉へて來て、中世の人はそれを藝術に表現しやうとしたものである、例へば二つの枝が分れて居る木は何を意味したかと云ふと、それは何時でも『生命の木（ツリー オブ ライフ）』と云ふことを意味した、普通の死物としての木ではない、又よく葡萄（グレープス）の彫刻や繪畫があるが、是は單に葡萄を現したものではなく、フルーツ、オブ、スピリツチャル、ナレヂー即ち精神的な智慧から熟して來た所の木の實であると云ふ意味であつた、又よく二つの獸類が喧嘩をして居る所を現したものがあるが、それは單に獸類の爭鬪を見せるのでなく、そこに基督敎と反基督敎の爭（コフレス）と云ふことが意味されて居る、或は又何か木の實を啄いて居る鳩が畫いてあれば、それは何時でも魂の樂園（ソールバラダス）と云ふことを意味して居る、又小羊と云ふものは古くから基督敎の方で使はれた材料であるが、是は何時でも神の　惠（ディヴァイン グレース）と云ふ意味を現しそれを見る者は直に神の惠を思つたのである、又同じ年でも其上に十字架の載せてあるものは、是は特殊な意味があつて當時の約束では自然の力（パワース オブ ネーチユア）と云ふものを意味したものです、又龍（ドラゴン）を描いたものがあるが、是は何時でも罪を現はしたものである、それ等は何故さう云ふ意味になつて居るかと云ふことに就いては、各々聖書や傳説等に由つて來たる原因があつて、さう云ふ約束が出來て居たのである、又門の普通キンバラと云ふ所には、中央に基督が居られて、傍に人と鷲と牛と獅子の刻んであるのが澤山あるが、是は最初ヨハネの默示錄から出て來たもので、何を意味して居るかと云ふと、四福音書記者を意味して居る、即ち人はマタイ、鷲はヨハネ獅子はマコ、牛はルカを現はして居るのであつて、此法則は決して崩されないのみならず、此四者をどう云ふ配置に置くかと云ふことも明確にきまつて居る、是亦置き替へることは決してない、殊に此鷲は度々使はれて居つて、此時代の聖書を載せる臺などには多く鷲の模樣が彫つてあるが、此鷲とヨハ

ネと云ふものは昔から其處に一つの關係を結び付けて考へられたものである、兎に角斯う云ふやうなシンボルは澤山あつて、我々に取つて甚だ奇異に思はれるのは、ベリカンを畫いたものがある、ベリカンは何を意味するかと云ふと、基督を意味するのである、何故かと云ふと、之には傳說があつて簡略に云ふと、ベリカンの子供が大病に罹かつて、どんなに介抱しても助からない、そこで親鳥は遂に自から嘴を以て自分の胸を刺し、其血を子供に服ましてやつた所が、さしもの難病が癒へて助かつたと云ふ話が遺つて居る、仍ち基督は是と同じやうなことを人類の爲になさつたではないかと云ふ意味に於てベリカンが一つの基督のシンボルになつて居る、又獅子が、前述のやうに四つの中の一つとしてある場合にはマルコを意味するのであるが、單獨に獅子が彫つてあるやうな場合は、多くは復活（レサレクション）を象徵して居ると云ふのは、獅子の子は生れてから三日間は眼も開かず、呼吸もしない、然るに三日目に親獅子が息をかけると、子獅子が甦へると云ふ物語が傳つて居る、即ちイエスは死して三日目に甦つたと云ふ物語を聯想された意味である、斯う云ふ風に自然界に在る總てのものはそれ〳〵にさう云ふ清らかな宗教的智慧と云ふやうなものを映す所の一つの鏡であると考へられたのである。

一一

次のミラー、オブ、サイエンスのサイエンスは今日の所謂自然科學（ナチユラル・サイエンス）の意味ではなく、學問と云ふやうな意味でのサイエンスであるが、どうして之を尙んだかと云ふと、總ての人は先づ第一に何を爲すべきかと云ふことを學ばなければならない、又如何に考ふべきかと云ふことを學ばなければならぬ、仍ちさう云ふ人間が人間として學ばなければならないやうな智慧であるとか、或は爲すべき行爲と云ふやうなものを教會の中に示して置かなければならない、當に自然から教を受けるのみならず、又學問からも色々な眞理を學ばなければならぬ、其どう云ふやうに我々は日々の生活をしなければならぬか、或は如何にして日々を送らなければならないかと云ふやうなことを此ミラー、オブ、サイエンスの中に示して居る、而して此サイエンスは主としてどう云ふ箇所に現はされて居るかと云ふと、キンハラの突起部に主としてさう云ふ教が刻んであつて、人がその門を潜る時に、上を仰いで今日は如何なることを學ばなければならぬかと云ふやうなことを見て行くやうに出來て居る、第一に、ゾディアーク——十二支みたやうなもの、或はカレンダーのやうなもので現はされて居る、例へば七月のものならば、麥の穗を刈つて居る所であるとか、其月々に依て總ての人はどう云ふ勞働をして、どう云ふ風に考へて行かなければならぬかと云ふやうなことを刻んである譯である、それは唯模樣のやうに考へられたのでなくして、各々そこに教が含まれて居つた、さう云ふ教の中で特に重要視されたのは、セブン、アートと云つて、當時は七つの學問があつた、其中でも第一に學ばなければならないのは、文法（グラマー）と修辭學（レトリック）と論理學（ロジック）の三つであつて、更に高い學問とされたのが、音樂（ミユージック）——無論宗教音樂である——數學（マシマティック）——幾何學（ヂオメトリー）——天文學（アストロノミー）の四つであつて、即ち此七つの學問は總ての人が學ばなければならないものと考へられて居た、それで是等の學問各々のセントラライズしたものが刻んであるが、

其中古代の偉大な學者の像を刻んであるのは、見る者をしてそれに刺戟され、自分達もあゝ云ふ風に學問をしなければならぬと考へさせる爲である、而も非常に意外に思はれるのは基督敎以外の學者がなか〳〵多く刻まれて居ることで、例へば、ピタゴラスであるとか、アリストテレスと云ふやうな基督敎の神學に取つて重要な關係のある人は皆敎會堂の中に彫刻したものである、即ちアリストテレスの如きは中世の基督敎とは最も關係の深い希臘の思想家であつて、特にアックイナスの神學にはアリストテレスの哲學の背景が非常に濃厚である、約り基督敎の神學なるものは何も基督敎だけに限つたものでなく、希臘哲學と密接な關係があると云ふことは近來の研究に依て一層深く知られて居る、彼のパウロのやうな人でも矢張り希臘哲學と非常に深い關係を有つて居つたと云ふことが明にされて居る位で、殊に中世の基督敎會と希臘哲學との關係は非常に濃厚であつた。兎に角さう云ふ風に我々の學ばなければならない學問を敎會の中に現しいもので、餘り長くなるから省略して置くが、或は人間の運命と云ふやうなものを順序を整へて示したやうな場合もある。

一二

次に道德の鏡（ミラー・オブ・モーラル）と云ふのはどう云ふ意味であるかと云ふと、人の一生を善と惡との間に起る一つの爭鬪（ストラッグル）であると看做し、宗敎的に云へば、罪に對する鬪ひが人間の一生の出來事であると考へたので、此善惡の對照と云ふやうなものを現したものが非常に多い、例へば光の世界とか、暗黑の世界とか善と惡とか、德と罪とか云ふやうに對照をしたものである、古くは神學的道德として、信仰と希望と慈愛（チャリティ）の三つが重要視されて居たので、それを現はした色々な場面が遺つて居る、殊に佛蘭西のアミアンのカツセドラルには此善惡の鬪爭と云つたやうな場面が非常に現はされて居る、例へば信仰と不信仰の鬪ひであるとか、慈悲の心と貪慾心の爭ひであるとか、或は先に述べた敎會とシナゴグとか、或は聖書にある賢き女と愚な女の話であるとか、又勇敢と卑怯、或は眞理と疑問と云つたやうな對照であるとか、尙ほ屢々現はれて居るのは、アクテイとテンポラリテイの對照である、兎に角さう云ふやうな人生の上に起つて來る所の相對した二つの力を現はして居つて、それを見れば、我々はどう云ふことをしなければならぬかと云ふことを、言葉を通さずして、學ぶことが出來るやうになつて居る。

而も四つの鏡の中で、最も重要視されたものは、最後の、歷史の鏡（ミラー・オブ・ヒストリー）である、無論歷史と云つても、政治史と云ふやうなものではない、舊約聖書に描かれてある人類が樂園から追放されて以來、イエスに依て其罪が贖はれるに至るまでの大きな精神的歷史と云ふものが當時に於て最も重要視されたのであつて、普通之を七つに分けて居る、第一は舊約聖書に現はれて居る歷史、第二は、新約聖書に現はれて居る歷史、第三は、聖書以外の外典に現はれて居る色々の物語——トマスやゼームスなどの傳へた福音書等、第四は基督敎に於ける各聖者（セイント）の歷史、第五は、現世の歷史——と云つても、無論基督敎に關係するもので、基督敎に非常に貢獻した王樣であるとか、ビショップと云つたやうな人々の歷史である、第六は見へざる世界（インヴイジブル・ワールド）の歷史——主として最後の審判を意味する人類

の運命に關するもの、第七は、エンゼルの歷史――斯う云ふ七つの歷史を敎會の中に現して居る譯である、例へば舊約聖書では天地創造の話からアダムとイヴの話を首め、アベルとカインの話、或はイサクの生贄の話や、サムソンのガザに於て家を擔つた話、其他多くの豫言者の話や、モーゼ、アブラハム、サムエル、ノアなどの話を現して居る、而もアベルとカインの話にしても、唯アベルとカインの話を描くと云ふよりも、アベルとカインとの關係と、猶太人との關係に對照し或はイサクの生贄の場面を現すにしても、基督が猶太人の爲に生贄になつたと云ふことに關聯させて、それを現さうとして居るし、又サムソンのガザに於ける話も、基督が死に打勝つたと云ふ話に對照して描かれて居る、次に新約聖書の歷史としては、言ふまでもなく基督の誕生から昇天に至るまでの凡ゆる出來事を現はして居る、即ち新約聖書に於ける題材は無論基督が中心であるけれども、基督の外に又マリヤの一生を特に描いたものである、併しマリヤの話は聖書よりも、次のゼームスやトマスなどの遺した外典に據るのを通則として居た、又次のセイントの歷史では、一々擧げれば澤山あるがペテロやヨハネを首め凡ゆるセイントの物語を現し、又次の此世の歷史としては、偉大なる大名とかビショップ或は學者等の基督敎に貢獻した人々のことを描き、殘る二つのものとしては、最後の審判のこと、エンゼルの物語などを示したものである、斯う云ふ風にそれ〳〵順序を經て、總ての作品は極めて秩序的に表現されたものである。

それで中世紀の藝術と云へば、第一に、極めて宗敎的であつて、徹頭徹尾信仰に立脚した藝術であると云ふこと、第二に、宗敎藝術の必然の結果として象徵的物質を有し、象徵の世界に於て其作品が現はされて居ると云ふこと、第三には、即ち一定の法則と云ふやうなものに基いて居る藝術であると云ふやうな點に於て、今日の藝術とは根本的に區別し得るものと言つて可いのである。

而して最初に言ひ忘れたことであるが、是等の作品がどう云ふものに最も能く現はされて居るかと云ふと、言ふまでもなくカセドラルである、是は一切の藝術の綜合であつて、第一に建築として美しいのみならず、第二に彫刻的建築とも稱すべきもので、聖徒の像から小さな花に至るまで、凡ゆる場所に樣々の彫刻が施してある、又第三には、總ての壁やウインドーグラスと云ふやうな所には皆繪が畫いてあるし、第四に、このカセドラルと云ふものは音樂と離るべからざる關係を有つて居て、特に音樂は其重もな要素となつて居る、而も第五には、凡ゆる工藝が此カセドラルの中に果されて居る、例へば椅子にしても、中世のものは長椅子で回轉するやうに出來たものが多いのであるが、それには裏に非常に佳い彫刻がしてあつて、又それが無意味なものでなく、皆聖書の中の敎に關したものばかりである。

斯う云ふ風にカセドラルのことを話して居ると限りもないが、中世の建築は如何なる點に於て前のロマネスクのものや後のルネサンスのそれと異つて居るかと云ふと、第一天井の構造を首め、門や窓の樣式に於て、斯う云ふ風にポイントを有つて居るのが一條件である、之には內面的意

味を云へば、色々の理由はあらうけれども、矢張り一つの信仰の如實の表現であると言つて可からうと思ふ、即ち信仰が進めば進む程、天國と云ふものに向つてアスピレーションを有つ、其アスピレーションを建築に現さうとした結果　前のロマネスクの樣式に於ては、窓の如きも單なる圓窓であつたやうなものが、段々上に伸びて行つて、斯う云ふ樣式を取るやうになり、それが進んで遂に塔（タワー）がゴシック建築の重要な樣式となつて來た譯である、先づ總てのゴシックのカセドラルはタワーの樣式であると云つて可い、仍ち大井の樣式も唯横に張つてしまつたのでは、上に伸びると云ふ意味を現はさないから、是亦三角形のものになつた、其形を唯口頭で說明するのは困難であるが、それでは建築として非常に安定を失つて來る譯であるから、其樣式に於て天國に向ふと云ふアスピレーションを表現した、而も建築として安定な位置を保たしめるにはどうしたら可いかと云ふことに就いては當時非常に苦心をしたもので、バックレスと云ふやうなものを施した結果それが又此ゴシックの建築を美しく見せることの一要素となつて、大變特殊な樣式を備へるやうになつた、此樣式の最も發達して居るのは佛蘭西のカセドラルであると言はなければならぬ、總て此中世の藝術を鑑賞しやうとするならば、我々はどうしてもカセドラルの研究をしなければならぬが、特に其發達の中心とも見るべきものは佛蘭西であつて、單り藝術の方面ばかりでなく、此時代の總ての文學と云ふものは佛蘭西を中心として居つたのである、例のアックイナスを首め當時の大神學者も皆巴里の大學に集つたもので、殆ど十三世紀の大神學者にして巴里の大學に學ばなかつた者はないと言つても可い、惜しいことには佛蘭西のカセドラルも戰爭の爲に大分壞はされたけれども、巴里を中心として北部の佛蘭西には大分遺つて居る、大きいのは、アミアム、ルーア、シャーター及び誰でも知つて居る巴里のノートルダム等のもので其他英吉利では有名な倫敦のウエストミンスターアベー獨逸ではクルンに大きなものがあるが、數も多く作も優れて居るのは佛蘭西のカセドラルであると言つて可い。

一四

尙ほ話すべきことは幾らもあるが、餘り長くなるから、省略して置くけれども、此カセドラルで取行ふ儀式は勿論、普通タワーに取付けてある鐘の音一つにも非常に神秘的な宗教的意味を含めたもので、總てが信仰の象徵であつたカセドラルは又其時代の人達が有つて居た愛の象徵であつて、總ての人が共通に此カセドラルを造る爲に働いたものである、即ち土地を有つて居る者は土地を寄附し、金を有つた者は金を出し、有名な美術家は美術を捧げ、土地もなく、金もなく、藝術も有たぬ者は其勞力を捧げてカセドラルの建築に當つたのである、從て是は總ての者の家庭であり、總ての者の住む世界であつて、此カセドラルに訪れると云ふことは、そこで眞理を教へられると云ふばかりでなく、同時に美の世界を味ふと云ふやうな意味があつた、本當に此時代程宗教と云ふものに浸つて居つた時代はない、歐洲の各國は總て基督教國であつて、イエスを父とし、マリヤを母とし、カセドラルを住家として、富める者も、貧しき者も、生ける者も、死せる者も皆このゴシックの世界に於ては兄弟であり、姉妹であり、總

てが神の子として互に協力し、愛し合つて、宗教の世界を現實に造り上げて居たので、此教會を護ると云ふことは神の國を護ることであり、教會に入いることは神の國に入いることで、其中に入つて周圍を見ることは即ち眞理と美の世界を見ると云ふやうなことであつた。

果してゴシックの世界がさう云ふ世界であつたとしたならば、現在の我々に取つて此世界を顧みると云ふことは幾多の教を垂れて味れることゝ思はれる、それは無論過去の時代であるけれども、我々が知らない幾多の朽ちざる眞理を含んで居る過去であると言はなければならぬ、この中世の藝術が今日は非常に閑却されて居るのであるが、若しも此私の極めて粗雑な文を通して、少しでも諸君の御注意を喚び起すことが出來たならば、私も非常に嬉しく思ふ、單り藝術の方面のみならず、神學の方を顧みるならば、又驚くべきものがあるし殊に其時代の基督教徒の生活を見るならば、如何に我々の宗教的生活が貧しいものであるかと云ふことを考へざるを得ない、兎も角今日は藝術の時代と云へば、希臘或はルネサンスの時代を云々して、其間に挿まれた此偉大なる基督教的藝術時代なるものが恰も此地上になかつたものゝ如く見えるけれども、併し我々が一度び宗教的眼を以て此時代を見るならば今日の新しい時代よりも尚は新しい一つの眞理を我々に教へて呉れるものと思ふ。

國寶と特別建造物

指定された關西方面のもの

古社寺保存會は二十九日文部省會議室に開會、文部大臣諮問の各案につき下村宗教局長より提案理由を説明のゝち特別調査委員に調査を附託し、ついで國寶と特別保護建造物を指定したが關西關係の分は左のとほりである（東京電話）

國寶に定むるもの

木造釋迦如來像一軀　奈良縣宇智郡牧野村　大善寺

木造十一面觀音立像一軀　同高市郡八木町　國分寺

木造千手觀音立像一軀　滋賀縣栗太郡物部村　安楽寺

木造觀世音菩薩立像一軀　同阪田郡鳥居本村　少林寺

木造阿彌陀如來坐像一軀　同犬上郡多賀村　眞如寺

木造大日如來坐像（大日堂安置）一軀　同東田眞村　勝楽寺

木造藥師如來立像一軀　同　西明寺

木像二天王立像二軀　同　同寺

木造釋迦如來立像一軀　同　同寺

木造不動明王及び二童兒像三軀　同　同寺

維持修理の費用補助の特別保護建造物

三寶院宸殿庫裡　京都府宇治郡醍醐村　三寶院境内

觀智院客殿　同下京區柳原町　觀智院境内

吉野水分神社本殿　奈良縣吉野郡吉野村吉野　水分神社境内

南法華寺二重塔　同高市郡高取町　南法華寺境内

圓城寺金堂及び閼伽井屋　滋賀縣大津市別所　圓城寺境内

同寺三重塔　同寺境内

日吉神社攝社宇佐宮本殿　滋賀縣滋賀郡阪本村　日吉神社境内

法音寺本堂　和歌山縣有田郡岩倉村　法音寺境内

吉備津神社南北兩隨神門　岡山縣吉備郡眞金村　吉備津神社境内

善光寺本堂　大分縣宇佐郡糸口村善光寺境内

土佐神社本殿、幣殿、拜殿　高知縣土佐郡一ノ宮村　土佐神社境内

維持修理の費用補助の國寶

木造大日如來坐像一軀　奈良縣生駒郡郡跡村　唐招堤寺

太刀（銘了戒一口）　名古屋市南區熱田新宮阪町　熱田神宮

獨墺地方の都市

千九百廿六年九月初旬より行はるる豫定の國際住居問題及都市計畫委員會の獨墺地方諸都市視察豫定記の中より

姪夢哀生



ウ井ーン

ウキーン市の歴史は、非常に初期の文明に遡らねばならぬが、此地はクラデイウス皇帝の時から羅馬の軒地となつてゐた土地である。最初のキリスト教會堂は『セント・ルプレヒト』に捧げられたもので紀元七百九十三年に建てられた、それは丁度民族移住の時であつたが、今猶殘つてゐる。千年にはウキーンの名が初めて記錄にあらはれた、此市は中央に位して、東西に容易に通じてゐた爲、やがて獨逸都市の最も主要なる一として發達した。此時代からの多くのゴシック式教會堂は尚良く保存されて居る。千三百六十五年大學が設けられたと同時に『ステフアンスドム』會堂の礎石が据えられ、千五百廿九年と千六百八十三年に市は重要なる塞として役立つた、兩方共土耳古の侵入軍を防いで、その攻圍を不可能ならしめた。その市の成長の偉大な刺激は十八世紀に獨逸皇帝の居住地となつた事實であつた。多くの宮殿、城廓が皇室及貴族によつて建てられ、すばらしい教會堂が出來て、市は特色づけられ今の盛況を呈する迄に到つた。『シエンブラン』と『ベルベデレ』の大公園も此時からのものである。

而して又現代まで此市が寨としての特色を殘してゐる事實が、建築發達の上に非常な影響を有するものである。

千八百五十七年には單に勅令によつて市の城壁と城堡を取除かれたが此時から今日吾人が見る樣なウヰーン市に膨脹と發達とが初つたのであつた。公園と、田園と、兩側に多くの公共建物を持つ——オペラハウス、タウンホール、ブルグ劇場、大學、議事堂、取引所、裁判所、美術館等懸賞競技によつて募られた設計によつて出來た建築——リングストラッセ街の延長はかくて形成せられたのである。又內側の市街の改造と『ケルントネルストラッセ』及他の主要道路の擴張は千八百七十年後に初まつた。之と同時に郊外は現在のプランによつて取廣げられた。

千八百九十三年にゾーニングプランが四種の建物のゾーンに與へられ、此等は建物高について次の如くを限定されたものである。地階は一階として計算せざるものとし、

(1)四階。(2)三階。(3)二階。

いづれも隣接して建て或は空間を隔つるもの。

(4)工業地域

ウキーン市の一般都市規定のプランは千八百九十四年からあつた。

千八百九十五年には市域內の林や牧場の帶によつて都市をめぐらす樣にし、之を公有地として保留せしめ漸次に公園に變へるべく計畫された。此等の祝福された公園や遊園地が公衆に與へられる爲に、長さに於て廿九キロメートルの特別の面積が已に部分的に計畫されたのであつた。

又小資產の住宅奬勵と田園の分割の助長を計る意味に於て千九百廿一年には約千百五十『ヘクタアレス』の面積が割當てられた。千九百廿四年には全體で一萬一千百廿『ヘクタアレス』の森林地が公園にする目的で保留すると布告され、かくてその地には建築出來ぬ事を保證された。

當然あるべき住居の供給が不足してゐることを、オーストリアに於て如實に感ぜしめられ、特に他の地方以上にウヰーンに於ては痛切に味ふたのであつた。一方に於て大戰前種々の住居供給として住宅やフラットが建てられてゐたものが年々平均九〇〇〇戶程であつた。それが戰爭中はウキーンに於ては個人的の住宅經營は絕體に休止してしまつた。

又一方に於て、一九一九年から一九二四年の間の登記された結婚數は戰前每年の平均數より多く三七八六〇件に上つてゐる。

ウキーン市當局は多大の努力を拂つて供給不充分なる住居問題の眞相を握んだのである、而して建物經營の必要なる意義を定めんが爲に、一九二三年から家屋稅が課せられ、その收益を全く住居供給の目的に備へた、而して此課稅は產の少いもの程、それに應じて僅かな額である樣に段階が付けられてあり、平和の時の家賃額、即ち家屋やフラットの借家借間料に相應して定めた。

一九二年九月ウキン市の市會は、膨大なる住宅計畫を協贊決定した。之によつて更に二五〇〇〇戶のフラット又は家屋を供給すべく一九二八年迄に建築を完了する豫定である。

是迄完成された住宅經營は三五〇〇戶のカッテージに加ふるに二一四〇〇戶分程の新しいフラットが近々に用立てられる筈である。而して殆ど疑ひもなく住宅計畫は所定の時期迄



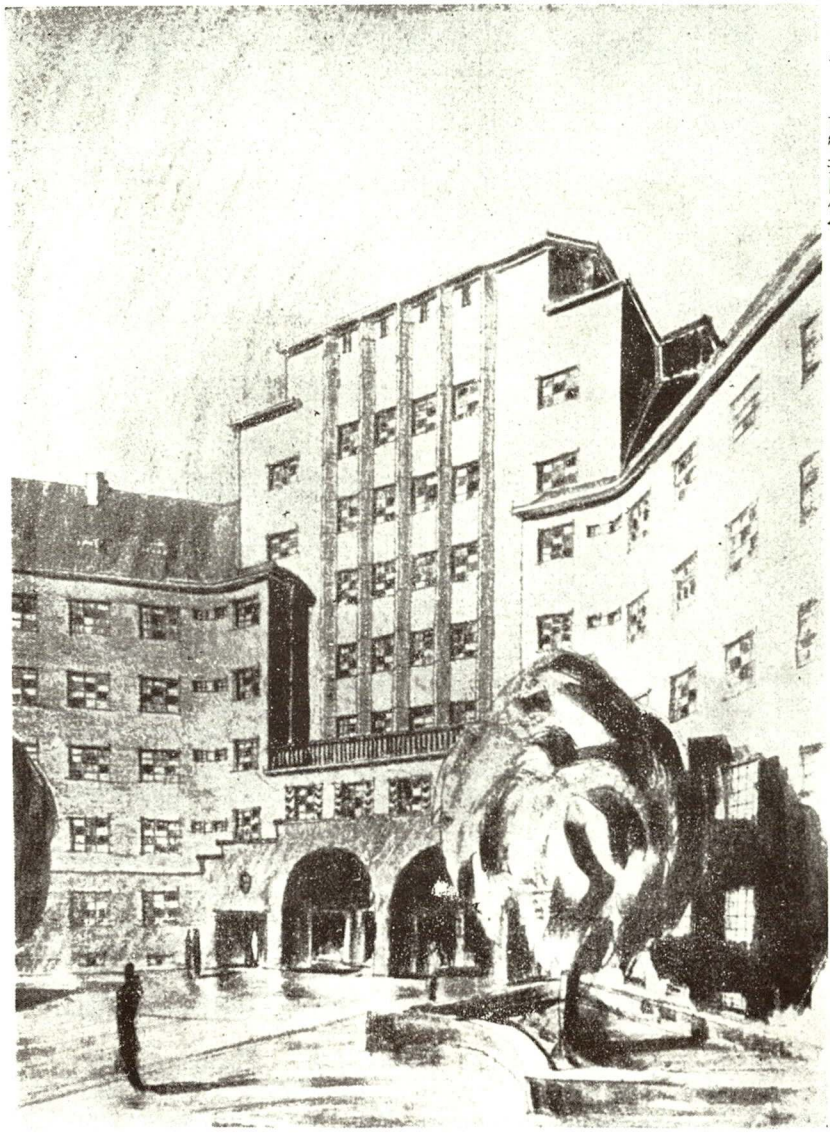
在ウヰーン市
ベートーベンの家



在ウヰーン
ステフアンス會堂



ウィーン市營住宅



ウィーン市營共同住宅

には完成されるにちがいない。

（前號上野伊三郎君の『中歐の建築』挿繪ウキーン市營共同住宅參照）

サルツブルグ

サルツブルグは古の大きな要塞の足下にある市で、一方は廣い溪谷に向つて打開らけ、一方は雪を被るアルプスの高峰を控へて獨逸と伊太利を結ぶ古の街道が此町を横切つてゐる此等の事柄と、古からその町の名稱の起源ともなつた位多大に鹽を產出する事とから推して、太古から人類の此地に棲んだことを確め得られる。ケルトの遺物が發見され、又ローマの殖民の多大な遺物を市の美術館で見ることも出來る。

中世にはサルツブルグは强力な敎主の住地であつたが爲に彼の野望は殆ど異常に華美な都市にまで發展せしめた。

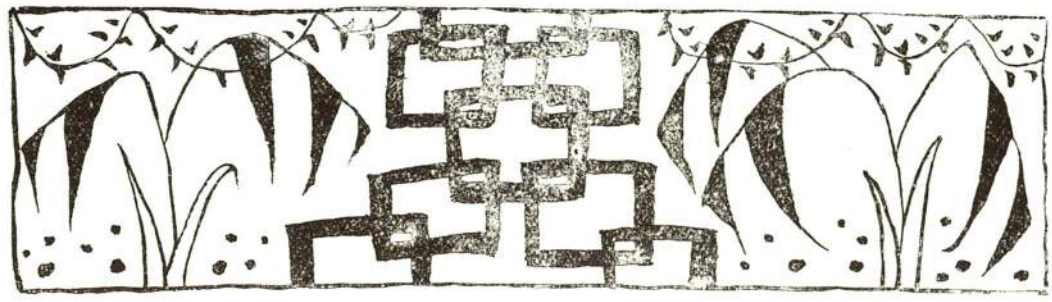
バロク時代にはサルツブルグは現在見るが如き建築的狀態を形造くつた。此市はしば〳〵『北の南方都市』と呼ばれ、伊太利の美術と北方の建築とが茲で一つに混合した。美しい大理石のファサアド、がエメラルドグリーンの北方風景に對して建てられた。特に會堂と、都城の位置は世界的に有名なものである。而して各街や辻々は敎主及び彼に屬する貴族の偉大なる力が建物によつて表現されてゐた。

此等世紀を代表する建築に加ふるに、ローマネスク式或はゴシック式によつて建てられた廿七の敎會堂がある。

此市から程遠からぬ地に美しいバロク式の城塞と公園とがあるが之も（ミラベル、ヘルブラン、レオポルドスクロン等の）建築好きの敎主によつて造營されたものである。

東京府下大建築物一坪當りの建築費

建築物	延坪數	一坪當り建築費（單位圓）約	完成年度
海上ビルヂング	六、〇〇〇坪	六四〇圓	大正六年
工業クラブ	二、一二六、二八	四〇〇圓	同十九年
第一相互生命	三、二七八、〇	四〇〇圓	同十年
三菱銀行	二、九二六、〇	一、四〇〇圓	同十一年
朝鮮銀行	一、三五九、〇	一、二〇〇圓	同十二年
日本石油會館	四、五九七、〇	九七三圓	同十一年
東京丸ビル	三、八一五、二	八六〇圓	同十年
興業銀行	一七、一八七、〇	八六〇圓	同十年
國光生命ビル	四、一八一、〇	八六〇圓	同十年
銀座東拓ビル	二、三八四、〇	八六〇圓	同十年
中央電信局	五、八四〇、〇	七四二圓	同十年
中央官衙	四、二〇四、〇	六五〇圓	同十三年
日本青年館	………	四〇〇圓	同十四年
東京市政調査會館	………	五〇〇圓	同十四年



ウヰーンの田園都市

▼中歐の建築界に就いて（其四）

上野伊三郎

近代の經濟組織は農民に恵むところ甚薄く、終日の勞働に夜業さへやつてもまだ生活難におびやかされてゐる、吾が國の小作爭議の頻發を見ても小作人側にも理由があり、財產私有制度が認められゝ以上、地主の方にも理由がありそうで、要するに農業が近代經濟制度から置いてけぼりを喰つてゐる有樣である、之に反して、農村の生產物によつて生きてゐる都會人の生活は益々便利に、益々派手になつてゆく、一度都會を見た農民、都會の話しを聞いた農村の青年達は光を望むが如く、農村を捨てゝ都會へ都會へと集まる、農村の危機に臨んでも人間はこの食料生產者を救ふことを考へる暇もなく商品の賣買——それは生產でない——にのみ一生懸命になつてゐる。

こうして都會は益々大きく、遂には農村が無くなつて都會ばかりとなり、人々は是迄の動植物食を得ることが出來ないようになりそうな形勢であるが、それ迄には化學的食料が發見されるかもしれない。

歐洲大戰中及戰爭直後に食料品の缺乏によつて最も苦い目を味つたのは彼等都會人であつた、彼等は知る邊をたよつて農家に哀願して辛ふじて小量のジャガ芋を得ることが出來たような狀態であつた。

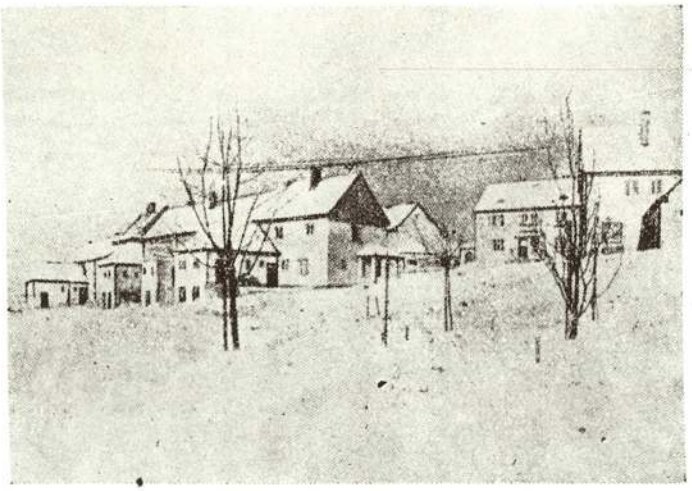
一方人間には土に親しみたいと云ふ本然の慾求があるらしい、この慾求は自然生活から見て正に變態生活たる都會生活に不滿を感ぜしめる、然らば都會生活を止めて農村へ歸ればよさそうに見えるが、一度都會の空氣を味はつたものは之と全然離れて生活することは甚困難である、都會生活と田園生活との長所をとりたいと云ふ考へが近代人の頭に浮んで來て「田園都市運動」なる

ものが起つてくる。

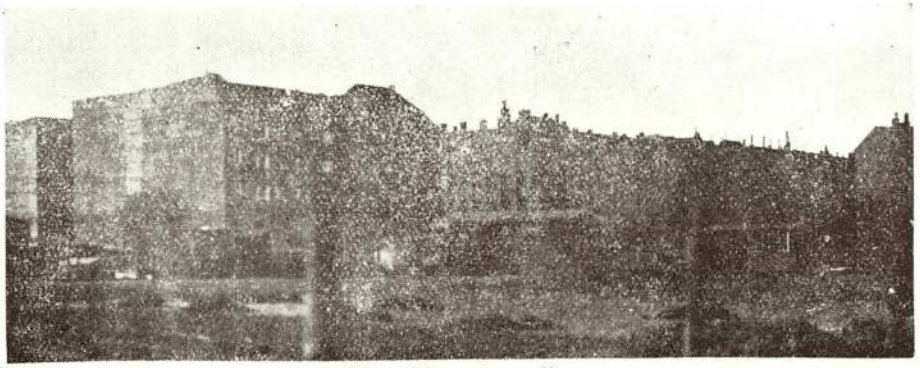
日本の都市は幸なことには東京や大阪の中心地を除いては外人の所謂「村落の集合」であつて、都會人と雖一坪の庭に朝顔を賞し椽の下の蟋蟀を聞いて秋の靜けさを味ふことが出來る。

大都市の發達し切つた歐洲の市民の中にはこの狹つくるしい市街と家の海から遁れようとする願ひを抱く者が出來始め、獨逸に於ては殊に戰時及戰爭直後の年に於ける食料品缺乏と相俟つて、自家用の多少の野菜を植ゑることの出來る土地のある住宅を望むもの丶數が漸增してきた。

歐洲を旅行して汽車が大都會に近づくと近郊の空地を小さく仕切つて菜園とし中に一坪乃至二坪位の手製の小屋のあるのが群集してゐるのが見ゑる、之は所謂ラウベンコロニーと稱して戰時食料品缺乏の時代に自家用の野菜を造るを目的として始まつたもので、今では休日の小別莊の用をも兼ね、少し余裕ある家族は可なり意匠を凝らせたものを建て小さい寢室をさへとつてゐる。休日には全家族が打ち連れて夕方迄こゝに暮らし兒童のためには鞦韆や砂遊び場等をも設けてゐる。第十五圖はベルリンの市街近接地のラウベン、コロニーである、これは大都市に住んでゐる中産以下の人々にとつてもつとも金のかゝらぬ、都會生活調節法と考へられる。



第十六圖
設計二建築家 Heinrich Silôss



第十五圖
ベルリンーニエシーンリルベネーエヒルベネーのヒルベネーエシーンリルベ外街市のるゐてれあにラウベンコロニー

ウキーンの田園都市組合及田園都市建築は大戰後初めて國民的運動の結果としてあらはれたのであつた。以前は五六階建

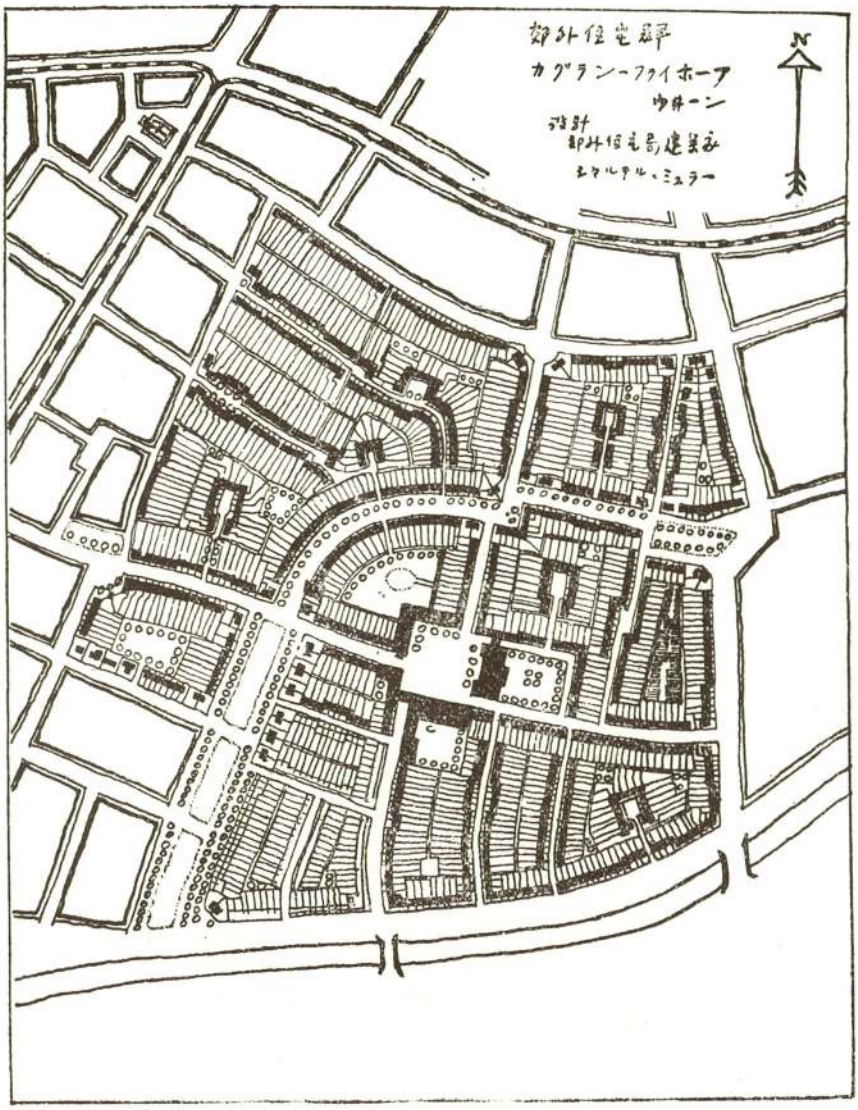
の借家が近郊の古型の二三階建の家を驅逐して居り、地價は速に騰貴してゐた。

家宅は漸次、セセッコマシクなつてゆき、家と家との明き地は益々小さくなつてゆき、小供の遊び場は單調極まる四角な家に圍まれてしまつた。

田園住宅運動が起つて此傾向の價値を認めたウヰーン市は此時代思潮をよろこんでうけ容れたがこゝに四つの問題を解決せねばならなかつた。

即、交通の問題、土地供給の問題、建築資金の問題、建築を簡易ならしむる問題、であつた。

第十七圖



交通問題といふのは市の中心から離れた處にあり、又田園住宅群自身も廣い面積を有して居るので市の中心に達する爲めに便宜を與へることは重要な問題である、之は戰後ウヰーンの交通機關の復活、市街鐵道の交通網の適當な完成、市外線市街汽車線の電化及山の手線の復活等によつて解決に近づいてゐる。

土地の問題は一九二一年に市會の決議により外郊の一部を田園住宅へ寄贈することによつて準備された。市の境に近く集つてゐる之等の田園住宅群は將來小さな田園都市で出來た花壇として市の中心を取巻くことゝなろう。

第十八圖の一



西側よりの建築

裏庭より

田園住宅建築のための土地の實際の準備は結局ウキーン市によつてなされたので即一、九九二戸即九三%は市有地で百四十戸即七%は個人所有及國有地の僧院所有地から成つてゐる。

此外に市は自身で二六五戸の郊外住宅を三つの區内に市有地の上に建てゝ居り一九二五年の市會の決議による郊外住宅プログラムは市有地の上に更に五百戸を増してゐる。之に對する市有地の大さは百萬平方米及三つの市有郊外住宅群に對して百二十萬平方米、一九二五年末には百三十萬平方米に達した。此數の内には以上のもの以外の市有地に建てられた個人の出費によつて建てられた方は計算に入れてない。

之等の市有地は大部分戰後に買收及收用したもので、郊外住宅組合に建築權の内に含めて三・五%位の建築利子で提供してゐる。

次に資金調達の問題は一九二一年及一九二二年に於ける郊外住宅建築の初めに於てのみ國庫及市が關與しその際國庫は八九〇、〇〇〇シリング（一シリングは我約三十錢）を六一三戸の共同財産組織の郊住宅群に支給した。

一九二三年以來は必要な費用は市から出すことゝなつた。

一九二三年、一九二四年には組合を補助して一五一九戸の郊外住宅が建てられその時市は一六、二一〇、〇〇〇シリングを建築前金として與へた。

此外三つの市有郊外住宅群二六五戸に對して、一群に對し二、四五八、〇〇〇シリングを支給し、一九二五年に決定したプログラムに對しては八、〇〇〇、〇〇〇シリングを用意してゐる、一九二五年末に於ける郊外住宅に對する純建築費は二七、七ミリオン、シリングに達した。

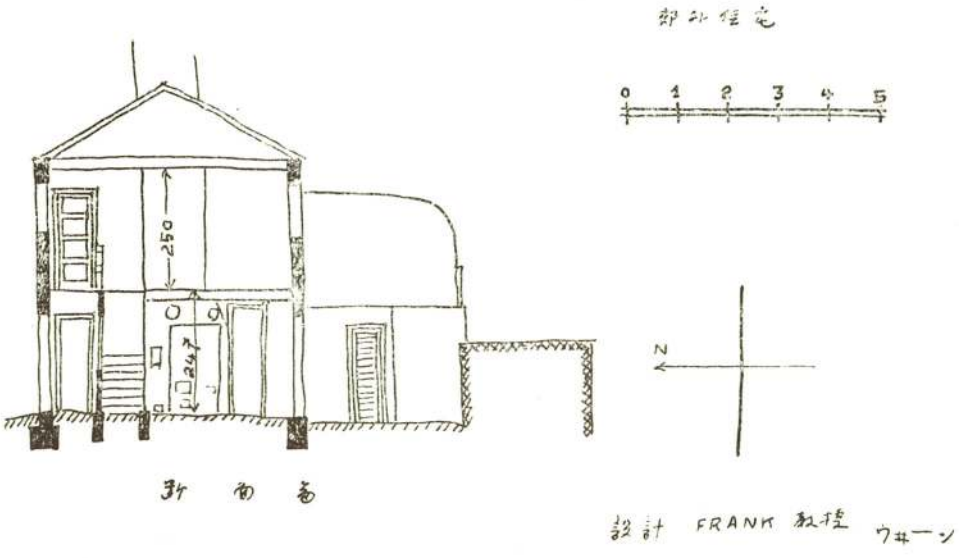
組合に用立てた建築前金は落成後低當借款に變へられる可きで、その利子支拂及償却は家より生ずる利益の割合によるものである。

然し營利的事業でないため、利子支拂及償却は將來期限を定めず延期が許されてゐる。

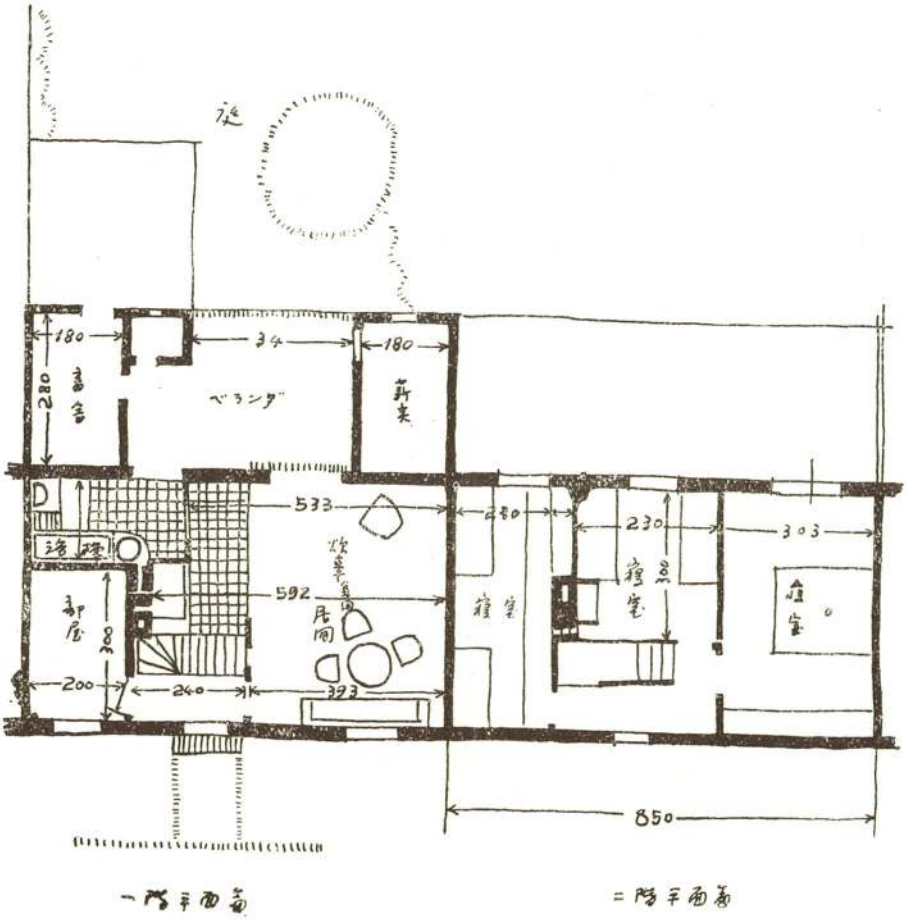
田園住宅の建築の實際的可能に對する特別の意義から、建

築の役所としての市から建築の簡易地が認められた。それが為めに頑固な建築規則の一大改革が行はれた。即以前に於て扱はれてゐた。一階の高さは二、六米に、中空の壁がマッシ

第十八圖の二



第十八圖の三



一階平面圖　　二階平面圖

は小さい一家族用の住宅が五六階建の大共同住宅と同様に取

ーヴな壁の代りに、支柱なしの持放しの木造小屋組、屋根の陸梁の二階梁としての兼用、褐炭枯草便所の應用等が認められ、又組合の長家建郊外住宅は數家族用共同住宅としての權利を適用せられた、此外總べての點に於て郊外住宅組合のために殘りなく考慮せられた。

ウキーンの郊外住宅の設計は一部は民間の建築家の手に一部は郊外住宅局の建築家の手によつて設計されてゐる。即ち市の郊外住宅局は之等の設計を獨占せずして知名の建築家に之を依頼してゐる。

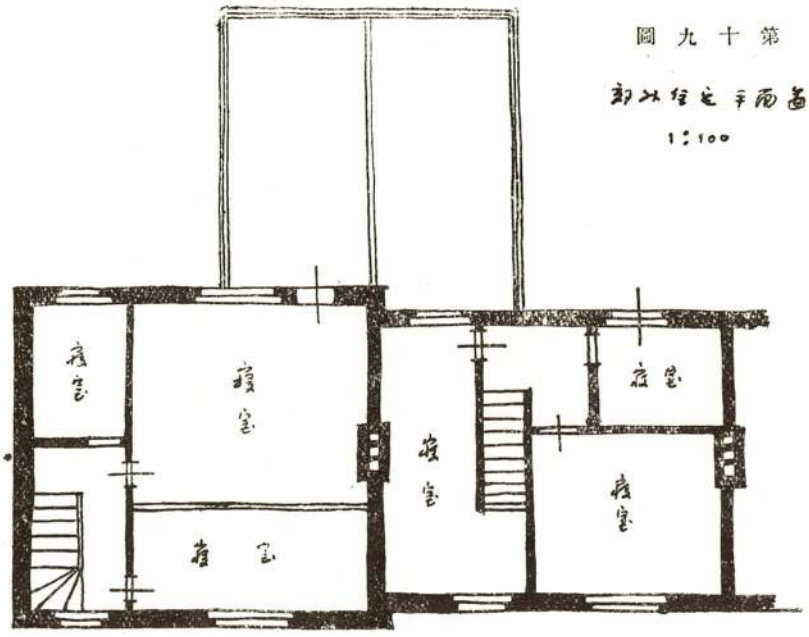
ペーター、ベーレンス。ヨセフ、フランク。ヨセフ、ホフマン。ロース。

等によつて各々特長ある建築が行はれてゐる。

第十九圖

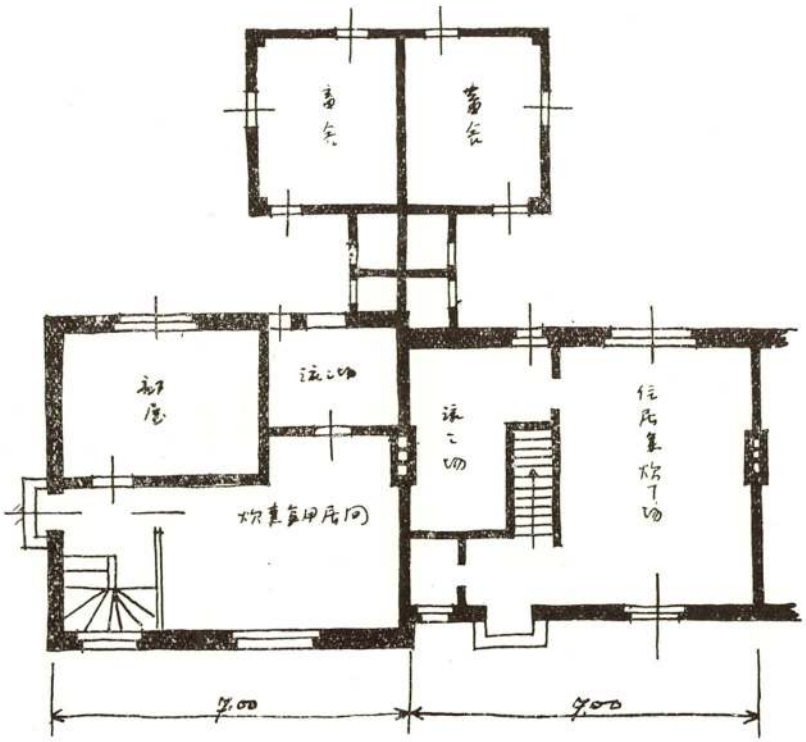
郊外住宅平面圖

1:100



二階平面圖

設計 BAUBÜRO DES ÖSTERR. VERBANDES FÜR SIEDLUNGS KLEINGARTENWESEND



一階平面圖

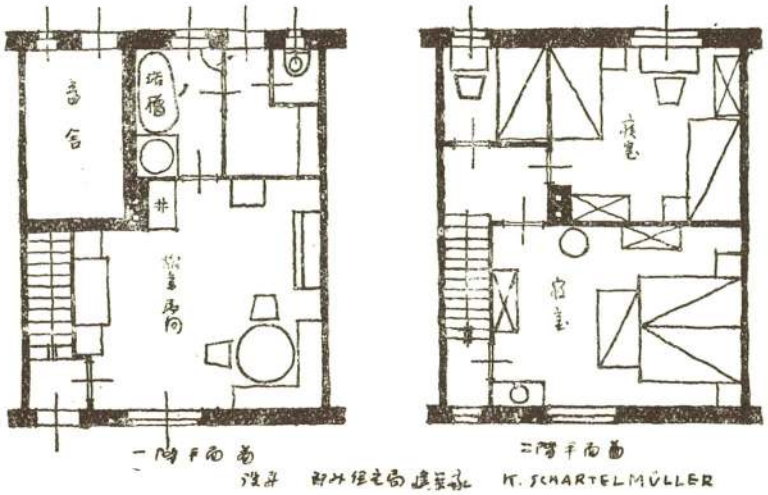
折角懸賞募集に當選した建築圖案も握りつぶして實施しない日本の狀態はウキーン等のやり方に比して立派であると云ひ得ようか。

建築敷地は三五〇乃至四〇〇平方米を單位としてゐるのであるが、土地が狹い場合には之を二〇〇平方米に縮少さる可く餘儀なくされてゐる。

組合は家屋の建築に對し及建築用地の開發のために必要な勞働の四割を組合住民の勞働によつて彼等の仲間のために無報酬に提供することに定められてゐる。

建築の施工、及設計は市の郊外住宅局が採用した設計に正確に從はねばならない、又費用の計算、勞働の授與及供給は局の同意を得ることを要する、建築借款からは狹義に解せられた家屋の建築に對してのみ費用を支出することが許されてゐる。

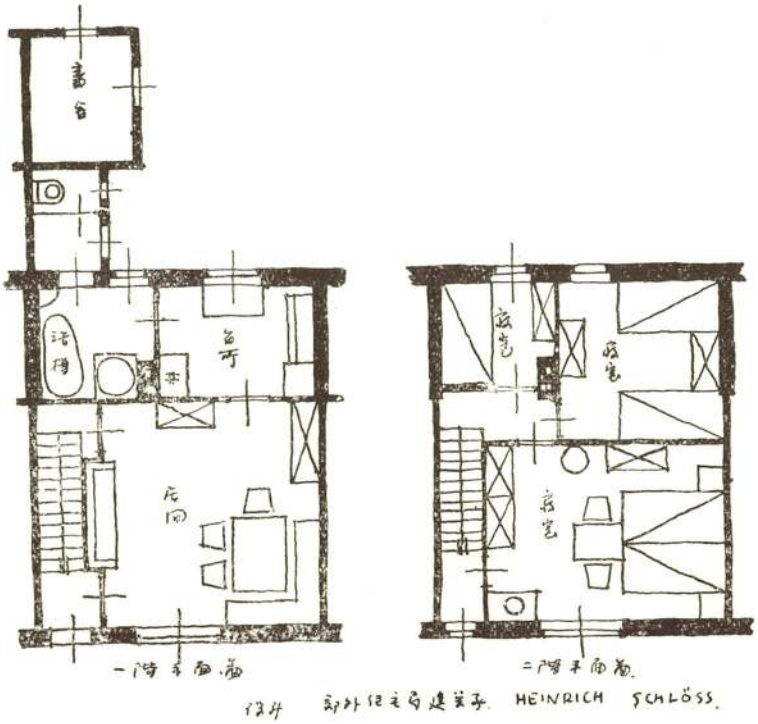
第二十圖



此規定は又其住民のために必要な表道路及家事用通路の建設にも適用される。

畜舍は普通母屋から離れて建てるのであるが土地の狹い場合には一家族住宅一戸の建坪四十平方米と定められ、此際には於ては此畜舍も家の中へ取り入れられることゝなる、この場合厚い壁で完全に仕切ることは勿論である。

組合以外のウキーン市有郊外住宅群は



第十一區　ワイセン　ベッカー街　七一戸一家族用住宅
第十三區　ヘルメス街　九五戸　同
第二十一區　カグラン　九九戸　同

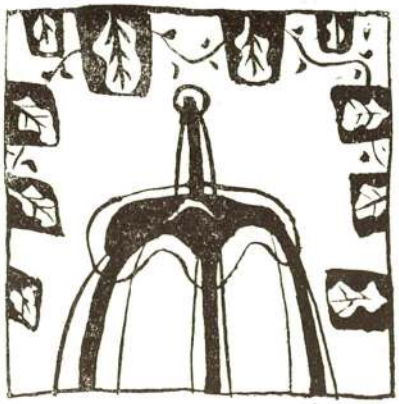
で之等は長家式に數戸づゝ纏めて建てられてゐる。庭は經驗によつて一家族に對して野菜の豊かな供給に充分なように取られて居る。（未完）

〔家（三）〕

家は一時の流行を逐ふものでない

大熊喜邦氏

住宅改善の聲の盛んなころ、世の中に示された文化村の住宅博覽會の家などは皆な相應な知識に依つて造られたもので、それが知識に乏しい職人に盲目に眞似られたり、鵜呑にされたりして烏が鵜の眞似をしたことになつた一時の流行を逐ふものではない、好奇心に驅られる筋合のものでも、無論ない偏重な見解や、誤解に陷りたくない、今日の科學を遺憾なく應用して、私達の趣味も十分に取り容れられなければならない。住心地よい家、それには穩健な趣味といふ樣な精神的の要求も實は大きな要素であらう。先に云つた近頃の家には特にこの精神的方面の要素が、投げ遣りにされ勝である樣に見られる。所謂文化住宅には、この精神的要素を取り容れるに餘りに餘裕がない、餘りに無駄が無さ過ぎる。家にはある程度の無駄が必要なのでないだらうか、そして住み心地もよくなるのではないのだらうか、家には無駄、精神的に必要な無駄が欲しい。ある程度の無駄がなければ、とてもゆつたりとした氣分になれない。それは經濟といふ事にも關係して來るものであるが、經濟上省くべき無駄は、却て外に澤山あると思ふ。兎にも角にも、家も住心地よくするには精神的に見て多少の無駄が、實は必要なのである。若し無駄が全くなくてよいならば、洋服を着た時にネクタイは無くてもよい筈であらう。無駄と云へば、今迄の家の樣に、木材の生地其のまゝを賞味したり、好んで美材珍木を貴ぶのは寧ろ無駄である。僅な庇や、多少の節は塗料を施して、其の缺點を補ふ事が出來る。現に上方では、昔から家の內外に塗料を施して木材の表面を保護してゐるが、これで材質の缺點も補ふことが出來てゐるではないか。眼に見へぬ所に施された潔癖な、どうでもよい工費これなども亦無駄なものである。本玄關に內玄關に勝手口、こゝにも省ける無駄がある。客便所と家族の便所、それに下便所、是も考へさせられる。この樣に數へ上げれば、無駄と思はれる無駄はいくらもあるもので、私達はこんな無駄を省いて心地よい無駄が作りたい。



實費計算に關する尚二三の研究問題

實費報酬加算制契約に於ける所謂實費の範圍に就いて(三)

岡田宗一

本誌五月號及び六月號に亘りて實費報酬加算制契約に於ける所謂實費――報酬金算定の基準と成る可きもの――の意義と範圍とに就いて論述し、特に其の對照としてワシントンの米國建築業協會(The American Institute of Architects, Inc. Washington, D. C.)の提案になる實費報酬加算制契約(The Cost-Plus-Fee System of Contructing for Building Construction)の中實費に關する條項を列擧して後、彼我に於ける其の見界の差異を次の如くに指摘したのである。

一、間接費(工事現場に於ける)と實費との關係
二、支給品の價格と實費との關係
三、直營工事費と實費との關係
四、償還さるべき實費と利子との關係

以上四つの點の中(一)間接費と實費との關係に就いては既に前回紙上に論じたから、今回はそれ以下に關して順々に述べたく思ふのである。

(二)支給品とは施主が施工者に工事の完成を委託する場合特に契約を爲して工事に必要なる材料のみを自己の手にて購買し、以つて施工者へ支給するものを云ふ。セメント類及び鐵筋類或は木材類等工事主要材料に多く此の例を見るのである。施主が支給品を提供する理由は、全く市場價格の騰落の關係及び其他自己の利益を打算したるためにして無下に此のことなきは勿論である。元來、勞力手間及び材料の供給共に請負人の請負範圍に屬する一式請負法(General Contruct System)にありても較近、支給品なるものが現はれる樣になり殊に工事費の原價の神髓を第一條件とする實費報酬加算式制度にあつて此のことの存するのは當然となつてゐるのである。扨、茲に問題となるのは實費報酬加算制契約の場合に是等の價格が所謂實費中に包含さるべきや否やである。即ち支給品は施主自らの支出によつて購入したるものなれば施主より觀れば工事實費の一つなれども、更にこれを分類する時に報酬金算定の基準と成る可き所謂實費ならずとする說と、支給品とても所謂實費として報酬

金算定の基礎とする説とになる。而して今、嚴正なる解釋を下すとせば勿論後者の方正當とするのである。何故ならば支給品に就いて其の品質の選擇及び金錢上の手續には施工者は何等の關係なしと雖へども、苟くも施工者が支給品を施主より受取りそれを工事に使用する以上、其處に種々なる加工及び運搬等の手間が生ずるわけであるから、矢張り施工者は所謂實費として其の取扱整理のための報酬金を加算することになるのである。最近、米國に於いては施主が支給品となる材料の選定及び購入を行ふ際に、施工者は自己の從來の實際經驗を正直に披歷して、其の適當なる材料商人を推薦する權能さへ與へられてゐると言はれてゐる然れども實費報酬加算式施工法の根本的精神よりして支給品の存在は、餘程の利害關係がない限り施工者へすべてを一任する方、工事進渉の上に於いて如何程使宜が得らるか知れない。

(三)施工者が實費報酬加算制契約により施工する場合に、施主が特に直營工事を行ふことは屢々見受けらるゝところである。元々、直營工事とは前述の支給品と其の性質なり目的は略々大同小異であつて、施主が自己のため又は種々なる事情により工事の或部分若くは工事進行上特種作業に就きては、施上者に委任せずして自ら施工することを云ひ例へば衞生暖房裝置工事又は電燈配線工事其他裝飾工事等の如く、施主が是等の工事費を所謂實費に計上せしめずして直接に直營工事請負人へ支拂ふものを云ふ。此の場合一見して直營工事の存在することが實費報酬加算式制度に何等の支障をも惹起せず、且つ施主の權利の範圍をも尊重する以上至當なりとするも、其處に實費報酬制度を採用して萬全に其の効果を期するためには實に考究すべき點が見出さるのである。即ち理想より言へば是等直營工事も、前述の支給品と同じく事情の許さゝ限り施工者の施工に一任するのが良き結果が生れるものと推意するのである。其の理由としては第一に施主側の實費計算の見地よりすれば、自己が一定の建築物の起業を初めるに當り特に實費報酬加算式にて施工をなさしめんとする場合、同一建築作業場に於いて甲なる箇所を實費報酬計算による施工者に委託し、乙なる箇所を直營工事請負人に請負はしめる時は、施主が其の工事の根本を實費に基礎を置いてゐるため恰かも人間の身體に猿の首を着けた形式となるわけである。再々記する通り實費報酬加算式による實費の計算は原價計算を外にしては無一の價値に等しきことは火を見るより明かなるところであつて、苟くも原價計算の目的物たる同一建築物のもとに非實費的な異分子の存在せしめることは、畢竟するに實費報酬加算式制度の根本的精神に違背することになるまいか。尤も專門的技術と經驗とを要する前記諸特殊工事を直營にてなす場合は、其の工事費の可成り大なるものを實費の範圍外となすことにより、報酬金も從つて縮少せしむる利益ありと考へらる結果であり又一面前記諸特種工事請負人を施工者の手を經せしむよりも自ら請負はしめたる方工事費も廉價にて濟むと思はるゝ趣もあるけれども、是等は全く素人考へであつて報酬金を節減せんとするがために却つてより以上の大なる利益を貪られることになり、又施工者により施工せしめたる方が是等の諸特種工事請負人

は從來の下請關係よりして施工者へ對し無暴なる見積をなすことを得ず、却つて豫期せざりし廉價にて見積る樣になることを施主が知らざる罪にあると言ひ得るのである。次に施工者側より述ぶれば、最初工事を見積る場合に是等の直營工事が存在するがために其の工事との限界點に困難を來たし、或は後日實費を立替支拂ふ時にも同樣複雜することがある。又實際工事現場に於いても次の如き困難が伴ふ結果となる。例へば手傳小仕事が直營工事にも必要なる場合、直營工事と施工者による工事との間に一見して判然と區別し難き現象が生じて來る。更に此の事實を具體的に說明すれば、コンクリート斫り屑の掃除人夫賃及び其の塵捨運搬賃の如き、或は直營工事請負人側の職工が施工者に屬する足代を使用して仕事する場合等の如きが適例であつて前者に於いては直營工事請負人の斫り屑や其他の塵埃と施工者のそれとの分界は、同一場所にては到底立たず、後者の足代の如きも一々施工者が自己の足代を監督する必要に迫まられることになる。かゝる場合に生ずる種々なる支出費用は、果して直營工事請負人の負擔に歸すべきや否やに就き可成り面倒なる紛議を釀す樣な見苦しい結果を齎らしてゐるのである。從つて是等の諸費用が實費となるや否やに關しても、未だ當事者間に明瞭なる了解が成立を見ずして常に施工者の負擔となつて仕舞ふことは眞に此の制度のため遺憾に堪へない次第と思ふのである。殊に實費報酬加算式施工法に於ける施工者は、單に建物の建築を委託されたるのみにして工事に關する材料及び其他の工作物のすべてが施主の所有に屬すると雖へども、工事の宣成の曉に於いて全建物を施主へ引渡す迄は依然施工者に保管の責任が殘されてゐるわけである。故に止むを得ざる理由の存する限りは施工者をして困難なる立場に置かざる方、工事全體の進渉上に就いては餘程利益があることを斷言しても差支へないのである。要するに實費報酬加算式施工のもとに行はる直營工事は、前述の如き理由よりして完全なる其の効果を收めんと欲せば實費の一種として取扱ふべく、更に直營工事の存在するために生じたる施工者の負擔に歸すべからざる施工者の諸支出費用は、勿論實費に計上すべきが公平なる解釋と考へるのである。

(四) 施工者が一時施主に代りて立替支拂ひたる工事實費を施主より償還を受くる場合、利子をも請求することに就いて些か述ぶることにする。尤も此の問題は實費其者の本質には何等の關係もないけれども、將來實費と相對して必らずや論議せらるゝものと思ふから此處で記する次第である元來、實費報酬加算制契約に於いて工事實費の支拂は、其の契約により異れども、每月拂となすか最終に一回一度に支拂ふか若くは二三ケ月宛に區分して支拂ふ場合もあるが何れも支拂實費は實際工事に要したるすべての金額であつて、普通工事の請負金のそれの如く出來高の內歩金ではないのである。而して其の支拂形式たるや大部分施工者が施主に代り立替支拂ふものにして、施工者は每日七日前後(大概の場合)に於いて次に揭ぐるもの、即ち

一、前日末日迄の工事費

二、前月末日迄に施工者が支拂ひたる材料價格にして監督技師により認められたるもの

三、契約の率により算定せられたる施工者の報酬金の月割額――算定率は實費報酬加算制契約の種類によりて異れども、普通は總直接工事費を基準としての一〇%乃至八%とす。

によりて支拂請求書及び支拂工事費明細書を作製しそれに支拂證憑書類一切を添附して先づ監督技師へ提出する。監督技師は即ち其の支拂請求書へ認印をなし施主へ廻附するのである。而して施主の調査の後初めて施工者へ其の請求金額のすべてが償還さるゝことになるわけである。（其の期間は大抵の場合通算して一週間とす）扨、此の立替拂をなす理由は、施主が施工者の提出したる支拂請求書が正當なるや否やを詳細に證憑書類と對照して、其の月末迄にすべて實費を拂出す隙なきを以つて便宜上、施工者が代辨するのであつて目下我國に於いては專ら此の方法が行はれてゐるけれども、米國等には往々異例が見受けられるのである。即ち工事費の前拂をなすものにして、施工者が豫め翌月の支拂實費の見積書を作製し、施主より前拂を受けたる內より工事費を支拂ふか、或は契約の當初に於いて總工事費見積高の八歩金を前受けして、毎月の支拂の結果及び其の內容を施主へ洩れなく通告するかの方法が行はれてゐる樣である。是等の前受制度は實に當を得たるものにして、常に他に金融機關を十分有ざる請負業者又は施工者にとつて斯くあるべきであらう。然るに我國に於いて專ら行はるゝ立替拂の金額は、所謂施工者が自己の金庫より支出したる資本にして、それが屢々償還を受くるに可成りの日月を經過する――勿論種々なる原因はあれど――場合に、それだけ資本を遊ばすことゝなるから兎に角支拂日以後一定の期間を經過してからか、或は支拂日より償還日迄の金利を計算して施主へ請求すべきであると云ふ問題が、最近施工者間に覺醒されつゝある樣である。期くありとせば、一朝金融市場の逼迫する時と雖へども施工者へ對し工事を續行せしむるに、少からざる安堵を與へて大なる好結果を得らるゝことになりはすまいか。

以上四つの點、即ち(一)間接費、(二)支給品、(三)直營工事、(四)償還金額に對する利子に就いて大體實費報酬加算制契約の所謂實費の範圍に關する實際的方面を論述したのであるが、其間尙看過され然かも研究の餘地の充分存する點も少くなしとすれども、我國の如く過渡期にある狀態に於いては寧ろ當然と言ひたい。而してそれらの缺點を幾分補ふための種々なる對策なり、或は將來に於ける此の制度に對する希望條件も種々あれど、何れ後日改めて筆を執ることにした。

戰雲漸く動き戰干は獨逸の天地へと走つた一千九百十七年四月より今日迄、米國に於ける實費報酬加算制契約による施工法の經路を辿れば眞に顯しき進步發達をなし、現時は恰んど理想的なる契約のもとに一般土木建築界の流行兒となつてゐるのである。反之、我國は未だ其の過渡期にあると雖へども、近年擡頭したる此の實費報酬契約による施工法の深遠なる趣味と、偉大なる價値とが次第に巷間に知られて行く狀態を見ては、實に斯界のため同慶の念に堪へないのである。然れ共茲にたゞ遺憾とすべきは、施主、監督技師及び施工者の當事者が此の制度の眞の妙味が奈邊にあるかを知らずして、寧ろ惡用とも云ふべき自己の利益にのみ汲々たることである

換言すれば、施主、監督技師及び施工者の三者が一致協力して一つの建築物に對しては、中世に於ける Craftsmanship の時代時代精神とも云ふべき眞劍なる力と熱とを以つて完成することが、やがて相互的利益となることを知らない事である。故に其處には何等見るべき打算的感念なく、又一片の僞瞞爭鬪の跡もない須らく施主、監督技師及び施工者は正しく紳士的信用關係にあり、且つ常に "One family housed under the same roof" なることの深く心に銘されんことを祈つて止まないのである。

余は既に本誌上三回に及んで實費報酬加算式契約に於ける所謂實費の範圍に關する拙文を掲げて論じたが、これにより將來此の制度の健全なる發達を望む上に於いて斯界のため多少なりとも貢獻することを得れば、非常なる幸福と滿足とを感ずる次第である。

（完）

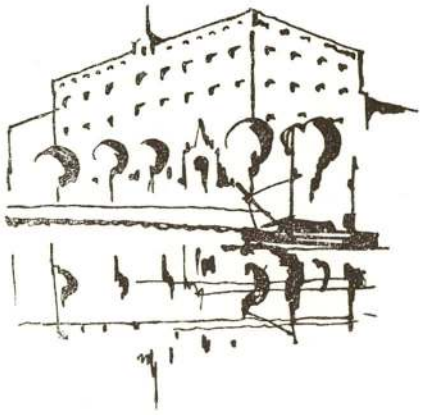
「家（四）」

椽側の有難味を忘れた此頃の家

大熊喜邦氏

輕衣涼風をいれながら、椽先に腰打ちかけ、今日この頃の綠濃き青葉に眼を移し行く趣はかの鼻先のつかへる樣な洋間の窓から、首を突き出したのとは全く比べものにならない。其の溫和なゆつたりとした心持は、到底他のものでは得られない、座敷から緣側、それから天與の美景それを通にすれば、庭から椽側それから座敷、椽側は人爲の座敷と天與の座敷の連である。此ういふ趣味に養はれて來た私達がこの天與の座敷から切り放されて、壁で圍んだ座敷に居やうと云ふのは、鼻先に高塀み立てられたと同樣な感じがするのも無理でない。それたけ椽側には無駄と言へば無駄がある、それだけゆとりもある、住心地のよい所もある。然し今日のやうなせち辛い世の中では椽側の樣な人手の掛るところは節約するとして椽側の趣を失はず、其の調格を捨てない何物かに變つて行かればなるまいと思ふそれでも切詰め主義にはそれだけ無駄になる樣に思はれるがそれは無駄の樣に見えて無駄ではない。精神的に其の位の巾とりがあつてこそ、住心地よい家となる。

床の間は、日本の座敷に重要な位置を占めてゐた、これあるが爲めに、座敷に餘裕も出來れば變化もある。唯一の裝飾の場所ともなる四方壁の箱の樣な座敷とは比べものにならない。裏長家でも建て込んだ店先を見ても、バラックの窓でも、歩道の僅な空地でも草花や植木鉢の一ツ二ツを見かけない所はない。如何にも心持のよい國民趣味で、この趣味はやがて床の間にもある。疊一枚半坪の面積は貴い床の間は緣臺に改造するがよいといふ說もある、然しこうして日ぐらしい家となるのであらう。長屋式の一間か二間の家アパートメントの極く切詰めた座敷には疊一枚の大きさも貰からうが三尺の床の間は決して贅澤ではない。二十坪卅坪の家では疊一枚は他に節約する場所がある。床の間位の無駄があつて座敷に餘裕も出來れば樂な心持にもなる。椅子テーブルなるが故に床の間は不調和だとも言ふ、調和する樣にはいくらでも出來る。床の間があるから、萬年懸軸でも置けなく餘分な幅物も買はなければならぬ、懸軸がかけたければ壁にかければ事は濟むと、床の間廢止論者は言はう、然し裏長屋にも草花の鉢があり、さゝやかなバラックにもかけものはかゝつてゐると私達は言ひたくなる、かけものは兎も角として、床の間位の餘地は心の餘裕に必要であり、それだけ居心地のよい家とすることが大切であると思ふ。



近世劇場構造（一）

Edward Bernard Kinsila
池田谷久吉譯述

照明（Lighting）

現今に於ては全世界到る所の劇場に於て其の照明は非常に進歩發達し、最早や或る程度迄完成の域に達してゐることが何人も認め得るところであります、殊に獨逸に於ける此の方面はチュートン民族が一般劇場構造に於て卓越せるものと同一歩調に進んでゐることも事實であります。

近頃では間接照明さへ應用されて劇場内觀客席がどこから明るくされてゐるかわからない様な方法が用ひられて非常に大なる効果を收めてゐます。

これは現在に於ては歐洲から輸入されるところの大きな管狀の白熱燈に依つて容易であります、そして此の管は過熱を防ぐために直徑數吋、長さ約十二吋程もあつてしかも其内部表面は反射鏡として役立つ様に銀鍍金を施してゐます。

亦此の内側の鍍銀は反射鏡面に塵芥の積ることを防ぎそして此等の光線が穹狀をなす天井の廻り緣や蛇腹のすぐ上部の背後に密接して設け付けられるときは其の光線は不絕、柔い白熱光線を分散させ普通の白熱電球が斑點の多い結果を齎すに反し此れは全然其の欠點を補ふ様に出來てゐるのです。

此の爲に一般觀覽者に對しては光線がどこにあるかは全くわからないことになつてゐます。然かもデンマー（Dimmer）と呼ばれる光線調節器を以つて此等の自己反射管は思ひのまゝの程度に强弱を加減し意の如き照明を與へる事が出來るわけであります。

此の優秀な反射光線の効果に就いては一般に十二分に認められてはゐ乍らまだ公衆劇場では悉く使用されてゐません、これは單に僅かな裝置費用の節約といふ理由のみでありまして他に何等取り留むる丈の理由のない以上このまゝ默殺され

ることは遺憾千萬であります。

そこで光線が所謂間接的のものであつても其の裝置が露出されてゐる時は其處に種々の目に見えない障害が起つて來るものです、それは塵芥を被り其の塵芥が熱せられると不快な惡臭を放散することがあるのですが反射光線は何等の陰影をも導き入れず他のいかなる種類のギラギラ光る眩輝光線よりも遙かに美術的で且つをだやかな沈靜的な光線を與へるものであります。

棧敷下の光線(Light Under the Balcony)

棧敷下の空間はなるべく露出照明裝置のものを避けて溫色透明の硝子板をはめてそれを反射光線に依つて照し出す樣にすればよろしい。最近紐育に出來た宮殿の如く宏壯な活動寫眞館ライアルト劇場(Rialto theatre)は最も面白い方法を用ひて裝置され同樣な效果を收めてゐます、即ち光線は自動的に其の時其の時に從つて蒼青色から柔い薔薇色に薔薇色から蒼青色にと變るのであります、此の光線の自動的變化は色を異にした管を平行に裝置することに依つて容易に觀客席全體に導き入れる事が出來ます。

棧敷階段照明(Illuminated Balcony Steps)

赤又は青色の溫色硝子板を通した間接照明を用ひて舞臺の演出には何の影響もなしに只階段の昇降や、廊下の通行の觀客が暗がりのうちでも觀客が躓いたりなんかしない樣にする事も出來ます。

空席標示燈(Vacant Seats Lighted)

活動寫眞館に於いて改革すべきこともたくさんありますが最も手近な問題は椅子の背中に小さい赤や又は綠の電球を嵌め込んで空席であるときは其の明を點けて置いて案內係員に其處が空いてゐることを示す裝置であります。

外部照明 (Exterior Lighting)

外部照明は非常に澤山の樣式なり工夫なりが次ぎ次ぎと絕えず案出されますのでそれを特に取り立てゝ吹聽してよいかわかりませんが此處にも亦キラキラする眩暉光線を全く排斥して或る形式の間接光線を取る事にいたします、即ちそれは單純な反射に依るか又は色のついた半透明の寺院用のガラスを通しての反射に依るかのいづれかでなければならぬと思ふのであります。

此の樣式ではガラス越に光つた電球の外廓が見えて餘り美術的ではないかも知れませんが此れは致方のない事であります、入口の兩側の上の壁柱と壁柱との間にある高い大きな窓の色硝子が反射光線に依つて明るくされ輝やかに照されてゐるのは實に活動寫眞などにとつては一つの有效な標識であらうかと思ひます。

舞臺照明 (Stage Lighting)

スヰツチ盤の位置(Location of Switchboard)

舞臺照明の方法並に原理に於ても亦大なる進步を見ました此の進步した歐羅巴の劇場では舞臺照明を調整する技師の居る場所さへ變つて來ました、此等の劇場では電燈用配電板は管弦樂室(Orchestra Box)に接近して舞臺下に設けられます此處から照明技師は昔の役者の後見、黑ン坊が舞臺裏から役者の忘れた科言を言つてやつたりしたものと同じ樣な穴から

彼が送つてゐる光線の効果を充分に檢査し且つそれを調節して行くように出來て居るのです。

蓄電池による點燈(Storage Lighting)

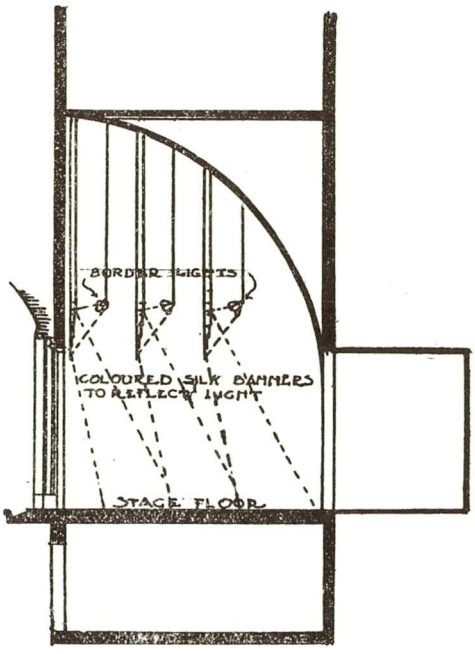
多くの劇場ではその光線は主として蓄電池を利用してゐます。何故なればもつと規則正しい光線をもつと現實的な効果をあげるには此の方法に依つた方がよいからであります。然し此の方法は只僅かに豫備として或は萬一の場合にのみ用ひる樣に設けられてゐるばかりであります。

フォーチュニー式

(Fortuny System)

伊太利の畫家フォチュニー氏が一つの間接舞臺照明の組織を發明したのですが、それに依ると非常に好結果を得ましたので將來一般的に用ひられるようになるでせう此の方法はハンギング、ボーダー(Hanging Borders)と反對の側に設けられ强い燭光の電球に依つて光線が送られ、その光線は隨時に種々色彩の變化の出來る色絹の垂幕の樣なものによつて反射されるのであります。此の間接光線は非常に柔かい感じの照明を與へ色彩を分解したり混合したりする事に成功する特徴を持つてゐます。

此のフォーチュニー式はホリゾン(Horizon)の設備のない場合の照明にも用ひられるのです、尙亦此の方法はもと〳〵古くから暗示はされてゐたのですが今迄は實際的には少しも行はれてゐなかつたのでした。此の舞臺照明の改革は昔の直接照明光線が舞臺上の道具を照り輝かしてその物の影を全然零にしてゐたものに反して實に飽和的な柔い雰圍氣を釀成することが出來る樣になつたのであります。



脚光の時代は過ぎた(Footlight Abandoned)

舞臺照明に於いて脚光を主として使用するといふ樣なことは進歩した劇場では早や過去の遺物として忘れかけてゐることは疑もなき事實とまで進歩しました、脚光がある場合には觀客席の照明に就いて前述の如く赤、白、青の管狀不透明ランプが三列に水平に相連つてゐるものを調整するためには普通用ひられる所の三色不透明電球を用ひるよりは餘程よい結果を得ることもあります。

現在進歩した劇場では上からの光線と反射された側面光線とから光を投射する方法を採用して眩暉脚光線に代へて用ひられてゐます、また同じ樣な方法で現實的な光線を放射してホリゾン(Horizon)に嵐を起し、雲をかける必要のある時はステレオプチコン(Stereopticons)が使用せられます。

アメリカに於ける多くの劇場では四十ワットの電球が脚光の爲に用ひられてゐます、そして其の脚光は脚に八ツのランプが配置せられてゐて規則正しき順序を以つて赤、白、青と色が變つて行く其の結果は或は單純な或は複雜な舞臺効果を

つくるのであります。

脚光の凹凸間の距離は二呎か三呎位のもので露出した表面には棧敷に脚光の眩暉光線が反射しない様に淡い黒か草色かを塗つて置く必要があります。

ボーダーライト(Border Light)

ボーダー、ライトは青、赤、白等種々の色電球を内面を鍍金した鐵の樋狀のものに納め舞臺の上部天井から伸縮自在の鎖で吊り下げられたものであります。ボーダーライトの各の距離は普通六七尺にて五六列を設備しその間にセットだとか幕だとかいろ〳〵の吊り物が配置されてゐます。

舞臺照明のボーダーライトはプロセニアム (Proscenium Opening)より長くし少くとも二呎以上なければなりませんが其第一列はプロセニアムより短くて約二呎あれば足ります。

凡て舞臺は其の入口の左右に夫々自然電燈の舞臺用電球承口と數箇の便利に配列された『アークポケット』とが設備される事が肝要であります。

又色電球を入れるために交代し得られる様になつてゐる電球承口を設け附けられて配列せられたすべての明りと關係してバンチライト (Bunch Light) やストリップライト (Strip Light) の充分な供給がなければなりません。(未完)

〔家(五)〕精神的の無駄

室の融通性も必要

大熊喜邦氏

窓にしてもそうである。壁に穴をあけたゞけでは鼻先のつかる感じは避けられない。床までの窓とすれば、そこに多少の餘地が出來て、座敷にゆとりがつく、僅の面積ながら、廣い感じは面積以上に思はるゝもので、狹い家ほどそうである。大阪や京都の家は、この出窓で座敷に餘裕がある樣に見へてゐるこの手法は洋風でも同じことである。この樣な例を擧げて話せばまだ〳〵幾らもあるが、兎に角、心地よく住むには、精神的に見て多少の無駄が實は必要で。省くべき無駄は却つて外に澤山ある。飜つて言ふ。近頃の所謂文化住宅では、室の用途を全く極めて仕舞ふとする傾向が見へるが、これは室の融通性を奪ふもので、それがために、却て窮屈になる、室としても多少變轉自在なところがあつて、初めて餘裕のある家となるものであらう。また心地よく住はれる家ともなるであらう。そして茶の間、家族團樂の居間、それはなるだけ大きくするが心地よい何と言つても家族は茶の間に集まるものである。日本風の座敷にしろ、椅子テーブルの茶の間にしろ、私達は常にそれを體驗してゐる、茶の間は池の中の麩である、金魚は自然とそこに集まつて來るものである。更に言ふ、市街熱鬧の巷防火の區域にある家は火に燃へぬとを強要されてゐる。家屋櫛比の中にある家、それには火に燃えぬ用意がある。耐火にし防火にするには鐵筋コンクリート造りにすることが便宜であることは言ふまでもないが、そうすれば窮屈な沒趣味な家となつて、住み心地が好くないとの說を成すものがある。重れて言ふ、經濟的に無駄を省いて、精神的の無駄を作ることである。それに言ふに言はれぬ餘裕が產れて心地よく住めるであらう。そして、鐵筋コンクリート造りとしても、强ち洋風の座敷とせずともよく、日本風にしたければ、造に昔ながらの座敷とすることが出來る。本造の日本座敷の趣味と環境は、立派に作り出すことが出來る。家を住心地よくすることには、まだ種々な說もあり、工風もあらう。それは今後の方々に讓つて、自分は中程度の家を標準として、概念丈けを述べて一先づ筆を擱くことにする。(完)

酒樽の家

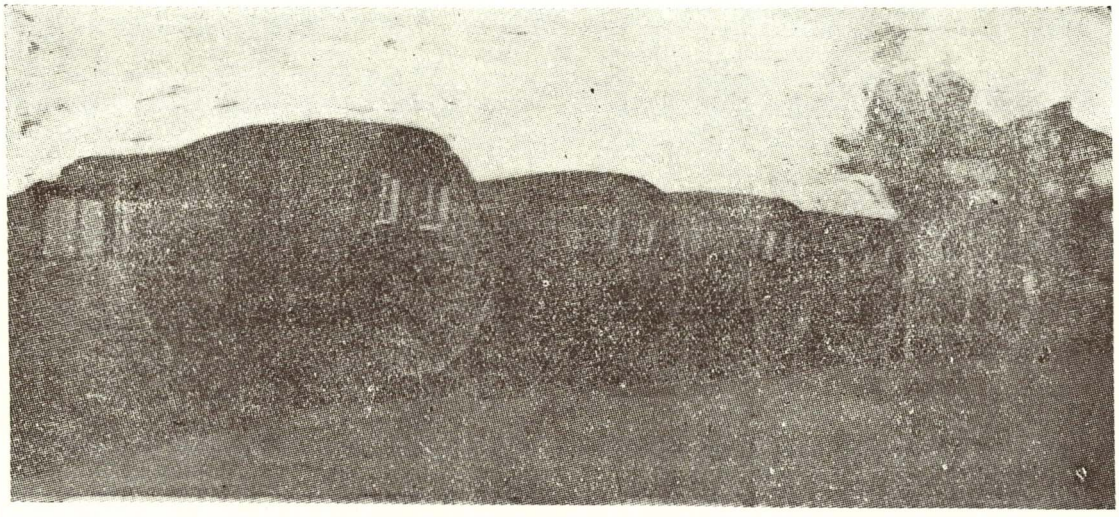
靴の中を住家にした婦人があつた、自分ばかりか大勢の家族まで靴の中に仲よく暮らした老婦人の話は昔の夢物語りであるが、廿世紀の今日酒樽の中に住む人間が現れた、しかも、禁酒國のアメリカ、現代文化を一人占めしたやうなアメリカでの出來事である、酒樽の村はオハイ州のヴアーミリオンとサンダスキーの中間に出來た、奇抜な酒樽の村はゼー・オネール氏によつて作られ、同氏によつて洗禮を受けたのである。（無論水を使つて）

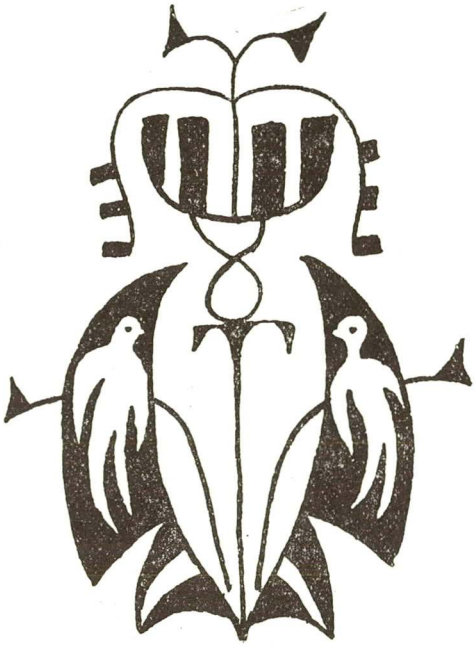
◇

長さ十二フィート、幅九インチの酒樽の家が井戸、すらりと並んでゐる光景は壯觀である、オネール氏はある日、酒類卸店の店に、おしげもなく捨てられてゐる酒樽をながめて『フム』と一人でうなづいた、そして、思ひついたのが、酒樽の家である『酒樽の中に人間を住まして見たら……』……もうテント生活でもあるまいといふ珍奇を好む心に、幾分の茶目氣も加つて彼は早速獨創的の工夫を凝らした樽の後方には二つの小ぎれいな窓をつけた、樽の下には手頃の支柱をこしらへた、そして樽の内部を三室にしきつた、ポーチも組立てた、二周間あまりで出來上つた氣のきいたバンガロー・ストーブも電氣も、浴室も、すべて不自由なくそなへられた、風が吹いても動かない、雨ももらない。

◇

果然、酒樽の家はアメリカ中の大評判になつた、自動車旅行の連中はこれも彼も訪問するやうになつた。オネール氏もいよ〳〵乘氣になつて、旅客の歡迎に力を入れるやうになつた、ポーチに出ればまこと日あたりがいゝ、絶好の衛生的な家屋である、樽は生々した綠の繪具か塗立てられた、ポーチは白色、それに綠の色彩をとり入れたすが〳〵しさ、一つ一つの家の名前は第一號第二號などいふ殺風景なものではない、すべてが酒の名前である、見る人が見たら名前だけでもふるいつきたいやうなものばかりである、たとへば『ボート・コツテージ』『セリー・コツテージ』『ライン・コツテージ』『バーグンデイ・コツテージ』等々、禁酒國のおきてにこまりぬいてゐる連中には家の名前だけでも非常なみ力を感ずるといふ、旅行家たちは從來のキヤンプ生活の不便と不快を救ふ新發明だと隨喜の涙をながしてゐる、オネール氏は一つの酒樽に最近店を開いた、酒は賣らないが藥や、ソーダ水、アイスクリームなどがその店頭で買はれる、酒樽の村は次第に繁昌して、オハイオ州のみならず、アメリカ各地の山中や海岸に流行しさうな形勢である。





建築師の惱み

八洋生

世に建築師程不可思議な性格を世間から期待されて居る人間は有るまい。それは建築師の仕事には氷炭を容れざる二つの方面があるからだ。建築師は藝術家である事を世人は期待する。然も建築が紙上の計畫に止らず一つの構造物に造り上げらるゝ以上は、數理に長け科學に通ずる事をも期待されるのだ。

由來、藝術と數理とは、兎角縁が遠く、仲が悪い。美醜は數字を超越して居るが、又建築は數理を離れては能き得ないのである。建築が構造を離れない以上は、建築家は永遠に美醜と理智との間に惱まねばならぬ。然も、美に偏すれば、實利に遠ざかり、理に則すれば、醜となり易い。思へば、建築師の仕事程自家撞着の多いものはあるまい。

二十世紀の建築は、昔の建築の如く單なる人間の容器ではなくなつて來た。十九世紀から二十世紀に發達して來た科學の殆んど全部は建築に適用されて來て、無機體であつた建物は今日では、一種の立派な有機體と化したのである。例へば之れを人體に比較して見れば、暖房組織は血管で、排給水は消化機能で、汚水淨化の裝置は腎臟に當り、又電燈、電話、電鈴は神經系統に擬せられる。此等の働きが停止した時、現代の建築は殆ど用を爲さなくなる。だから、昔の建物が人形であれば、今の建物は生きた人間である。昔の建築師が人形師であれば、今の建築師は何に譬へようか。人間は神が創造したものとすれば、現代の建築師を、神に近い仕事をして居

るとも見られよう。骨格が頑健で、容貌が美しい丈で、神經衰弱に罹つたり胃腸病に苦しむで居る者は、現代の活社會に役立たぬ如く、現代建築に此の機能の缺陷があれば、良い建築とは云はれない。爰に、新時代の建築師には、又建築師として爲すべき新なる仕事が增し、新なる惱が加わつて來たのである。

二十世紀は、金融の制度が確立し、經濟萬能の時代である昔の如く、金錢と時間とを超越して建築した宗教建築の時代や、王候貴族が絶對の權力を有つて、時と勞力とを無制限に空費して宮殿を營むだ時代とは異り、世の中は却々以て世智辛い。建築も經濟的にして、何でも豫算で抑へつられる時代だ。組織的な事務の許に早く建て上げねばならぬ厄介至極な時代だ。だから、近代建築師にも、また經濟的事務的才能が必要になつて來た、そして、更に惱みが一つ殖へた。

最も優れた建築は、其時代の生活樣式に適合して、最も良く其建築の目的に叶ふものであるとすれば、二十世紀の建築師は、最も良く最新の科學に通じ、常識に富むで居なければなるまい。此處にも又更に更に新なる務と新なる惱とが待つて居る。

上は帝王の宮殿、商業の殿堂から、下は貧民長屋の汲取便所の設計までする建築師の職業は、斯く觀じ來れば、實に多技多業で、建築師は、人間としては矛盾の多い許多の性格と才能とを兼備して居ねばならぬ處の、神に近い才能の所有者であらねばならない。また惡く云へば、恰も鵺の樣な怪物でなければならない。

藝術的才能、數理的才能、經濟的才能、事務的才能、一體、此等の間には、互に相容れないものが多い。昔からの名たゝる建築家に見ても、單に藝術的であり、數理的であると云ふ事すら困難な事であつた。クリストファー・レンは、英國の生むだ最も偉大な建築家で、初めは數學を修め、劍橋大學の天文學の先生であつたが、後半生の建築家としての作品を見ると、理智に走り過ぎて、藝術的には何となく物足りない處がある。まして、經濟的才能や事務的才能が、此等と竝行して行く事は、更に困難ではあるまいか。

單に建築の藝術方面をのみ見ても、建築が綜合藝術であるために、建築家の惱みは多い。建築美は、形態の美と、色彩の美と、形と色とを表はす材料の撰擇と、此三つが俟つて行かねばならぬのである。形態の美と、色彩の美とは、天分のある者には割合に容易に之れを求むる事が能きよう。然し、之れを表顯さす材料の選擇に至つては、美的天分ある者必ずしも其選擇に巧であるとは言い難い。建築は、材料によつて其色彩の美も、形態の美も、表現せられるのである。又、良い建築に面した時に感ずる處の、云い知れぬ美しさ、偉大さも、其使用した材料による事が多い。ラスキンは、大理石像には云い知れぬ生命があると云つた。こんな特殊な美的要素を表はす事の能き得ない寫眞や石版畫を觀て、歐米の建築の批評をする所謂世の批評家の大膽さに驚かされる事のあるのも所詮は斯の理である。だから、建築師は、先づ材料を知り其性質も解り相當の經驗が必要になつて來る。經驗の少い藝術的建築家の、實際に建てたものに失敗が多いのは、此れが

爲である。建築圖案の展覽や、博覽會の建築の如く、二三ケ月で消滅するものならば、それも割合に困難や失敗は少なからうが、永久的の建築となれば、之れが更に六ケ敷い此處にも又若い建築師の惱みがある。

建築樣式の問題にしても、建築師の永遠の惱みである。舊套を脫し、捉はれざる或るものに進まんとするのは、要するに人生の意氣だ。然し、偉大なる天才の出現を見るに非ざれば、樣式のレヴオリユーションは望まれない。一時代を劃する處の樣式は、一人では能き得ない。多くの禮讃者、追從者があつて、初めて其時代の樣式となるものである。偉大な天才の出現のない時代には、漸進的な推移エボリユーションに俟つの外はあるまい。藝術的天分に惠まれざる建築師の惱み悶えは、樣式の獨立不羈を標榜しながら、ピルチツヒやメンデルゾーンを摸倣せねばならぬ矛盾と、意氣地無さに陷らねばならぬのである。

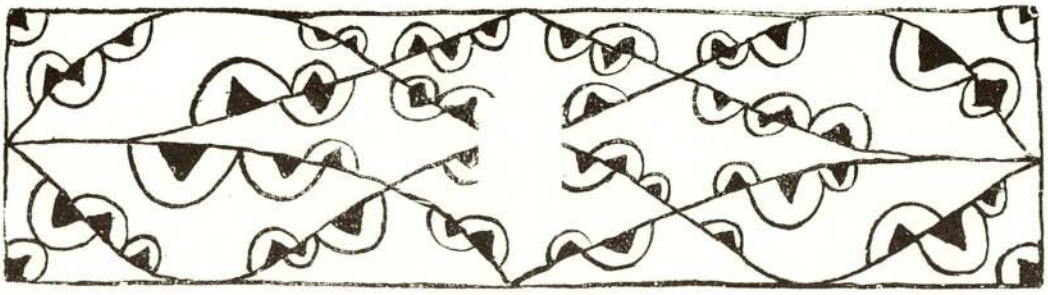
孔子は二千年の昔『學んで而して後新しきを智る』と云つた。今の建築師の樣式に對する惱みでもそうだ。濫蕾なくして工夫した新案の樣式には、何等の妙味もない。繪畫の未來派の創造者が修業時代に描いた一つの林檎が如何に眞面目なものであるかを知つたなら、其主義の上に無理のある後期の所謂未來派なる畫を描いた時に、何となくナイーブのものゝある理が肯かれる。日本畫の大家の一抹の筆にも、云い知れぬ味のあるのも、其素養が爾かあらしめるに外ならぬ。

建築の藝術的方面丈でも建築師の惱みは多いが、構造の方でも少くはない。例へば、地震などに對する建物の力の働きをシンプルハーモニックモーションとして簡單に片付けて置かねばならぬ現在の建築では、良心ある建築師は却々滿足能きない筈だ。然し、斯の問題が完全に解決せらるゝ時期は果して何時來るであらうか。

建築は人類文化の表徵である。科學的の發明で建築が其影響を受けぬものはあるまい。電燈、電話皆然りだ。例へば飛行機にした處が、之れが發達したら、建物の屋上にも一般の玄關を設けたり、自動車庫の代りに屋上に格納庫を作つたり更に進んでは、建物の窓から人が飛行機で飛び出し、飛び込める樣にせねばならぬ時代が來ぬとも限らない。此處にも、建築師の新な惱みが、將來に待ち受けて居る。

斯く建築の各方面夫れ自體の間にも、解決の困難な問題が多くあるのに、建築師は何れにしても夫れを全部取扱ひ、其時代智識の程度で何とか取纏めて行かねばならぬ。然も、互に人間の性格としては兩立し難い種々の智識と技倆とを、供へて居なければならないから、建築師の惱みは他の何れの仕事よりも多い譯だ。

一面から考へると、建築は人文發達の程度を最も雄辯に語るもので、現代の建物が、人間の身柄にも似たる有機的の機能を有するものであるから、之れを造る建築師の職業も、人間のあらゆる職業の中で、最も有意義のもの、神の業にも近いものと見られようか。然し、人間が神の如く萬能でない限り、建築師の惱みは一入深い譯だ。



線を凝視めて

大須賀巖

（一）

二本の線を凝視める。一本は太くて一本は細い若し二本同じ太さだとするとヨク小供の娯みにやる様に横線を幾つか之に加ふれば、其横線のつけ様によつて平行線が曲つて見たり、一方が短かくなつて見えたりする。太い一本と細い一本とを較べて見るとモウそんな間違ない代りに凝視めて居る内に頭の中へ細い線は何處となく品があつて太い方は毒々しい感じが湧いて來る。る更らに頭を換へて凝視めて居ると細い方は何處となく貧乏臭い様で太い方は福々しい感が湧いて來る。夫を方程式にして見ると品のよいものは貧乏臭くつて福々しいものは下司張つてるといふ答迄出て來る。大阪市廳舍が出來上つた折に、夫が正面を見るために道路が狹いといふて攻撃した人が大分多かつた様に記臆する。實際私共が毎日出會してゐる事象としてプランで考へたものエレベーションで見た建築の設計が現實に地上にあらはれた時に今更ながら失望したりアトマイヤーしたりすることが多い。又現實に見慣れた建物が繪になつたり寫眞に撮られてドウもそのものらしい氣がせない事が多い。宗教家から言はせたら眼で見るからの疑とでもいふのであらう。

（二）

都市計畫の諸大家は軌を同じふして都會生活の缺陷を指摘してアパアトメント生活の悲慘の事例を洋行歸り毎に示して呉れる。西鄕南洲先生が濱町の町家中に住居を置かれた時、當時の陸軍大將邸としては餘りに屋根許りの中であると慰藉的に忠言した人に對して、青天井がアノ通り見えるではないかと言つて、參内の大禮服に腹が締らぬのを手拭で卷いて平氣であつた宏量振りを發揮したといふが矢張り此言葉の中に負け惜みの悲哀が窺はれる。小兒の遊ぶ所もない都市生活の生粹共同建築は夫が假令アパートメントの名を冠せられるにしても不自然のものである事は疑ない。然かし自然を愛するからとて蒼空の下に日光に直射され或は風雨に曝されては居られぬ。假令方丈の茅葺小屋にしても床の間に一輪の花を挿して憩ふ事は風流人ならずとも、金があつても無くつても氣のきいた心地はする。又海を見たいといふお客を座敷に通して圓窓から窺はせる呼吸は時代を超越し

て禮讃されて居る。別に痩我慢でなく眞に歡喜の心を以て共同生活裡に之等の、自然其儘には得られぬ、生活方法が人間の一面にある事は疑ないといはなければならぬ。屋根裏の哲學其思想は雄渾の者でなくヒネクレ者の考であるであらうが貴族文學の空想抒情的なものに比して遜色なく又夕顔棚の下涼み以下にも秤量すべき價値のものでない筈である。私共には或人のいふ如くにアパートメント生活を此世の至上の樂園として推奨する如くにはあり得ないけれども或人の樣に之を以て止むを得ざる人生の罪惡として一も二もなく排し去らうといふ氣持にはなれない。之を生かして樂園たらしむると否とは要するに今後の建築家其人の大なる研究の曠野ではあるまいか。

（三）

建築は時の表徴であるダカラ時代の要求は建築にあらはれて來ると學者先生諸先輩は敎へて下さつてる。今私共の耳に大きな聲で響いて來るのは民衆化運動―階級制度打破の叫びである。我國では士農工商の階級は已に大方打破されてゐる樣であるが土方連！大工達！などいふ如何にも差別ありげの言葉は吾人の日常生活の中にないともない。又法科萬能の主義に對する技術家諸士の運動といふ事も其機會ある毎に社會の耳目に觸れる。然かし社會主義的或は社會改造論者といふ人々の口々より叫ばれる階級打破は最早職業的のものでなく所謂富者と貧者との差等打破が悲慘な音調を以て鋭く唱へらる結果其處此處に深い刻みをつける。殊に歐洲大戰後の民衆運動なるものは猫も杓子も的に傳へられたのでツマリ横に於ても縱に於ても民衆化は我國の現在として社會相の大なるものであり從つて建築にも之を及ぼすべきは言ふを俟たない。鐵筋コンクリート造の建物は簡單明瞭と材料の最も細かい然かも材料を何處へでも持つて來ることの出來る點に於て又型の自由な點からいふても此要求に適應するものであらう。此外の理由として地震國としての我國に又耐火構造としての効果に於て其他等々の理由を以て無論反對の餘地のないものであるがために鐵筋コンクリート崇拜者の一人として曾ては住宅にも出來合普請用材料を供給することを、實は內心恐る〳〵主張したこともあるが、今日では鐵筋コンクリート住宅は權威者の人々によつて本誌上にも最早再三御紹介があつた程に勿論のものとなつてしまつて居る。只今日迄の之等建造物に對する感じを忌憚なくいふならば社會主義者の想像する如き社會が現出したとしても私共の妻や娘を間違ひる程同じ程に生れ代つて來ない限りは絕對平等とか無差別とかいふことは此世に顯はれて來ない、否寧ろ共通の社會は大きくなつても、個性の發揮は愈よ大となるであらう如くに、鐵筋コンクリート造の將來は種々相の興味ある變化を私共の社會の表徴として今後靜かに歩いて行くのではあるまいか。寫眞で見る外國の百軒長屋の夫々の苦心の裡に之を物語る或ものがある樣に思はれる。

（四）

本誌七月號卷頭言にウキンデルバンド氏の建築は藝術にあらず的の說が載せてある一方小野田秀作氏の住宅の美學には「建築を藝術ではないと異論する馬鹿者は今の世にはおそらくありますまゐ」との高見が載つて居る。之につけて思ふのは我邦建築界の一權威と信じてゐる野田俊彥君は建築は藝術にあらずといふ主義

者だとか承はつて居つた處此間の一高の校友會雜誌によつて同校の茶話會席上では藝術亡國論を高調されたとある。評判の君が主張は矢張りそれであつたかと微笑せらるゝのである。之をキツかけとして野田君と小野田君と東西に分れて一論戰して頂いたならばソレからソレと兩君の深い蘊蓄を披瀝して頂く結果、建築藝術論以外に第三者の拾ひものをする利得は尠なくなからうと思ふが、建築藝術論其ものだけは要するに藝術其ものの定義の爭ひで終ることであらう。人を殺すと腕ップシの强ひこと以外に自慢の種を所有せない元和天正の頃に、太閤樣の推奬息まない茶ノ會は藝術讃仰論であつたらうし江戸末期の歌澤、河東節の流行時に節約令の斷行は藝術亡國論であつたらう又此頃の廣告文句文化の樣にアレも藝術これも藝術と鼻持ちもならなくなつた時代に藝術とは何で在かの反省は「直觀を以て與へられた表現であり眞面目な仕事に拘束されなかつたり又は個々の事情に束縛されずに無計畫的に表現されるもの」といはざるを得なく成かも知れぬ。然るに「彼の手で分析する時惜い哉唯精神の紐が缺げる」底の憾が物質至上主義科學萬能主義に表はるゝ時、唯誰もが世界は今こそ何物をか產み成さうとして打震ふの感を抱くは自然の理である。ロマンシズムから自然主義更らに表現主義と時代と藝術の諸相とは各々の方面に表現されることを知り得る。藝術といふものが奈良朝の特產物でもなければ葉一枚一枚を克明に描かなければ承知出來ぬものとも限らぬ。又今日の如き社會經濟に即する者ゝみが全的でもなく又之等の各々が藝術でないとは妄斷も甚しい。スレば建築が藝術でないか否かの論も其人としては其人の科學と藝術、藝術と生活との關係に關する立論によつて決せらるゝと思ふ。

（五）

文化住宅、簡易住宅、無駄のない家の主張は最早今日新しいものでない。之迄隨分と諸家の力作の發表も拜見したがドウも世間的にいふならば評判が宜いとはいひ難い。私共がヨク素人設計をやると戶の締らない家が出來たり物の隱し場のない居間が出來て專門技術家の膝下に跪いて定例の設計に從はざるを得なくなるはヨクある例である。田舍出の下女君は切りに都會生活の狹苦しい事をコボす、富士の裾野から近衛の兵營に入つた新兵君は衣食住何れも苦しいとは思はぬが規則生活に惱むと嘆つたとか、新しい設計にも此邊の苦惱があるらしい。

加藤清正は土木工事に於ても偉出した人物だと言はれて居る。その事蹟を見ると此人の遣り口は河の流に從つて水を治て居るがサリトテ矢張り堤防は築いて居る、自然であるといふ事を以て何事も自然であるとしては取扱つて居ない。レイセイフキルは自然ではない、今日の都會の狀態はなるが儘にあらしめた結果の惡である。凡ての科學の力を以て統整された自然でなければ科學の眼をつぶる宗教の迷信と同じことである。私共の事務所、住居矢張り科學の上の藝術であらねばならぬと信ずる。建築を藝術として否定する論者もロダンの彫塑は之であるとうわれるのであらう。彼は「私の氣質は熱狂して居ません氣長です、私は夢見る人ではない數學者です、若し私の彫刻が善いならば夫は私の彫刻が幾何學的だからです」とラスキンの建築論とは或る一致を見出す心地がする。

衣更には惡くすると風を引くこともある、さりとて何時迄襟のよごれた古綿入

を青葉の蔭に着て居られやう。理性に訴へて文化生活を期圖する勇者の前に私共は敬意を捧げる。因襲の國から理性の國へは一飛びには行かれぬ、けれども流れに逆はずに堤防を築けば惡川を治すことが出來る。科學の堆積の上に藝術の眞心を以てすれば彼岸はサ程に遠いものではないと考へられる。

（六）

又野田俊彥君を引合に出して御氣の毒であるが先月の大學新聞に同君の伊太利スケッチの面白い書面のお隣りに弱虫の理窟といふ題下には新聞の記者であつたか「のみが飛ぶ時に費すエネルギーを考へると更らに奇抜である、のみは一飛びすれば一フートの高さまではね上る。身體に比例して同じ強力の脚を人間が持つてゐるとしたら人間は三百フートの高層建築物をも一ト飛びに飛び越すことが出來る、すると四十間や五十間の橋はかける必要はなくなる」と書いて置いて然か

し人間は腦髓の作用で機械を發明して人の力の幾萬倍も力を出すことが出來ると力むでゐる。

更に私は負惜みかも知れぬが一言をつけ加へて云はう。私共人間が自分の體重の千倍萬倍の力のなかつたと、又體軀の五尺セイ〳〵であつたとが、人間を中心とする此世界を今日迄作り上げた、を、祝福したい。考へて見ると人間の體軀の大さとか力とかいふものは古來その限界は定まつて居る、昔の人は大きいといふた處で今日の人の二倍とはなかつたらうために人間の文化が何億年進み來たつたかは私には計算出來ぬが穴居であつたらしい、原人種に近い生活又屋根型の小屋から出發して堀込むだ岩窟、スカシ掘の窓、柱から石煉瓦の構造、柔靱性の物質と曲木に覆ふた家屋からドームに發展と略ぼ同し丈けの眼の高さの餘り距りのない人々の生活條件の上に次第々々に積上げて來た筋道を考ふると實に神の慮りの深大なることを思はずには居られない。

若し繪にある樣な羽翼を持つ人間、韋駄天又巨人が一時代りとも挾まつたら人間の棲む家はコウいふ長い努力を眞直に續けて來ることは出來なかつたらう。日本人は之を以て日本人の家だと思ひ北歐の人は頑丈作りな石藏的なのを家だと思ひ南歐人は明るい廊下作りを家だと思つて今日でも執着の念が強い、從つて各々の文化が汽車の道の樣に通つて居る。今日以後如何に空中路が開拓され又現在のエレベーターがヨリ一層便利になつたとて私共人間の足で踏んで上る階級は一尺より二尺を超ゆることは出來ないし戸棚簞笥の高さもソウ馬鹿げて大きくも小さくもならぬことは恰度汽車が出來ても自動車が出來ても吾々の足は矢張り必要であり又あらねばならぬと同じ理であらう。人間の巢はこういふ條件の下に永久の生命のために只諸種の相を代へて進むことでなければなるまい。

建築の末梢神經

北村哲雄

1

藝術が生命の表現であるといふぬきさしならぬ公理は、今となつてはあまりにも過去くさい常識であるかも知れません。從つて、建築に藝術的生命があらねばならぬことを說明するよりは生命があり得ないと强辯することの方が難しい程、最近の我が國民の建築への敎養も高められたと信じていゝやうな、喜ぶべき現象を私達は見ることが能きるやうになりつゝあります。がこの建築に藝術的神經のあることを、議論で以つて信じ得ない人はまだまだあり得ます。建築はもともとその藝術的生命を以つて、其永く榮ある存在を保持します。生命なくして、全ての存在物の眞はあり得ません。藝術的生命なき一切の存在は、實に在てなきものゝ影の如きもので、もとより論ずるに足りないものであります。しかも、今こゝに言ふ藝術的生命は確にあり乍ら、その藝術的神經の充分なる働きをなし得てゐない實に多くの作品を、私たちは幾度とはなく周圍に見出します。生命の活現躰は神經です。神經は生命の觸手です。その觸手に完全なる働きを求め得ない生命は、事實に於いて、その本質を缺けなく表現しつくすことを得ず、極めて萎縮し衰退した慘めなる蒼ざめたる姿でもつて、辛うじてその哀しき存在を認められるだけであります。生命感の不幸なる稀薄はこゝに招來されます。藝術はこゝにその枯死の期を早めます。美はいつとはなくそこから雲散し去つてしまひます。生命を死骸でもつて掩ひかぶせる結果とはこれを言ふのです。如何なる優拔なる表現樣式もその神經の固却にあつては、一本の藁屑と同じの感覺しか有ち得ず、如何なる天才と熟練との輝きある技巧もその神經を無視し默殺しては、その求めらるべき効果を充分に印すことは能きません。神經の細き慄えがその作の雰圍氣の核心となりがちです。

藝術家たるものゝ魂は、始終　美へ向つて、細かく、愼ましく、眞劍に、一途に慄えてゐなければならぬとされてゐます。恰もこれの如く、藝術の觸手も慄えてゐなければ、それが永遠の美にいつまで和やかな連鎖を保ち得ることは不能であります。藝術に於ける神經がそのよつて來るところの生命の優れて流動的であり、飛躍的であり、活潑であり、勇敢である如くあればある程、そこに生み出され、反映し出される感覺は、美は、優れて靈感的であります。靈感を單に神經から引き出し、受けとらねばならぬといふことは、今日までの永き過去時代に波浪

もなく生き延びて來た私達にとつては、いくらかの恐怖と躊躇との感じを抱かないではをれないのではありますが、今の私たちには、この眼前の實にも生々しい現實を、どうしやう力もありませぬ。

私の今言はうとするところは、かゝる時に於ける建築の未消神經が、如何に過されねばならぬかに就いてゞあります。

2

藝術に於ける未消神經を極端にまで主張したものに、かの未來派の如きものはないでありませう。未來派はすでに多年多方面に四肢を伸ばして種々なる運動を續けてゐますが、しかも、その建築方面にては未だこれと指示し得べき作品もなく、又見せないうちに、漸次その思想の普遍化されると同時にかの熱火の焰にも似た魅力の色も褪せ、その主張者にもその原始未未派者のかの殺氣立つたる暴敢さを失ひ、その時日もその宣言書の最初のが發表されて未だ今日まで二十年を數へず、その運動も誕生當時の藝術運動の埒外に早速躍り出して政治的にまでその口舌を投げ込み、「我等、美術館を、圖書館を破壞し、道學主義と婦人主義とすべての筒井順慶主義的並びに功利主義的怯懦と戰はんとす」と主張して藝術上の完全なる無政府主義の旗を押し立てたまではよかつたのですが、危險や暴力に對する愛や軍國主義や愛國主義や「世界の唯一の衛生であり唯一の敎養的道德」である戰爭等を聲高く讃美し、その母國イタリアの國際政治的勝利を力說するやうになり、ついには「戰爭萬才、オオストアリをやつつけろ！」とまで血迷つて絶叫するやうになつては、その藝術上の魅力は頓に失はれ初めたと言はなければなりません。その全らゆるものゝ傳統破壞者であることは是認能きます。が、その主張に忠なるあまり、そこに藝術の圈內に跳び出した暴力と爭鬪とをもつて有頂天になり出した時、すでにその本質は藝術上に於いては冷たく死につゝあつたと言はなければなりません。

未來派は藝術の眠れる生命をたゝき起し、腐れたる生命を混せ返へしたのだと或る人々は言ふかも知れませぬ。如何にもさうである點がないではないことはわかつてゐますが、こゝに大きな問題がかくされてゐさうです。

未來派の表現が建築へまでも及ばなかつたことは、その主張のあまりに極端なためであつたに依らず、反つてその末梢神經を唯刺戟し混惑させたに止まつて、そこにあるべき永遠の相を見出す餘裕を有たなかつたことに依つてをります。

單に獨り未來派とのみ言はず、立躰派表現派、等もとよりその主張には嚴然たる本質の相違はあるべき筈でありますが最近の全ての藝術論上の主張が、かうした末梢神經的の傾向にあるのは否むことの能きぬ事實です。これらの各主張に加うるに、未だ多くの名もない藝術論としての幾多の主張がありますが、すべてこれ、かうした傾向であることは否めませぬ。建築界の傾向亦一般藝術界と大差もなく、そこに非常の混亂迷執のあるのを認め得られます。

3

かくも雜多なる最近の藝術運動を、全て新時代の藝術運動と假りに名づけるならば、これらの運動の大部が、等しく、藝術の藝術神經をたゝきつけ昂奮させるのにかなりに大きな力を寄與してくれたことは、誰しも認めないではをれないところであります。その力の非常に有效で

あつたことは幸ひです。唯彼等のその主張が果してどこまでその本來の相のまゝ正しく主張され、又理解されてゐるかゞ問題となるべきものであります。

事實、彼等の過去藝術にたゝきつけた鞭はあまりに激しすぎ大きすぎました。で、目を醒ますと同時に、そこに疾走、狂奔、亂舞、混濁が初まつてしまつたのです。一切が白晝の街上へたゝきつけられてしまつたのです。すでにルネサンスの頃より漸進的に急がず躊はず啓發されて來た個性への理解、自我への復歸といふことが、今や、その滯りなき發展の頂上へ達しやうとして、こゝにはしなくもあまりにも巨豪なる時代にぶつかり、即座に混せ返へされて、熟したるも熟さゞるも、倶にその同存の價値をお互各個に主張し合ひ出したかの觀があります。新時代の藝術に失意を感じるのみであると告白する種類の人は、この混亂に身自ら混み込まれ、唯力もなく無我夢中で搖り動かされるにすぎない者であると言はなければなりません。この熾きつくやうな混濁亂舞の香氣は、彼等にはすでに魅力以上の、一種の强激なる苦味であるでせう。神經は絶えず慄へてゐます。その神經の慄えは、榮光にもあれ恥辱にもあれその微妙なる慄えをもつて、新時代の空高くその存在を告げないではゐないのであります。が、果してこゝに現はれたる慄えが、かく賞揚さるべく正純眞實であるか、罵倒さるべく惡穢虛俗なものであるかを　深重に考慮しなければならぬわけです。

4

末梢神經を唯徒らに昂奮させることは至つて易く、眞實にその神經のデリカシイを裏づけるに生命を以つてすることは實に難いことです。唯單に神經を雜然たる時代相の病的魔術にかけ、唯茫然自失せしむるが如き脅迫的な刺戟でもつて、一時的の壓倒的勝利はよし得られても、その勝利は時代と倶に速かに色褪せ去るでありませう。かゝる勝利は色褪せた花輪であるにすぎません。花火線香に依る眩惑は、唯衝動に驅られた奔馬が鐵壁にぶつかつてもんどり打つことです。藝術の眞の冒瀆とは唯その末梢神經をやたらに鞭打つて偏狹なる昂奮のうに押し込みその表現の歪みをのみ賞讃しやうとすることです。誇張された感激程藝術を毒するものはありません。が、唯徒らに過去を守ることに戀々とし、腐朽したる基礎と淺弱なる構造、低俗なる表現と愚雜なる美學とで以て、空間の空虛な充實を劃つても、新時代の精神の必至の流動といふものが、その如何なる隅々、全らゆる直線に、曲角に、柱に、窓に、壁に、敷石に、見出し得ないならば、それは今日要望されつゝある建築であるとは言ひ得ないものです。最近は、建築までを糊と鉸でもつて建てやうとする至極奇用な人がないではありませんが、建築を單なる既成の慨念と模倣の中に置くべきでないことは、こゝに改めて言ふまでもありません。

もと〳〵藝術の生命は、その作者なる藝術家の人格の生命からのみ、激しき苦しみと喜びとの後にのみ生み出さるべきものでありまして、如何なる生命も單に末梢神經の昂奮でもつて創り出すことは能きません。こゝに正しき內省と思索、深き凝視と沈思なくしては、神經の正しき生命的昂奮は得られません。

で、結論は、建築には新時代の種々相に極めて銳敏な末梢神經もあつた方がいゝ、あらねばならぬ、が、それが作者の

よき藝術家的神經に依つて巧に制御され補育されなければならぬ、といふことになりませう。

新しき藝術は新しき時代精神からのみ生れ出でなければなりません。新しき建築は新しき感覺に依つて育てあげられなければなりません。從つて、新しき時代の善美は優れたる末梢神經でもつて攝受し、その同一時代の醜惡も亦たその同じ優れたる末梢神經でもつて排除してゆかなければなりません。

時代は刻々に進轉しつゝあります。何といふ藝術界の進轉の素晴らしさ！新建築の誕生はむしろ樂しんで今日以後に俟つべきでありませう。

夏向きは日本座敷
所謂文化住宅では？

高等工藝學校　森谷延雄氏

何時でも冬になると冬向に、夏になると夏向に、といふ風に宗内裝飾を考へる方があります、が夏に涼しく冬に暖かくといふことは誰でも欲しい事でその心を滿足させんが爲めに、特別の室内裝飾を考へるのもよいが、これを以て本當の意味の室内裝飾の大部分と見て頂いては困ると思ひます、夏が來て慌てゝ夏向に部屋を飾りかへるといふ事は、よく考へてみると　その住居に缺陷があるから來ることと考へられます、夏向の部屋なり、冬向の部屋なり季節によつて考へる前、夏にもよく又冬にもよい住宅を我々は欲するのではありますまいか、ある方は化氷を置くかも知れません、ある方は涼しい氣持のする團扇を手にするかも知れず、扨も冷厳を下げるかも知れません、が然し此處に私は是等を考へる前、常に考へて用意して置く程度のものがあるといひ切り度いのであります、私が今迄いろ〳〵の方からの話によつて知る處は

所謂文化住宅

に住まふ方が最も夏の室内裝飾を欲してゐられるやうであります、西洋の流儀を借た今風の文化が或はそこに存在するかも知れませんが一方日本家に住んでゐる方の夏の用意を考へてみると日本間は今迄に何千回となく夏を經驗し、日本の氣候は勿論のこと他のすべての事毎に相應しく發達したものである爲、夏が來ても慌だゞしく夏向の室内裝飾を考へる必要がないやうであります、涼しい氣持のする夏の夏蒲團をおいたり、破草提灯をさげた夕を考へることは、私の注意を更に必要としてなりません、既に立派にの夏用意が出來てゐるこの日本間と、文化住宅なるものゝ室内を思ひ比べる時、その後の住宅の上に幾多の缺陷を見出し得る點に氣付かねばなりません、夏の室内裝飾を考へる前に私はよりよい建築と室内裝飾との融合を考へ度いと思ひます即ち前に述べた夏向の室内裝飾程度の具體を考へる事は、全く一つの常識の範圍であつて、この責任は主婦の手におかれてあゝと考へて欲しいのです、濃い色よりは薄い色、重い線よりは輕い線、涼しさを連想させる品々など、かうした事毎は皆主婦に考へていたゞき度い事であります、假に不幸な文化住宅なるものを私がお訪れしたとしませう、西洋風で無くてはならぬため、軒先の出が少いので暑い陽の灼熱と光りが、遠慮なく室内に這入りこんで來るので、日除けをつけなくてはならぬとか、種々の問題が出て來て甚だお氣の毒な事の多いのを知ります、いかに涼しい室内を得るかを考ふる前、先づこの邊の注意を先廻しにしていたゞき度いと思ひます、或人はいひます、壁紙を貼りかへて頂き度い窓掛けをかへて貰ひ度い、敷物を涼しさうな夏向のものにして欲しい……と細かに勸める方がありますが、こんな事が出來る方々は皆金の餘る位ある方で、何を好んで

暑い場所に夏

を暮しませう、皆避暑地に出かけて仕舞ふにきまつて居ります『凡てその儘でよい、唯夏が來ても冬が來ても慌てゝ室内裝飾を、初めから考へて置けばよい』暑いも寒いも心の持ち方等と、凝り固まらないでもよく、暑い日盛りの次には夏獨特の涼しい夕明りではありませんか

芦屋 八馬邸工事概要

位置　阪神電車芦屋停留所西南一丁
敷地面積　五百坪
建坪數　本館　五十八坪一合五勺
　土藏　十一坪二合五勺
　附屬舍　十三坪
總延建坪數　一百六十六坪五合五勺
　但し、六尺五寸平方を以て一坪とす。
着手及竣工期　地鎭祭　大正十四年四月
　起工　同　年十月
　竣工　大正十五第七月
工事期間　九ケ月間
工費　約十萬圓
建築樣式　スパニッシュ、コロニヤル風を加味せる近世式
階數　一部に地下室を設けたる外三階
建物高　三階部切妻屋根頂上迄三十六尺
本館各階諸室の配置
地上室　臺所の一部に使用
一階　車寄。玄關。廣間。客用手洗所。帽子置場。客用便所。應接室。書齋。客間兼居間。日光室。食堂。臺所。男子部屋。下湯殿。下便所。表裏階段。廊下。テレース。押入等。
二階　第一、第二、第三及豫備寢室。小供室。日本風客間及佛間。上女中室。化粧室。湯殿。便所。廣間。廊下。階段室。露臺。物置。押入等。
三階　日本風女中室二室（各八帖押入付き）。物置。階段。椽側。押入等。
構造の大要
基礎。敷地は舊芦屋川底敷を、數年前埋立てたる地にして全部砂地なり。されど本館は木造なるが爲めに特に堅牢なる地盤の要を認めざるが故に、深約四尺堀下げ、底面約厚八寸粟石搗き込み、建物側通り間仕切共總て底面三尺厚一尺五寸の混凝土を打ち、土臺下端迄は厚一尺の混凝土を打ち上げたり。
土藏は鐵筋コンクリート造とす。
軸部。本館は土臺（檜五寸角）柱及間柱共（米松五寸角及同三ッ割）各壁共筋違取設け小屋組共一部日本間廻り及日光室廻りを除き米松材使用
外壁面。外壁面は總て一吋厚コルク板打ちの上へ川崎式鐵網貼り付け、小砂利混凝土厚約一寸五分通り塗り付けたる上へ色スタッコ塗仕上げとなし
腰廻りは一部花崗石亂石積の他總て腰高約五尺通り鐵平石張り白目地仕上げ。
土藏は壁厚最薄の所にて八寸の鐵筋コンクリート打ちとなし、日本風白漆喰土藏塗仕上げ。
屋根　本館は野地板杉正八分板打ちの上へコルク板厚一吋打ち付け。ルーフキング半號品貼り。日本洋瓦製S形薫色瓦葺き。
土藏は野地鐵筋コンクリート厚六寸とし、谷川兩面磨瓦使用和風本葺き仕上げ
內部壁面　本館應接室及廊下は巾木仕舞。玄關巾木特種テラコッタ張。書齋腰羽目鏡板寄本アジロ形使用。客間ゴマ竹アジロ編み生漆仕上げ、食堂普通檜羽目板使用日

光室腰へ泰山燒アジロ紋テラコッタ高七枚通貼付。寢室及小供室は壁紙貼り。化粧室特種色タイル使用湯殿、便所等白色タイル貼、日本間は色砂壁を使用。

土藏は棚受根太として米松（セリ）三寸巾一寸八分約一尺五寸間に堅に取付けたる上へ一吋厚コルク板貼付け。日陶プラスター塗仕上げ。

床　面

本館玄關タイルモザイック。應接室コンベス塗。湯殿、化粧室、便所及日光室タイル張。車寄及ラレース鐵平石張。客間及食堂モザイック張其他は總て檜床板張色付けラック塗ワックス磨き。

土藏床一吋厚磨コルク板張、コルクオイル塗の上ワックス仕上げ。

天　井

總て日陶プラスター仕上げ、但し土藏は下地へ厚一吋コルク板使用。

各階窓及出入口。

本館一階外周窓には音響及盜難防禦の爲めに二重硝子障子嵌め込み。外障子はレッデッド格に組外開きとなし、內障子は正一分厚磨硝千嵌め込み上げ下げ障子とす。

二階は光線射斷の爲めに木製建具を外側に釣込み、內側はマシン磨硝子嵌め障子とす。

玄關脇及欄間硝子障子。階段踊場へはステインド、グラス使用。其他一重の入口へは汎建合資會社製品に係る捲揚シャッターを使用し、土藏表入口扉は大塚鐵工所製作に係る特別製金庫扉を使用せり

電氣設備

通用門及勝手門には門扉開閉によりて自働信號用呼鈴を裝置し、その他邸內各種の呼鈴裝置と共に百ヴォルト點燈用電流を使用するものとす。

一二階化粧室。寢室內洗面所及臺所使用溫水は使用水量に應じて給湯の流出する自働電熱裝置をなす。

其他臺所炊事用レンヂ。釜。アイロン煖房裝置。給水ポンプの原動力。點燈裝置等と共に、所謂電氣第一主義に設計裝置せるものなり。

瓦斯裝置。

瓦斯裝置は停電其他の原因によりて、電氣裝置の働きが完全ならざる場合の補助裝置として設備せられたるものにして煖房。點灯。炊事用瓦斯レンヂ等を裝置せる他、浴室に限り常用として、ユンケル型自働點滅裝置を有せる給湯裝置をなす。

庭　園

未着手なれ共來る秋季に入りて植木の植え付け時季に入りて始むる豫定にして和蘭ガーデンの趣味をとり入れたる純洋風庭園となす豫定なり。

工事設計及監督　古塚正治建築事務所

現場主任　八馬商店技師　政井

工事請負者　株式會社大林組

直營工事

家具工事　高島屋吳服店。藤井製作所

裝飾工事　高島屋吳服店。川崎良三商店

電氣配線工事　港海商店

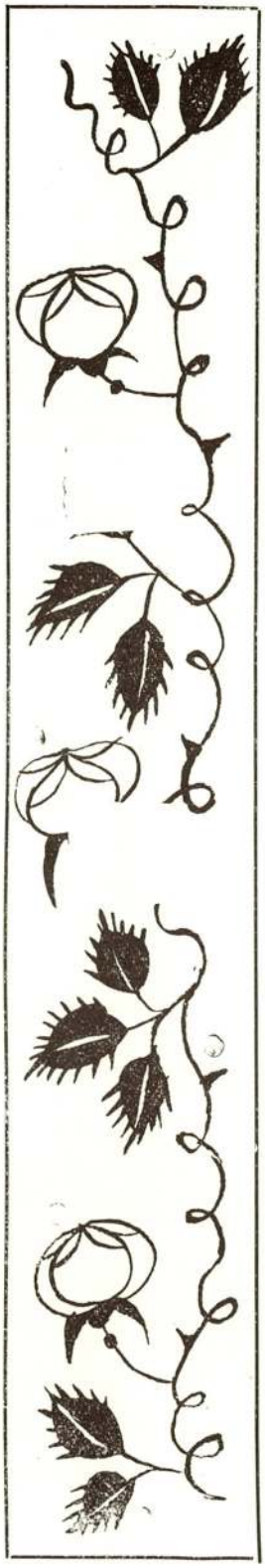
電燈器具　阪急電灯課

瓦斯工事　神戸瓦斯會社

土藏金庫扉　大塚式金庫扉

衛生工事　須賀商會

給水設備　西宮五十田商店



セメント試驗方法改正案に關するお話

（編未「ポルトランド・セメント規格」を參照）

構造計算調査委員　M・I生

次に記するは去る六月十七日、本會例會席上大阪窯業會社の谷口德政氏のお話の一端で吾々セメントを用ゆるものゝ參考となることが多いと思ひます。然し本稿は委員が同氏のお話を速記したのでは無く其の後記憶を辿つて書き付けたもので聞き漏らし、聞き誤りもあらうと存じます其の邊は御寬容を願ひます。

我國の現行ポートランド、セメント試驗方法は、大正六年十月に「セメント」技術會が決議せし改正案を、農商務大臣に提出して訂正方を請願せしものを中心として、各官省技術會等の諮問を經し上、大正八年六月廿日付官報を以て農商務省告示第一七七號として公布せられたるものでありますが、最早今日の新時代に對して後れたる點少からず、即ち今回改訂を見た次第であります。

改正案の全項は別記の通りで、簡單なるものでありますが是を制定する迄には、相當長日月を費しましたもので、即ち現行法が大正八年に公布せらるゝと同時に同省より「セメント」技術會に對し、引續き「セメント」試驗用標準砂を現在の人工碎砂を改めて、外國のやうに適當なる天然硅砂を調査研究する事と、其標準砂の圓滑なる配給を講究して之が普及を謀る事等の希望條項を農商務省より囑されたのであります。

ソレで「セメント」技術會は直に三名の標準砂委員と二名の試驗法改正委員を設けまして、爾來六七年間に亘りて種々の調査研究を積み、又度々技術會議を開きまして激く本年二月東京にて臨時總會を開きて之を決議し、次で四月十二日之を

商工大臣に具申して改訂方を請願し、商工省は、之を早速工業品規格委員會に回付し、同會に於ても數次の小委員會に於て嚴密なる討議を爲し、六月八日、九日兩日に亘りて部會を開きて、多少修正の上決定せられたもので、數日後即ち六月廿三日開會の規格委員總會にて正式に決定せられ、遲くも本年秋中には公布實施せらるゝ豫定に考へてあります。

サテ是より今回改正されたる條項の要點を申述べんとするに當り、一寸我國「セメント」試驗法制定の沿革と小野田社長笠井博士の終始一貫したる熱心なる盡力を申述べたいと思ひます。

世人稍々もすれば我國の「セメント」甚だしく歐米の其れに後れ、從つて試驗規定の制定など顧みられなんだと思はれておる方が少くないが、事實は相當早くから此事に着手されたもので、即ち此「セメント」試驗法の劃一いふ問題が世界的に八釜敷なつたのは卅年來の事にして、獨逸が一八九〇年に定めたのが最初の方と記憶します、其以來八釜敷なつた其初期の時代に笠井博士は久しく獨逸に留學しておられて具に其推移を注目された。

ソレで笠井博士の歸朝後種々盡力されて、明治卅三年に始めて官民聯合の「セメント」技術會を設け、其會長には當時の農商務省工高試驗所長高山甚太郎博士を以てし、笠井博士故人內海三貞博士等大に盡力せられて、明治卅八年（一九〇五年）に日本で最初の試驗方法なるものが農商務省の告示となりて公布されました。

米國が合衆國共通の試驗規定の制定を始めたのは一九〇二年頃で、又英國でも尙ほ少し遲れて出來たと思ひますから、我國の「セメント」試驗法の歷史は甚だしく歐米に後れたものでなかつたと考へます。

偖而、是より改訂條項中特に注意すべき要點を列擧し、其れに對し大體の御說明を致すと共に、一面試驗方法のデリケートなものであるといふ事に御注意願ひたいと思ひます。

	（現行法）	（改訂法）
一、粉末の程度	$\frac{900}{cm^2}$ ＜3%	$\frac{4.900}{cm^2}$ ＜17%
二、凝結時間測定室內氣溫の限定	氣溫の限定無し	15°C—25°C
三、強度		
1:3「モルタル」耐伸強度		
（壹週）	$10\frac{kgr}{cm^2}\left(142\frac{lbs}{in^2}\right)$	$14\frac{kgr}{cm^2}\left(200\frac{lbs}{in^2}\right)$
同上（四週）	$18\frac{kgr}{cm^2}\left(256\frac{lbs}{in^2}\right)$	$21\frac{kgr}{cm^2}\left(294\frac{lbs}{in^2}\right)$
1:3「モルタル」耐壓強		
（四週）	$140\frac{kgr}{cm^2}\left(1.991\frac{lbs}{in^2}\right)$	$210\frac{kgr}{cm^2}\left(2.940\frac{lbs}{in^2}\right)$
純「セメント」（應急代用試驗）		
（一週）	$30\frac{kgr}{cm^2}\left(427\frac{lbs}{in^2}\right)$	$40\frac{kgr}{cm^2}\left(568\frac{lbs}{in^2}\right)$
四、標準砂の改變	人工硅碎砂	天然硅砂
五、化學的成分	SO_3＜2.5%	SO_3＜2.0%
	（海水用SO_3＜1.5%	
	熱灼減量＜5.%	熱灼減量 4.%
六、包裝及重量	一樽單位	一樽單位

一樽正味三八〇磅入　一樽正味一七〇瓩入
袋は一樽の三分の一入　袋入正味五〇瓩入
又は四分の一入

七、試驗試料採取
現在特別の規定
なし
一〇〇噸又は其端數を一口とし一口より五ヶ所試料を抜き取り之を混合して檢査す

右の內第一の粉末程度――に從來の丸百孔篩を廢して、四千九百孔篩に替へたのは、大進歩でありますが、此篩試驗が簡單な事であつて而も中々厄介なものであります、即ち一平方糎に四千九百孔の正しき孔數の金網が得難い、縦と横とが一致せぬ、又金網の孔數が正規に合格しても、線金の太さの大小によりて孔眼の大小が非常に異つて來る、又同一の金網でも場所によりて、孔眼の配列の狀況が異れるもの多く、獨逸製の四千九百孔篩と、米國製の四千九百孔篩とは大に異る、又同一の金網を用ゐても篩に網の張り方で違ふて來る、又同一の篩を用ゐても篩ふ人によりて答が速ふ、即ちパーソナル、エラーと機械誤差と一緒になつて隨分速つた答を出します。

一例を擧げますと、絶對的に均等に配合せし「セメント」を全國の同業會社及各式驗場等卅一ヶ所に分配して試驗せし結果平均一〇%五といふ殘滓のものに對して、中には二二%といふ結果を出した處があり　少いのは五%とか七%といふ結果を示したといふ、此等は篩も違つており、篩ひ方も大に違つておる爲めであります、從來の規定は九百孔篩なりし故、どの程度迄篩ふかといふ限定が充分でない、即ち「毫も漏出せざるに至りて止む」と簡單に規定してありますが、四千九百孔の如き細き篩では「毫も漏出せざる」迄篩ふ事は容易でない、某試驗場では正文通り試驗をして、一回の篩ひに二日もかゝつたといふ實話もあります。

ソレで今回は篩ひ止めの程度を、一分間の篩過漏出量が〇・一「グラム」(卽ち試料五〇「グラム」に對して〇・二%)以下となるに至りて篩ひ方を止めよと規定しました、當日二回以上の平均を取る事にしてあります。

次に篩孔の問題ですが、今度の案は一平糎に付四千九百孔で殘滓が十七パーセント以下となつて居ります、これを英國の新規定一平方吋に付180×180篩孔の篩の殘渣を昨年末十四%より改めて十パーセント以下といふ事に改訂致しましたのと比較しますと、今英國のを一平方糎に換算すると五千二十二孔となりまして、一平方糎の上にある孔數が多き故篩孔がより細かくて殘滓が少ない樣に見ゆますが、其の實はこゝに金網を織つてある針金の太さを考へに入れなければなりません、英國のは針金の太さ〇・〇四六粍でありますから、眼孔の大さは〇・〇九四八粍となります。我國のは針金の太さ〇・〇五五粍で孔の太さは〇・〇八七八粍となります、即ち眼孔の大さは我國の方が英國の百八十番篩よりは遙かに細かい事になります。又米國のは二百番(一平方吋に200×200)の篩で廿パーセントとなつて居りますが、之れは四千九百孔に對して約十五、六パーセントに相當します。

故に今度の改正案によれば英米と比較しても大體遜色の無いものになります。

次に凝結の時間――の事です。

セメントの凝結に大なる關係のあるのは室の温度、水温、濕度、及水量等ですが、今迄の規定には室の温度の事は示されてありません。

由來「セメント」の凝結作用は、「セメント」が加水分解を起して生ずる化學作用でありますから、其化學作用の進行速度即ち凝結作用の始終時間の緩急は、其加水分解を起す場合の温度の高低によつて左右せらるゝ事は當然でありまして、今回の規定に試驗室の温度の限定を定むるに就ても、同業會社廿九工場に置きまして大正十一年三月より十二年八月迄二ケ年以上に亘り二回繰り返へして、密閉したる罐入「セメント」を以て、寒暑種々の氣候に對する凝結時間の模様を試驗致しました。

其結果氣温と凝結の始終時間とを「コオルヂネート」として「ダイヤグラム」を作りますと、何れも對數曲線の形狀を示して、温度の上昇につれ横軸に「アッシンプトチック」になりまして、全く凝結時間と氣温と相對的のものなる事が明になりました故、是非共凝結時間の規定には氣温の限定を入れねば合理的でないといふ事になりました。

各國の規定を見ると獨逸は攝氏十五度乃至十八度、米國は二十一度となつて居りますが、これ等はあまり狹い限定であつて、實際上六ケ敷いものであります。我國の氣温は夏に二十五度乃至三十度でありますし、冬も日中室内十五度以下降る場合はあまり多くない、即ち前揭全國同業者廿九工場にて二ケ年間行ひし試驗に於ても全體の八十九%迄は攝氏十五度乃至廿五度の間でありますから先づ十五度乃至二十五度の氣温で試驗をすることゝしました、十五度乃至二十五度の氣温で檢査して合格するセメントであれば、夏期三十度の氣温で用ひても差支へなく、冬期に於ても硬化せない様な事は無いと考へた譯であります。

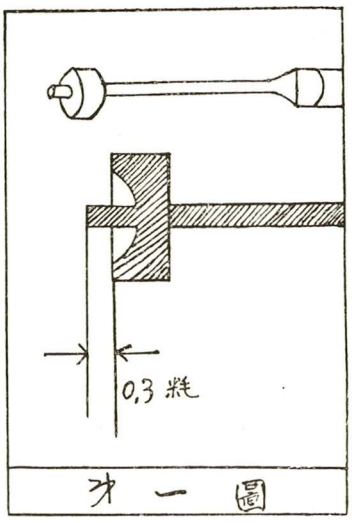
次に凝結の終りを檢定するのが一問題であります、今回の規定は標準針(直徑一、一三粍)がセメント表面に深さ〇、二五粍の痕跡を止めたる時を以て凝結を終つたものとしました。在來の規定によれば「痕跡を止めない」迄の時間となつて居りますが此『痕跡を止めない』といふ事は實際の檢定に當り判斷に困るのであります、第一微細の針頭の痕跡の認識に就ては、試驗者の手加減と視力の敏感度により、人的誤差が可なり大きいのであります。

第二は、「セメント」は凝結と共に表面に薄き浮膜樣のものが出來ます、此浮膜樣物は「セメント」の肉質と多少成分を異にして、從つて「セメント」肉質は凝結を終りておるに係らず、表面の「スカム」丈けは何時迄も針の痕跡を止むる場合が少くない。

英國邊りでは可檢品を裏返へして、裏面の皮膜の無い平滑なる面で凝結の終結を見る方法もありますが、是も感心出來ぬ點があります。

其れで多くの實驗を爲し人的誤差の多少を試驗した上、改訂法の如く深さ〇、二五粍の深さの痕跡に達せし時を以て終結點を定めました。

英國では圖の知く針の先に輪を付けたものを用ひて居る、これを用ゆれば針が〇、二五粍以上入れば輪の痕跡が付く譯です、こういふ針を用ゆれば一層便利と思ひます。



第一圖

強度――

強度は「セメント」の生命であります、故に可成之を向上せしめたいのであります、今回の改訂案は「モルタル」耐伸強一週間一〇「キロ」より十四「キロ」に高め、同上四週間一八「キロ」を廿二「キロ」に上げ、同耐壓強度四週間一四〇「キロ」を二一〇「キロ」に上け、純「セメント」耐伸強一週間三〇「キロ」を四〇「キロ」にあげました、右の中最も著しく上げたのは耐壓強度で　從來の規定より五割高めた事になつております。

先づ是で米國の「モルタル」耐伸一週二〇〇封度四週三〇〇封度や、英國の一週耐伸二〇〇封度や、獨逸の「モルタル」耐壓四週二〇〇「キロ」等と同等になりました次第でありますが英國では昨年十月改訂いたしまして「モルタル」耐伸一週三二五封度吋（二二・八五「キロ」粍）、四週間三五六封度吋（二五、〇三「キロ」粍）に高め、獨逸も本春三月改訂しましたから、吾々も早速次の向上に準備せねばなりませぬ。

尤も現在にても我國の「セメント」其物ほ、改訂規定の強度より遙に上級のものを造つておりますが、只困る事にはまだ試驗に用ゐる標準砂が一般に用ゐられず、種々様々の粗惡なる砂を以て試驗される處が多き故、吾々は此等不適法の檢査に對しても合格するやうに、相當多くの試驗誤差の餘裕を見ておく必要があるといふ實狀に在りますから、可成早く一般に標準砂の御使用を願ひたいと希望します。

純「セメント」の強度試驗があてにならぬ事は周知の事實であります、實際「セメント」を或程度以上に微粉に粉末にする時は、純「セメント」の強度は著しく降ります、併し斯の如き極微「セメンー」は「モルタル」や「コンクリート」に用ゐては非常に強い、殊に「コンクリート」の耐壓強度を高くせんとすれば、是非共「セメント」の粉末を大に細くせねばならぬ、然るに現今尙ほ純「セメント」にて強度の試驗される處の少くないのは遺憾であります。

此純「セメント」試驗の如き誤解を起し易き試驗法は、獨逸等の如く早く刪除せし方正當と考へますが、まだ從來の慣習もあり標準砂の普及不充分の今日、代用檢査法として之を存置し、而も三〇「キロ」粍より四〇「キロ」粍に高めた次第であります。

次に強度と密接の關係ある新標準砂――の事を一寸申述べます。

「モルタル」の強度が其砂の性狀によりて大なる差速ある事はあまりに著しき事實であります、通則として砂のボイド（空隙）の少い程強度が大きい、殊に耐壓強度が大きいといふ事は定則になつてをります。

然らばどんな砂が「ボイド」が少いかといふに、一般に細砂よりは粗砂が良く、同一程度の粒子ならば稜角の有る砂よりは角の取れた丸い砂が「ボイド」が少く、從つて強度が高い、極端な例として獵銃の散彈の「ボイド」は約三十七%だそうです、實際の砂として四〇%以下の「ボイド」の砂は少いやうで

あります、又四十五%以下ならば普通の砂として宜しい方であります、稜角ある細砂になると、實に四十五%といふ大なる「ボイド」を有します、從つて斯の如き砂を用ゐし「モルタル」又は「コンクリート」の強度は非常に弱くなります。

ソコデ、從來の「セメント」標準砂といふ物を制定した當時まだ適當の天然砂を見出し得ざりし故、兎も角硅石を破碎して碎砂となし、之を一定の篩にて篩ひて一定範圍の粒子を集めて標準砂としました。故に其「ボイド」は平均四十六%で、強度特に耐壓強度が弱いのであります。

外國の標準砂は大抵天然硅砂で、米國の「オツタワ」産、獨逸の「フライエン、バルデ」産、英國の「レイトン、ボザード」産、等凡て天然硅砂の「ボイド」の少いものであります、從つて強度強く殊に耐伸強度に對する耐壓強度の比較高くして、十倍以上十四五倍にも達してをります、然るに從來の我國の人工標準砂では、僅に耐伸強度の六七倍より出ません、九倍十倍に達する場合は少いのであります、故に單に強度の數字のみを見ては、我國の「セメント」は兎角耐壓強度が足らぬいふ批評を時々蒙りました。

今回福島縣相馬郡にて發見しました天然硅砂を精製して作りたる新標準砂は理想に近きもので、『ボイド』は約四〇%で又硅酸分九七%を有し、其他の夾雜物少き良品であります、故に此新標準砂を用ゐし試驗の成績にては、耐伸強と耐壓強との比率は十倍以上十一二倍に上りますから、其試驗成績の數字ならば、歐米の試驗數字と比較されても差支ないと思ひます。

ソコで、此標準砂を廉價に、便利に一般に供給普及せしめたいと考へ、從來の人工硅砂を品川白煉瓦會社より賣出せるものが、一噸に付四百圓以上を要せしに對し、同業會に於て種々盡力の結果、從來の半値即ち一噸に付貳百圓で（一叭貳圓）、誰れにでも分讓する事に致しました、尙ほ商工省試驗所の檢定を經ざる品は、一噸に付百五拾圓にて分讓いたす事に同業會にて取きめまして、最早何時にても御注文に應じますから同業會に御下命を願ひます。

斯の如く新標準砂にては、從來の砂に比し耐伸強度に於ては大差なく（增加しても一割以內）、耐壓強度に於ては五割乃至八割の强力增加を見る、又普通の工事用の砂に對しては一概に言ひ難きも大阪にては淀川の砂を標準砂同樣の粒子に篩ひしものと比較するに耐伸強度に於て二割乃至三割五分、耐壓強度に於て四割乃至七割位高き結果を示します。

斯く言へば、一見「セメント」の規格をよげしに非ずして、標準砂の改善によりて强度を增せし如き感ありますが、之は諸外國と同等に近き結果を得べき試驗砂を選びし迄にて、從つて吾々は改正規定には「モルタル」四週間の耐壓强度二一〇「キロ」とありても、實際は皆樣が新標準砂を用ゐらるれば、遙に高き强度例へば二八〇「キロ」とか三〇〇「キロ」以上とかの優良の結果を示すべきものを市場に供給したい覺悟であります。次に

化學的成分——に關してはあまり重要なる變更ではありませぬ、技術の進步の結果、久しく風化せしむる必要もなき故熱灼減量も五%より四%に減じ、又石膏を多く入れて凝結の調節をとる必要も少き故、無水硫酸分を二・五%より二・〇%に下げました位のものです。次に

包裝及重量と試驗試料――に就而は營業上の大問題として著しき改變であります、即ち數十年來三百八十磅入りの樽入を單位として來りしものを、今後は瓲を單位として賣買取扱を爲し、袋入は凡て一袋五〇「キロ」入とし廿袋一瓲とし、樽入は百七十瓲入として存置するも、是輸出又は遠隔の地に用ゐる事といたし度考にて、是は專ら歐洲の中央諸洲即ち獨、佛瑞等の實例に理由ありとして、倣ひしものでありますが、其實行期も來年四月一日より改めたき見込にて、過渡時代には相當の旭介ある事と考へますから、本改新法が商工省にて正式に公布せられし時は、可成早速に皆々樣に於ても新規定に準據下するやう御願ひいたします。

大體右にて今回の試驗規程改訂の要點を申述べたと心得ますが、最後に一言いたしておきたい事は、今回の改訂にも六七年間の時日を費しましたが、此次は今少し急速に、次の改訂を致さねばなりませぬと思ひます、其要點は相變らず粉末を細くする事と、强度を益々高める事が肝要であります。

殊に近年勃興しつゝある「スペシャル、セメント」「アルミナ、セメント」又は熔融「セメント」は原料の關係と製造後の關係で當分我國には起らぬものと愚考するも）は必ずや近く起るものと信じます、此高級「セメント」を如何に取扱ふか、之を「セメント」の一種として「セメント」の規格中に包括するか、否や、獨逸でも二三年來八釜しき問題であつたやうですが、今春高級「セメント」の規定が出來たやうです。

一面高級「セメント」と銘を打たずして、而も其實質を漸次高級「セメント」の夫れに近づけて行こうと努力しつゝある同業者もあり、此等は技術の發達上大に慶ぶべき事と思ひますと共に、試驗方法も之に適應するやう着々準備をせねばなりませぬ、就ては「スペシアル、セメント」の如く「アーリー、ストロング」の「セメント」に對しては、其試驗方法も從來の如く悠長に四週間の試驗をして、始めて受渡をするといふやうな事をやめ、二晝夜、三晝夜の短期試驗を行ひ、遲くも一週間試驗を以て「ファイナル」にするやうな、最近の獨塊式に改め進むべき準備が肝要だと考へます、實際日本の如き濕氣多き多雨の國にて、「セメント」を徒に永く貯藏する事は、凝結の遲緩のみならず、强力の減退を來す慮もありますから、可成生新の間に迅速に試驗を終りて使用すべきものかと考へます。（終）

「ポルトランド、セメント」規格

第一章　製造方法

第一條　「ポルトランド、セメント」を製造するには主成分として珪酸礬土、酸化鐵及石灰を含有する原料を適當の割合にて親密に混和し之を殆んど熔融せんとする迄熱灼したる後粉碎して細末と爲すものとす

「ポルトランド、セメント」には他の物質を混和すべからず但其重量三%以下の石膏を混和するは此限にあらず

第二章　試驗方法

比　重

第二條　「ポルトランド、セメント」の比重は三、〇五以上なるを要す但三、〇五に至らさる場合に於ては之を暗赤熱して更に試驗すべし

粉末の程度

第三條　「ポルトランド、セメント」は一cm²に四九〇〇孔を有する篩を以て篩別するに其殘滓は一七%を超過せさるを要す但篩の針金の太さは〇、〇五五mmたるべし

本試驗を行ふには五〇gの「セメント」を秤取し輕く篩を敲き微細分を篩過せしめ一分間の漏出量〇、一g以下となるに至り始めて篩ひ方を止め篩底の殘滓を秤量すべし而して本試驗は同一試料につき二回以上之を行ひ其平均數を算定すべし

凝　結

第四條　普通の目的に使用する緩結性「ポルトランド、セメント」は15°—25°Cの温度に於て注水後一時間後に凝結を始め一〇時間以内に凝結を終るを要す

特種の目的に使用する急結性「ポルトランド、セメント」の凝結時間に關しては用途に應じ別に定むることを得

供試「セメント」の標準稠度に適する水量を定むるには「セメント」400gを秤取し適宜の水を加へ注水より約三分間捏混するにより較々固き糊狀體を作り直に之を圓筒に塡充し剩餘は之を除き去るべし但圓筒は豫め硝子板の如き水を吸收せさるもの、上に安置すべし而して稠度計の金屬棒を指鍼も10mmの劃點の處迄引上げ徐々に「セメント」中に降下せしめ其指鍼も6mmの劃點に止まる時は即ち其水量は標準稠度に適するものとす

凝結の始發及終結を試驗するには標準針を稠度計の金屬棒に換用し尙ほ全重量を300gとし而して標準稠度の水量を加へ捏混して作りたる糊狀「セメント」を圓筒に塡充し之を標準針の下に安置し此針を「セメント」の中に徐々に降下するに其の指鍼凡そ1mmの劃點に止まるは即ち此時を以て凝結の始發となし其より漸次凝結して針頭が「セメント」の表面に痕跡を止むる事深さ凡そ0.25mmに至りたる時を以て初めて凝結を終りたるものとす

本試驗に用ふる稠度計及標準針左の如し

稠度計は長さ15cm直徑1cmの金屬棒と糊狀「セメント」を容るへき高さ4cm直徑8cmの圓筒とmmに分劃されたる計尺に指鍼を付したるものとより成立し而して此の金屬棒及之と共に降下すべきもの、全重量を300gとす

標準針は長さ4.5cm 載面1mm²(直徑1.13mm)の金屬棒にして其の頭を平に切りたるものとす

膨脹性龜裂

第五條　「ポルトランド、セメント」は膨脹性龜裂を生せざるを要す其の試驗方法左の如し

浸水法「セメント」一〇〇gに適量の水を加へ好く捏混して糊狀禮となし之を硝子板上に直徑大約一〇cmに展延し中央に於て厚さ大約一、五cm緣端に於て較々薄き饅頭形體二個を作り凡そ二四時間を經て水中に浸漬し二七日間に於て歪曲又は龜裂を生せざるを要す

浸水法に於て糊狀體を作るに用ふる水量は「セメント」の重量に對して大約25—27%とし右糊狀體をのせたる硝子板を輕く敲くに初めて漸く周邊に流出するを適度とす斯くして作りたる饅頭形體は凝結終了に至る迄濕氣ある箱に入れ若くは濕布を以て覆ひ空氣の流通及日光を遮斷し以て收縮の爲に裂罅を發生せしめさる樣注意すへし但收縮に因りて生ずる裂罅は多く饅頭形體中央に起るものにして膨脹性龜裂と毫も相關係せさる別象なり

緩結性「セメント」に於ては特に收縮性の裂罅を生じ易きが故に注意するを要す

第六條　浸水法により試驗日時を猶豫し得ざる場合は下記の方法による事を得

沸煮法　浸水法に記載せる方法を以て作りたる饅頭形體を少くも二四時間を經たる後水を滿せる鍋中に沈め徐々に熱して凡そ一時三十分間沸騰せしめ漸次冷却したるとき歪曲又は龜裂を生ぜざるを要す

強　度

第七條　「ポルトランド、セメント」の強度は「ポルトランド、セメント」一分（重量に依る以下之に倣ふ）に標準砂三分を混和したる砂入「セメント」に就き耐伸強及耐壓強を試驗す

耐伸強は七日間（空氣中二四時間水中六日間）固結の後に於て 14kg/cm²、二八日間（空氣中二四時間水中二七日間）の後に於ては 21kg/cm² 以上たるべし但し二八日間後の耐伸強は七日間後の強度より大なるを要す

耐壓強は二八日間（空氣中二四時間水中二七日間）得に於て 21(kg/cm²) 以上たるべし

供試體は六箇を作り其強度の平均數を以て供試「セメント」の強度とす

第八條　耐伸強の供試體は其切斷部に於ける面積 5cm² のものたるべし而して其試驗器械は二重槓杆式のものを以て標準とす

耐壓強の供試體は 50cm² の平面を有する正立方體たるべし

第九條　耐伸強及耐壓強供試體は標準鐵槌器を以て下記方法により成形す

器械法

模型の內面に少しく礦油を塗り而して「ポルトランド、セメント」1分と標準砂3分とを充分に混和し之に適量の水を加へ鏝を以て捏混して之を模型中に塡充したる後鐵心を嵌め之を標準鐵槌器上所定の位置に安固ならしめ而して 2kg の槌を以て 150 回之を敲き模型上の過剩分は之を削去り其上面を平滑にすべし

耐伸強供試體の成形は便宜上手工に依ることを得其方法下の如し

手工法

模型の內部に少しく礦油を塗り之を金屬板或は硝子板上に置き次に器械法に於ける如くして作りたる砂入「セメント」を模型中に塡充し鐵篦（頭部巾 5cm 長さ 8cm の平面を有し柄の長さ 30cm 全重量大約 250g）を以て敲き其表面に少しく水分の浸出するに至りて止め模型上にある過剩分は之を倒去り其上面を平滑すべし

第十條　供試體を作るに要する水の分量は鐵槌を以て敲く事一〇〇―一一〇回に至り供試體の裏面に水の少しく滲出するを以て適度とす

捏混及模型塡充は常に室內若くは日蔭に於て施行し乾燥を豫防し成形の後は之を濕氣ある箱內に靜置し蓋を以て蔽ひ温度の變更及空氣の流通を防止し二〇時間以上を經て叮嚀に模型より取り外し成形より二四時間にして全く水中に浸漬すべし脫型後浸水迄と雖も濕氣ある箱內に靜置すべきは勿論なり浸水前二四時間は空氣の温度 10°C 以下に降らさる樣注意すべし

供試體は固結中全く水中に浸漬せしむ但其水の温度は 10°C 以下に降らざる樣注意すべし

第十一條　標準砂は福島縣相馬郡產の天然石英石を濕式「トロンメル」ニヨリテ成るべく石英砂粒を損せざる樣夾雜物を粉碎し充分に洗滌したる後之を乾燥し一號及二號の篩を以て順次に篩別し二號の篩底に殘留せるものとす

但一號は每 cm² に六四の孔眼二號は一四四の孔眼を有するものとす又針金の太さは一號 0.4mm 二號は 0.29mm なるも

のとす

標準砂の檢定

標準砂は一號篩を通過し二號の篩底に殘留する量九十%以上たるを要す本檢定を行ふには毎回百瓦の試料を秤取し同一試料につき二回以上篩別を行ひ其平均數を算定すへし而して篩別の終りは一分間各篩の通過量一瓦以下となりたるときとす

第十二條 第六條乃至第十條に依る强度試驗の時日を猶豫し得ざる場合には純「ポルトランド、セメント」の耐伸强供試體に就き强度を試驗し七日間(空氣中二四時間水中六日間)固結の後に於て 4(kg/cm²) 以上なるを要す其供試體成形の方法及之に關する注意强度の算定方法等は砂入「セメント」の條項に準す

苦土、硫酸及熱灼減量の定限

第十三條 「ポルトラント、セメント」中に含有する苦土は三%、硫酸(SO_3)は二%を超過すべからず

「ポルトランド、セメント」は之を熱灼せる後其重量の減少四%を超過せざるを要す

海水工事用試驗

第十四條 海水工事用「ポルトランド、セメント」の試驗には凡て海水を用ふるものとす

第三章 受渡に關する規定

包裝及重量

第十五條 「ポルトランド、セメント」は俵を單位として受渡すものとす

第十六條 「ポルトランド、セメント」を袋入とする場合には正味50kg.樽入とする場合には正味170kgたるべし

但輸送中の目減り一包裝に付き二%迄は之を許容する事を得

第十七條 袋又は樽の外面に於て「ポルトランド、セメント」たる事を明にし且製造者名を明にする商標又は製造者名並に正味重量を記すべし

試料

第十八條 「ポルトランド、セメント」を試驗するには一〇〇俵又は其端數を以て一口とし各口に就き其平均品質を表はす樣五箇所より之を拔き取り好く混合したるものを以て試料とす

俳壇

五月雨・螢

（梅雨つゆ）

五月雨

病室の障子重たき梅雨けかな　白甫
梅雨の山夕霤の上に浮びけり　同
梅雨の艸を分けて雞あさりけり　同
梅雨晴の山路通ひの村吏哉　同
梅雨晴れて暮れゆく水の茜哉　未乾子
子鴉のこぼす松葉や五月晴　同
庭松にせまれる梅雨の暮色哉　同
梅雨晴や水した〳〵と花茨　同
梅雨の土門（どもん）〳〵入り來遲夫哉　石甫
梅雨晴の西日の庭や筴竹桃　同
梅雨の妻に清物石のあげ降し　同
梅雨の階下何燃やす煙たさよ　同
一抹の煙かすむやつゆ山家　栄辻
五月雨や林を出づる塔朧　同
五月雨にポプラ伸たり老舗町　同
傘さして跌足で行くや梅雨の町　同
梅雨の茶屋を出て葉櫻の堤かな　緑兒
梅雨の門ひきすてゝある牛乳車　同
生垣に茨植えそへて梅雨に入る　同
梅雨冷ゐに暮そめにけり竹の門　丁子花
梅雨晴の茶畑つゞき町家かな　同
梅雨の傘の數に灯うつる街かな　同
五月雨に漲ぎる池や鯉はねる　稻村
買立の麥稈帽や梅雨曇り　同
五月雨や裏屋住ひの窓低く　宵灯
梅雨の闇沼々として瀬音する　同
五月雨や晝を灯す呉服店　香流
防疫の赤き掲示や五月雨るゝ　同
梅雨日毎濕ゐ土の崖その儘に　斗七
五月雨に土のゆるみや木々の勢　同

螢

螢にげて水田の闇の深さ哉　同
今やりし水滴りや螢かご　栄辻
大螢ちよつと高くて逃しけり　同
新墓の旌ちぎれてあるや螢とぶ　同
松を出て磧にとべる螢かな　石甫
一雨の漏れ庭下駄に螢追ふ　同
草ゆれて風雨の螢光り居り　同
草の闇雨の螢の稀々に　斗七
茂み出て水田にそれし螢かな　同
大螢草うつりして水の闇　陽一城
雨上り濡木の幹を螢這ふ　同
葭障子に次の間暗し螢籠　學路
螢籠水やれば勢ふ螢の火　同
廣土間に螢吹入れ風の筋　翁山
螢籠さげて戻りぬ鯰釣り　同
病む子負うて門に出るや初螢　香流
三餘子の書架に置たり螢籠　同
流れ直ぐ立ちてとびたる螢哉　宵灯
螢籠夜一人留守守居してゐたり　同
生垣に茨植えそへて梅雨に入る　同
梅雨冷ゐに暮そめにけり竹の門　丁子花
梅雨晴の茶畑つゞき町家かな　同
梅雨の傘の數に灯うつる街かな　同
五月雨に漲ぎる池や鯉はねる　稻村
買立の麥稈帽や梅雨曇り　同
五月雨や裏屋住ひの窓低く　宵灯
梅雨の闇沼々として瀬音する　同
五月雨や晝を灯す呉服店　香流
防疫の赤き掲示や五月雨るゝ　同
梅雨日毎濕ゐ土の崖その儘に　斗七
五月雨に土のゆるみや木々の勢　同

螢

螢とぶ闇田に遠き瀬音かな　同
螢とぶ闇田に遠き瀬音かな　同

齋藤溪舟

◇課題『短夜』（夏の夜、明易き、にてもそし）『蝙蝠』（蚊喰鳥にても）各五句まで別紙に
◇締切　八月二十日
◇發表　九月の本誌
◇屆先　堂島ビルディング内日本建築協會

投句を希望す

俳話

幼稚な句のはなし

溪舟

問『ちよつとお尋ねしますが、句は意味のいいのと、句調のいいのと、どちらがいいでせう』

答『あなたが句の意味といふのは句の内容とか實質とかいふものの事でせう、また句調といふのは句の姿ともいふべき事でせう、句はその二つを具備して初めて佳句といふ事が出來るワケですから、强ちどちらをすてる事もできません、しかし要するに、姿がいくらいいにしても、實質の空疎なものは取えもないと思ひます、句調はどれほどうまいにしろ、句そのものの原料であるところの情藻が劣等であつたり、陳腐であつたりしては、ものになりますまん』

問『してみると、句調がわるくても句意がよければ、取りえがあるといふのですか』

答『まアさういふ事になります。だから、つまり、句の云ひ廻しは幼稚でもよろしいから、見つけどころ、觀察——自然の見方がよければいいといふ事になりますれ』

問『何か例がありませうか』

答『さうですれ、ない事もありません——私は只今、ある雜誌の俳句欄を受持つて見てゐますが、この間その雜誌に『青田』『日傘』の二題を課してをきました。すると本町といふ名前の人——勿論初めての人ですが、その人が二題を通じて五句投稿してきました。即ち『青田』二句と『日傘』三句です』

問『何ういふ句でした』

答『ここへ記してみませう、

青田

月寫し青田靜かに水流れる
子は逃げて居ず石灰蒔く青田哉

日傘

青葉光る淺き山路を日傘ゆく
日傘さすボートが漏の木蔭へゆく
市場行く日傘も交じる渡舟

斯ういふのです、私は最初この句を見た時には、その句調が如何にも幼稚であることを知りました、それは何故かといひますと、もウ少し何うかすれば、その句の持つてゐる味ひを損ずに、而も句調が俳句らしくなり得るからです、次に氣のついた事は、この句は如何にも姿格好は、ヘンであるけれども、その句の持つてゐる情藻は頗る清いもので、新鮮な俳趣が十分に漲つてゐるといふ事でした。即ち句は幼稚であるが、その觀察——自然の見方がいかにもいいと心づいたので、私はすつかり嬉しくなつてしまつたのです』

問『しかし句としてはヘンに字餘りであつたり、舌にもつれたりして……』

答『そんな事はもう何うでもいいのです。この位ゐ自然の見方ができてゐると、句調などは何うでもいいと思ひますね。だから、强いてこれは、句調を直したりなどしなくても、もうこのまゝでも俳句と云へますが、直してみてよくなればそれほどの事がないから私は少しばかり辭句を訂正してみたばかりで、この五句は五句ながら採りました。本町といふ人は何ういふ人か知りませんが、俳句の作家として實にいい天分をもつてゐる人だと私は感心してゐます』

問『それで、その訂正したといふのは何ういふ句ですか』

答『今もいふ通り、これは殆んど必要を感じないといつてもいいのですが私の訂正したのは次の通りです、

青田

水入るゝ青田靜かに月曉る
子らは逃げて遊びぬ青田に石灰す

日傘

葉漏れ日の日傘に影る登り哉
茂り江に漕入るゝ舟の日傘哉
日傘人渡舟上れば濱市場

斯ういふ風に訂正してみたが、さてこれでどれほど原句より立優つたかといふと、それは少しも立優つてゐないのです。たゞ少々格好だけが直つたかしらと思ふのですが、それは別だん手柄にはならないことです』

問『すると、私のやうな餘り句作に精通してゐないものは、何うすればいいのでせう』

答『自然を靜かに、あるひは活潑にいきいきと觀察することです。その觀察の前には、句の格好や辭句のヒネリ方などを考へてはいけません、句の格好ができなかつたら、二十字でも二十五字でも、三十字でもいいから並べてみることです。さうしてゐるうちには何かしら天佑のやうなもの——いはゆるインスピレエションがきて助けてくれます。句の格好をしぜんとつけてくれます』

附記　前號の本欄には非常に誤字脫字が多かつたことを讀者に謝します。

× ×

日本建築協會會報

會報

一、協會員逝去の件

地方會員中榮徹郎君、普通贊助員高橋三男君は別項記載の通逝去せられました洵に痛悼に堪へざる次第であります本協會は早速弔狀を贈り哀悼の意を表しました

一、紹介

今回朝鮮建築會に於て左記の通寫眞圖集を發行する趣て周知方依頼がありましたから茲に紹介致します

朝鮮總督府新廳舍寫眞圖集發行

附新廳舍紀念號册子分譲

朝鮮總督府が大正五年始めて工を起し爾來十一ヶ年の長年月と總工費七百萬圓を投じ景福宮構内に新築中の總督府廳舍は其外觀の宏莊雄大にして而も内部設備の完備せるは稀に見るところ、近代建築中最も傑出したるものとして實に東洋一の評あり今や工事既に九分の進捗を見將に今秋を期し盛大なる竣工式擧行の豫定なりと云ふ此の機に際し本會は建築物の内外に亘り意匠の最も優秀なる部分約五十ケ所を選み之れを精巧鮮明なる「コロタイプ」寫眞版として發行し、且つ右新廳舍建築に當初より關係せられたる岩井總督府建築課長富士岡景福宮建築出張所長以下關係技術家に依頼し各自分擔工事に付詳細なる新廳舍施工上の苦心談を蒐集し題して新廳舍紀念號とし之を本會機關雜誌「朝鮮と建築」の特別號として發行し左記に依り本會會員並に一般希望者に頒たんとす希望の向は申込あらむことを

附記　新廳舍紀念號册子は前記の通り本會雜誌「朝鮮と建築」の特別號なるも會員には雜誌第五號として無償附付す仍て會員は寫眞圖集の申込にて足る、會員外は圖集、册子兩方若は一方何れとも隨意

大正十五年六月

京城府黄金町日本生命ビル

ヂング三階三〇二號室

朝鮮建築會

（寫眞圖集）記

一、寫眞は上質紙（百二十斤）を用ひ縱八寸八分橫六寸四分とし之に部分的説明を附す

一、定價（五十枚一組）四圓

但本會々員は一割引とす

一、送料は申込者の負擔とす

但小包一部四十五錢

數部取纏め鐵道便に托し得るものは其の實費とす

一、代金及送者は前金若は代金引替郵便とす

一、發行期日

大正十五年十月十五日

（紀念號册子）發行濟（會員外の希望者に分譲す）

一、菊版約百頁口繪其他寫眞數十枚挿入

一、定價一圓前金とす

一、送料不要

以上二種共

申込所

京城府黄金町日本生命ビル

ヂング三階三〇二號室

朝鮮建築會

電話本局一五二八番

振替貯金口座京城一〇九七一番

會合

○定例理事會

△日　時　七月八日（木）午後五時―十時

△會　場　本協會會議室

△出席者　和田理事、小川理事、澁谷理事、須川理事、光安理事、八木理事、酒井理事

△報　告　六月分會計報告

△議　事　本夕は園部理事長病氣欠席に付和田主記理事長代理となり左の諸件に付て協議決定せり

一、七月例會に關する件

二、日本赤十字社申越に係る住宅模型貸與に關する件

三、社團法人定款中一部補正に關する件

四、社團法人設立申請に伴ふ委任狀蒐集に關する件

五、例會に於ける講演者に謝禮金支出に關する件

六、六月例會講演者に對し謝禮の件

七、職員暑中休暇給與規定改正の件

八、事務所備付の机、椅子、扇風機修繕に關する件

九、雜誌寄贈に關する件

一〇、北京圖書館に雜誌其他刊行物寄贈に關する件

一一、本協會事業大要、廣告料等に關する照會に對し回答案の件

一二、構造計算委員會委員慰勞に關する件

一三、會員詮衡

○構造計算調査委員會

△日　時　七月九日（金）午後六時―九時

△會　場　本協會會議室

△出席者　委員長　增田清

委員　池田宮彦、大野直平、田邊平學、谷田實、黒田茂、八木幸次郎、山本久吉、酒井勇三郎、

△記事　一、委員山本久吉氏は本委員會委員に補選せられて本夕初めての出席に付增田委員長より各委員に紹介をなし山本氏亦簡單なる挨拶ありて會議に入る

一、「ポートランドセメント」及「高爐セメント」規格統一に關する件に付五月二十六日附大阪府内務部工務課より問合せありたるに對し本協會より取り敢へず六月十二日付を以て大體贊意を表するも追て研究調査の上具體的意見を述ぶる旨回答せしにより本夕の委員會にて左の通意見を回答することに決定

一、同改正案の中第十一條、第十六條、及第十七條に對し次の通り意見を述べ其他は大體贊成することゝす

第十一條に對して

標準砂は一地方の産なるが故に萬一現品、品切のときには他のこれに準ずる品質のものを代用し强度をより低き標準の下に算定する便法なきや（例へば淀川の砂にて）

第十六條に對して

袋入の正味五〇キロ、樽入ノトキ一七〇キロは不便なる比例と考へらる、一方を他の三分の一にするが如きことは不可能なりや

第十七條に對して

正味重量と製造者又は商標とを明記するも「ラベル」の僞造して持込みたる場合又は「セメント」と稱して類似の粗品又は全然「ポートランドセメント」の實質なきものを使用することに對する制裁はなきものか

追て

製造の月日を容器に明記することを希望す

一、次に六月十七日の例會に於て「ポートランドセメント」規格改正案に關し大阪窯業會社谷口德政氏の談話は大變有益なるに付其の一部分にても會誌に發表することに協議可決し池田委員擔當することとなる

一、以上の外セメント並コンクリート構造物に關する意見の交換をなし散會す

○七月例會

△日　時　七月十七日(土)午後六時―八時四十分

△會　場　大阪市中央公會堂中集會室

△出席者

會員　石川　寛三　大原　芳知
小原　力　加藤　善吉
片山　萬治　呼子　正
高橋　君三　高田利一郎
永田三次郎　中谷　榮藏
中村源太郎　藤井　庄作
兒玉廣太郎　安部　萬助
山中宗三郎　芝田　知重
平塚　鎗吉　飯田　賢次
渡　實幸　久留　弘文
理事　小川安一郎　八木幸次郎
池田谷久吉　須川康太郎
酒井勇三郎

△記事　一、午後六時豫て準備しある食卓に一同着席し快談しつゝ夕食を共にし小川理事の挨拶ありて休憩

一、午後七時小川理事開會を宣し近時時間勵行の行はれ難きは最も遺憾とする所にして理事者に於ては極力時間勵行に努めつゝあり會員諸賢に於かれても相互に尚此の上の勵行を希望する旨を述べ開會の辭となし次て會務報告及八月例會休會の件に付報告あり

夫れより實費精算施工契約及規定に付て討議及懇談會に入るに先ち小川理事は平塚鎗吉氏を紹介して同氏より實費精算式施工契約及規定案の起草に付て談話あり

次いで久留弘文氏の實費精算施工に付て抽象的説明ありて夫れより愈同問題に付ての懇談會に移り各自意見の交換をなし閉會を告げたり

○緊急理事會

日　時　七月十七日(土)午後九時―十時三十分

會　場　灘萬食堂二階

出席者　小川理事、池田谷理事、八木理事、古塚理事、酒井理事

議　事　一、日本赤十字社へ住宅模型貸與に關する再協議の件

本件は前回理事會に於て貸與のことに決議したるも神戸高等工業學校との關係上古塚理事の説明を求め再協議の結果一部貸與のことに可決し同社に對し運賃其他に付照會することとなる

一、セメント規格統一に關し大阪府へ回答の件

構造計算調査委員會に於て調査研究の結果具體的意見を回答することに決したるを以て該回答案に付審議可決せり

一、委員會設置に關する件

實費精算式施工に關する委員會及建築法規に關する委員會設置に付意見の交換をなし尚次回理事會に於て具體的研究をなしたる上實行に入ることに決す

一、會員銓衡

○新入會會員及贊助員

地方會員の部

武富　英一君　東京市外淀橋町柏木四二九

特別贊助員の部

黒田　明信君　東京府澁谷町青山北町七ノ二

普通贊助員の部

寺澤　林吉君　名古屋市東邦電力株式會社土木課建築係

高木　一雄君　横濱市根岸町八〇三清水組横濱出張所

龜谷　開作君　北區鶴之町三六

○退會者

會員の部

金治　盛雄君　關　鐵男君

普通贊助員の部

岸銀三郎君　小林鎌太郎君　近藤　渉君

津川正夫君　久村義太郎君　間瀬禎三君

本橋信恒君

○死亡

地方會員　中榮徹耶氏

大正十五年七月四日逝去

普通贊助員　高橋三男氏

大日十五年六月日逝去

○轉勤轉居

會員の部

山崎　節治君　廣島縣安藝郡坂村廣島電氣會社坂發電所工事場

赤松　重一君　京都市上京區下鴨高野川西河岸通御影橋上ル西入

奥村　安吉君　府下三島郡吹田町西の庄二四八ノ二

土井　軍治君　神戸市蓮宮通四ノ四九

龍路　惣吉君　住吉區住吉町七〇七

伊崎　秀一君　尼崎市別所村二六〇ノ一〇二

地方會員の部

水上　昌三君　三重縣富州原町平田紡績建築場大林組出張所

丹下　勝隆君　濱松市元城町三一

朝香　茂君　東京市京橋區越荷堀一ノ五靈岸島小學校建築場大林組出張所

黒田　竹二君　東京府下西大久保九五

小田垣清造君　東京府下阿佐ヶ谷七四

黒木源次郎君　福岡市外馬出佐伯組福岡出張所

特別贊助員の部

村松　英一君　東區玉造東雲町二丁目尾崎方

普通贊助員の部

有隅千代松君　福岡縣久留米市篠山町二丁目吉岡方

清波　寛君　札幌市南八條西六ノ四三

中村　重壽君　別府市的ヶ濱區富士見通二ノ一ノ二一七

井上　義一君　此花區九條朝日橋通二ノ八

大林組坂出張所

松本　文平君　京都市上京區北野白梅町一丁畑衣笠園

由良　基夫君　北區堂島ビルヂング竹中務店

大久保榮藏君　千葉縣印幡郡成田町谷津藤田組成田出張所

玉川　芳夫君　東京市深川區萬年町二ノ一七大林組明治出張所

押川　忠夫君　東京府下杉並町高圓寺一〇二六

福山平太郎君　京都市田中樋口町六三

○改姓名

會員　三浦　白峰君（舊名　尚史）

普通贊助員　松浦　定夫君（舊姓　山口）

○寄贈圖書

圖書名	寄贈者名
鐵筋混凝土構造計算表と圖表　二部	井上　新二氏
造幣局沿革誌　一部	中村角之助氏
石川縣廳舍建築要覽一部	石川縣

役員及職員

會頭　片岡安

副會頭　宗　兵藏

理事長理事園部　文雄

主記理事　和田貞治郎

同理事　小川安一郎

主計理事　澁谷　五郎

同理事　須川廉太郎

編輯理事　古塚　正治

同理事　光安梶之助

同理事　池田谷久吉

同理事　八木幸次郎

同理事　酒井勇三郎

編輯係

江村　恒一（k）

薦田夏治郎

庶務係

西谷　節

靍取　陽

會計係

大和　榮衛

山口　スエ

會員	四〇五	會員（地方）	一九九
名譽贊助員	七〇	終身贊助員	五三
特別贊助員	二八	普通贊助員	四八五
合計（七月二十日現在）			一二四〇

本誌定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

（毎月壹回一日發行）

大正十五年七月三十日印刷
大正十五年八月一日發行

發行兼編輯人 大阪市東淀川區中津町一九八番地 江村恒一
印刷兼印刷人 大阪市東區內淡路町二丁目卅一番地
印刷所 大阪活版所
大阪市北區堂島濱通一丁目一番地堂島ビルヂング
發行所 日本建築協會
電話北四二九一番 振替口座大阪三九九七五

特約販賣店 大阪市西區京町堀羽子板橋北 柳々堂書店
電話（土佐堀一四四〇番） 振替口座一一八四番

●第九集　第八号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
大野正営業所
浅野スレート
日本スレート販売大阪支店
日本化学産業
東洋コルク工業
伊丹商店大阪出張所
カール・ツアイス
道下石材店
高垣商店
南満鉱業
浅野物産
浅海商店
ベニス工房
米本商店
田村商会
東亜鉄工所
大平工業所
油脂化工社
品川白煉瓦
KENSEISHOKAI
玲光社

浅野スレート販売
鈴鹿工務所
原田商会
日本セメント防水剤製造所
岡本好文園
木下謹三商店
日本洋瓦大阪出張所
日米建築資料
河村青写真調製所
桐田商会
阿部鉄工所
日本工剤
岡田建築材料店
日本建築紙工
島田硝子製造所
日本ペイント製造
穴原商会大阪支店
中村グラニット商会
三菱造船神戸造船所
シーベル・ヘグナー商会
大林組
山田大理石製作所

矢橋大理石商店
佐久間建材工業所
渡辺久雄商店
森川組
宮田鉄工所
大福海上火災保険
伊奈製陶
HANKEN SEISAKUSYO
三井物産
小野田セメント製造
永柳商店
城口研究所
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
池田建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所

竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
遠藤、南建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
亀谷開作
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎

山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店
鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
木村工務所
大阪耐火リノリウム
須賀商会
栄進社
松尾鉄骨橋梁
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
山本窯業商店
常盤貿易商会
高島屋呉服店
デウエット商会

田中昌司商店
大阪鉄扉製作所
萩原煖房工務所
東洋リノリューム
田中源太郎商店
建築金物商会